

# ことばの不思議：日本語と世界の言語

吉田和彦 [編]



## はじめに

京都産業大学の言語および文学分野の研究者はかなりの数にのぼり、これまで豊かな知的財産を蓄積してきました。しかしながら、ややもすればそれぞれのディシプリン内部で完結する個別的の研究にとどまり、近年注目を浴びているトランスディシプリンの立場からの総合的な研究の推進は十分とはいえませんでした。このような状況を打開し、本学のことばに関わる研究をより活性化するために2020年4月に設立されたのが、ことばの科学研究センターです。そして授業期間中ひと月に一度の頻度で研究会を開催することによって、多面的で広がりのある研究活動を展開してきました。もとよりことばの世界は実に奥深く、また多様性に満ちたものであります。本センターの研究目的は本学の言語・文学の研究者を結集し、また学外の研究者の協力も得ながら、日本を含む世界のことばの根底に潜むさまざまな課題を総合的に探究するとともに、その成果を発信することにあります。

ことばの研究の特徴は、そもそも大学の基礎教育に必要な専門分野を超え、さまざまな研究者が「ことばとは何か」という問いを繰り返す点にあると考えられます。すぐに解答が見つからない、難解な問いと言えます。この問いに答えるために、本センターの研究活動においては、多様性と対話を重視してきました。研究の対象がフィールドワークであれ、話し手のいない文献言語であれ、複数の言語のあいだの翻訳であれ、コーパスであれ、言語習得であれ、それぞれの研究対象のあいだには通底する人間言語の特徴があります。その本質的な特徴を明らかにすることは、個別的な研究分野内部だけの狭い視点では難しく、多様性を具えたアプローチによってはじめて可能となります。また、研究会活動においては、ことばの世界の多様性にふれるにとどまらず、専門分野の異なる研究者のあいだで実に自由闊達な意見交換がなされています。対話を通して得られた成果は決して少なくありません。

センターが蓄積してきた研究成果の一部は、2022年12月4日（日）の午後に京都産業大学むすびわざ館ホールで開催された、ことばの科学研究センター開設記念講演会において、5名の登壇者による連続講演というかたちで一般に披露されました。この取り組みはセンター開設直後

にすでに計画されていましたが，コロナ禍の影響を受け，延期せざるをえませんでした。本書はこの記念講演会の内容を中心にしたものです。なおセンターの活動につきましては，つぎのホームページで紹介されています (<https://www.kyoto-su.ac.jp/research/language/index.html>)。

本書の出版にあたっては，京都産業大学からの出版助成を受けました。また細心の注意を払ってこの論文集をまとめていただき，短期間のうちに刊行してくださった中西印刷株式会社の関係者，中西秀彦氏，中西明日輝氏，玉川智雄氏，村上智彦氏には深謝する次第であります。

おわりに，皆さま方の本センターに対するご支援を願ってやみません。

京都産業大学ことばの科学研究センター長  
吉田和彦

## 目次

はじめに	吉田 和彦	i
第1章 実験で探る子どものことば	鈴木 孝明	1
第2章 仏教漢文と日本書紀区分論	森 博達	15
第3章 英語の中の日本語 — 借用と変化のプロセス	加野 まきみ	37
第4章 宮沢賢治の作品から考える 日本語とドイツ語の「擬音語・擬声語」表現	島 憲男	63
第5章 19世紀後半から20世紀末までの 日本とロシアの文学作品における会話表現の比較	北上 光志	85



## 実験で探る子どものことば

鈴木 孝明

**【要旨】** 実験による「ことば」の研究例として、子どもの母語獲得を対象とした統語的ブートストラッピングに関する研究を紹介する。日本語の場合、格助詞の情報から動詞の他動性を特定し、動詞の使役性に関する意味推測が行われると考えられる。これを選好注視法により調査した Suzuki & Kobayashi (2017) の研究をとりあげ、母語獲得における格助詞の発達過程にも言及しながら、日本語における統語的ブートストラッピングについて考察する。

**キーワード：** 実験、母語獲得、日本語、統語的ブートストラッピング、格助詞

### 1. はじめに

「ことば」に関する実験研究というものがある。科学実験のようにフラスコやビーカーを使ったり火や薬品を使ったりすることはないが、通常は起こらない状況を作り出して、その中でヒトがどのように言語を使ったり理解したりするのかを調べるというものである。一般的には、この分野を心理言語学とよぶが、ヒトの頭の中、言い換えると、脳の中で何が起きているのかを調査する研究分野である。ここでは、その一例として子どもによる動詞の意味獲得に関する実験研究を紹介しながら、この分野でどのようなことが問題になって、どのようなことが明らかにされているのか紹介したい。

子どもの母語獲得において、動詞の意味を学習することは決して容易なことではない (Golinkoff & Hirsh-Pasek, 2008; Hirsh-Pasek & Golinkoff, 2006)。主に物体の名称を表す名詞とは異なり、動詞は動作や状態など、絶えず変化する出来事をさす。たとえば、「落とす」という動詞が意味するのは、ある物体を落ちていない状態から落ちた状態に変える動作である。しかし、その過程には、触ったり、動かしたり、押したり、といった別の動詞によって表される動作も含まれるかもしれない。よって、「落とす」という動詞はこうした一連の状況の中からある特定の一部分を切り取って

それをさす語ということになり、母語を獲得する子どもは、このような状況から動詞がさし示す意味を推測して学習し、最終的には大人と同じ知識を身につけなくてはならない。そこにはどのような仕組みがあるのだろうか。

動詞の意味を獲得するもっとも初歩的な学習方略の1つとして、統語的ブートストラッピング (syntactic bootstrapping) が提案されている (Gleitman, 1990)。ブートストラップとはブーツのファスナーを引き上げるつまみ部分のことで、英語には “To pull oneself with the bootstrap” という表現がある。これはブーツのつまみを持って自分で引き上げる、すなわち、「他人の助けなしに自分で困難から抜けだす」という意味を表す慣用句で、これに由来する造語として統語的ブートストラッピングという用語が使われ始めた。専門的には、動詞獲得の最初期にある子どもが「統語的な手がかりを利用して動詞の意味学習を行う」ことをさす。では実際にどのようなようにして統語的ブートストラッピングが働くのか見てゆく。

下記 (1) と (2) に示した英語の文では、造語動詞 (実験調査のために作られた現実には存在しない動詞) として *gorping* と *tamming* が使われている。もちろんこれだけでは、これらの語の正確な意味はわからないが *gorping* と *tamming* の意味が根本的に異なることは推測できるだろう。

- (1) John is *gorping* Mary.
- (2) John and Mary are *tamming*.

(1) の *gorping* は他動詞で、(2) の *tamming* は自動詞である。このような動詞の自他は、おおよそ使役性という意味に対応する。すなわち、(1) の他動詞 *gorping* は使役を (2) の自動詞 *tamming* は非使役と結びつく。

しかし、ここで注意しておかなくてはならないことが2点ある。1つは「使役」というのは言語学的に “X CAUSES Y to become Z” のように表すことができ、これは X が Y に働きかけて Y の状態変化や位置変化を意味するということである。よって、(3) のように単 *John* が *Mary* に何か行うことだけでは使役にはならない。動詞の *hit* は *Mary* の状態や位置の変化を表していないからである。

- (3) John *hit* Mary.

もう1つは、動詞の自他と使役という意味の対応は絶対的なものではな



いということである。自動詞で使役の意味を表すものは無いと考えられるが、他動詞で非使役を表す動詞は(3)も含めて多く存在する。よって動詞の自他と使役の対応関係はおおよそのものということになる。

これらをふまえて、統語的ブートストラッピングが行うことは、まず動詞が自動詞なのか他動詞なのかを判断することである。英語の場合は(1)や(2)からも明らかのように、他動詞はNP + V + NPという文で使われ、自動詞はNP + Vという文で使われる。このように動詞が現れる文の構造(構文)が統語的な手がかりとなって動詞の自他が決定される。すると、そこから動詞の自他と使役性に関する意味の対応が推測されるというのである。

英語を獲得する2歳児を対象とした実験では、この年齢ですでに子どもは統語的ブートストラッピングによる意味推測を行なっていることが示されている(e.g., Naigles, 1990, Yuan & Fisher, 2009)。その方法は後ほど詳しく紹介する選好注視法というもので、子どもは(1)のような他動詞文を聞かせたときは、使役の事象を示した動画の方を非使役の事象を示した動画よりも長く見つめ、(2)のような自動詞文を聞かせたときはこれとは反対に非使役の事象を使役の事象よりも長く見つめることがわかっている(Naigles, 1990)。

このような統語的ブートストラッピングの有効性は古くから知られているが、英語以外の言語に関しての調査は少ない。もしこれが普遍的な学習法略であれば、英語と異なる特徴をもつ日本語においても統語的ブートストラッピングが起こるはずである。本稿では、この点を調査したSuzuki & Kobayashi (2017)の研究を紹介するが、その前に日本語における統語的ブートストラッピングとはどのようなものか明確にしておきたい。

## 2. 日本語における統語的ブートストラッピング

日本語の文において、主語や目的語は格助詞によって示される。たとえば、前節で紹介した英語の他動詞文と自動詞文は、日本語ではそれぞれ(4)や(5)のように表すことができる。

(4) ともくんが ゆうちゃんを ねまってるよ。

(5) ともくとゆうちゃんが わげってるよ。

(4)の文では主格の格助詞「が」がついた「ともくん」が主語で、対格の

「を」によって示された「ゆうちゃん」が目的語である。よって、この文に使用されている造語動詞の「ねまってる」は他動詞ということになる。これに対して、(5)の文では「ともくんとゆうちゃん」に主格の「が」使用されているが、目的語が存在しない。よって、造語動詞「わげってる」は自動詞と考えられる。このように日本語では格助詞が手がかりとなり、主語や目的語といった文法関係が特定され、ここから動詞の自他を推測することが可能である。

ところが日本語の格助詞は主語や目的語などの文法関係と一対一の関係にはないことが知られている。たとえば以下の(6)における「英語が」のように、主格の「が」は主語だけでなく、可能動詞などではその目的語に使われることもある(久野,1973;柴谷,1978など)。

(6) ともくんが 英語が できる。

一方、対格の「を」に関しては、これが付与する項は目的語に限られるため(4)のように名詞句に「を」が使われていれば、それを含む文は他動詞文であると判断することが可能である。よって、この文で使われている動詞は他動詞で使役の意味を表す可能性があることになる。

ところが厄介なことに、日本語では主語や目的語は頻繁に文から脱落するという特徴がある。こうなると文の中に主語のみが使われている場合、それは目的語が脱落した他動詞文なのか、または自動詞文なのかの区別がつかない。さらに、主語も目的語も脱落した場合は、格助詞に関する情報が皆無なので動詞の自他に関する判断はまったくできないということになる。

よって、日本語を獲得する子どもが統語的ブートストラッピングという学習方略を使うためには、このような頼りにならないインプットをもとにするしかないことになる。実際の日本語母子会話におけるインプットで、格助詞がどれくらい使用されているのか調べた研究によると(Rispoli, 1991, 1995)、自動詞文の主格は8%、他動詞文の主格は4%で対格は7%、主格と対格が両方とも使用されているのはわずか1%にすぎないと報告されている。これらの数値は文中に主語や目的語が使用されていない場合を考慮していないため、動詞に対しての使用率を示しているわけではないが、それでも多くの場合、子どもに対しての語りかけに格助詞が使われていないことがわかる。このようなインプットをもとに、日本の子どもは統語的

ブートストラッピングによって動詞の使役性に関する意味推測をすることができるのだろうか。次節では日本語を対象とした実験研究の中から Suzuki & Kobayashi (2017) を紹介する。

### 3. Suzuki & Kobayashi (2017)

この研究では日本語を母語とする2歳児の子ども48名(平均年齢=2歳4ヶ月, 男児24名, 女児24名)を対象に, 特定の動画を見ている注視時間を指標として文理解を調査する選好注視法による調査が行われた。この方法では, 子どもは母親の膝の上に座りスクリーンに映し出された動画を見るだけで, 特に何かを答えることは要求されない。子どもがより長く見ていた動画の方がそうでないものよりも好まれる, すなわち, 特定の指示に対しての選択を示していると解釈する。

その手順は, まず学習フェイズにおいて図1に示すように, 2人の女性が会話を行う動画を提示する。その内容は表1に示す3通りで, 被験者はこのうちのどれか1つに割り当てられている。たとえば, SOV条件では, 造語動詞「ねまる」が「が」と「を」が付与される項とともに使用される。一方, OV条件では最初の導入以外は「ゆうちゃんを」のように, 主語が使われず「を」のみが造語動詞「ねまる」とともに使用される。また, SV条件では「ねまる」を自動詞として提示しているので, 「ともくとゆうちゃんが」のように2人の名前に「が」をつけて造語動詞「ねまる」が提示され「を」は全く使われていない。動画を見せられた子どもは, SOV条件とOV条件では造語動詞「ねまる」を他動詞として, SV条件では自動詞として提示されたことになる。

学習フェイズでは同じ動画を3回繰り返して提示した。このように, 会話のみを提示して動詞の意味推測を行わせるダイアログメソッドは, 比較的近年の調査で使われはじめたものである (Arunachalam & Waxman, 2010; Yuan & Fisher, 2009)。



図1 学習フェイズにおける会話風景

表1 学習フェイズにおける会話例

SOV 条件	OV 条件	SV 条件
A: ねえねえ。ともくんがゆうちゃんをねまってるよ。	A: ねえねえ。ともくんがねまってるよ。	A: ねえねえ。ともくんとゆうちゃんがねまってるよ。
B: えっ、誰が誰をねまってるの？	B: えっ、誰をねまってるの？	B: えっ、誰と誰がねまってるの？
A: ともくんがゆうちゃんをねまったんよ。	A: ゆうちゃんをねまったんよ。	A: ともくんとゆうちゃんがねまったんよ。
B: ほんま？ともくんがゆうちゃんをねまったんや。すごいね。	B: ほんま？ゆうちゃんをねまったんや。すごいね。	B: ほんま？ともくんとゆうちゃんがねまったんや。すごいね。
A: うん、すごいね。	A: うん、すごいね。	A: うん、すごいね。

次に、異なる事象に対する注視時間のベースラインをとる。ここでは図2に示したような2つの動画が同一スクリーン上に横並びに示された。2つの動画は異なる事象を表していて、左の動画では男性が女性の座っている椅子を回すという使役事象が示される。これに対して、右の動画では男性と女性の2人が同時に胸のあたりで手を回すという非使役事象が示される。このベースラインでは単に「見てみて」という音声ながれるだけなので、子どもは通常はどちらか一方の動画に注目するということはない。よって、この時のそれぞれの動画への注視時間をベースラインとして記録する。



図2 ベースラインとテストフェイズで使用した使役事象（左）と非使役事象（右）の例

最後に、テストフェイズにおいて、ベースラインで使用したものと同じ2つの動画（図2）を見せながら「ねまっているのどっち？」という質問を行う。そして、この時の子どもによるそれぞれの動画への注視時間をベースラインと比較する。もし子どもが、学習フェイズで聞いた動詞「ねまる」を他動詞として捉えていれば、ベースラインよりも使役事象の動画を長く見ることが予測できるし、これとは逆に「ねまる」を自動詞として捉えていれば、ベースラインよりも非使役事象の動画を長く見ると予測できる。このようにして、それぞれの条件に均等に16名ずつの子どもを割り当てて、「ねまる」と「わげる」という造語動詞を使用し、これらを異なる2つの事象のセットと組み合わせて調査を行った。

その結果を示したものが図3である。ここでは縦軸が使役事象を見た割合（%）を示しているので、非使役事象を見た割合は100%から使役事象の割合を引いた数値になる。白いバーで示されたものがベースラインで、それぞれの条件で若干異なるがほぼ50%前後であることがわかる。つまり、単に図2の動画を見せられた場合、子どもは両方の動画を同じくらいの割合で見るということが確かめられた。これに対してグレーのバーで示されたテストフェイズの結果は、どの条件においてもベースラインとの有意差が認められた。すなわち、SOV条件とOV条件では、ベースラインよりも使役事象への注視時間が有意に長く、SV条件では逆に、ベースラインよりも使役事象への注視時間が有意に短かった。これらの結果は、この実験に参加した2歳の子どものたちが、文の形から他動詞と自動詞を区別し、今まで一度も聞いたことのない造語動詞の意味に関して、その使役性を推

測していることを表している。すなわち、日本語においても統語的ブートストラッピングの有効性が示されたことになる。

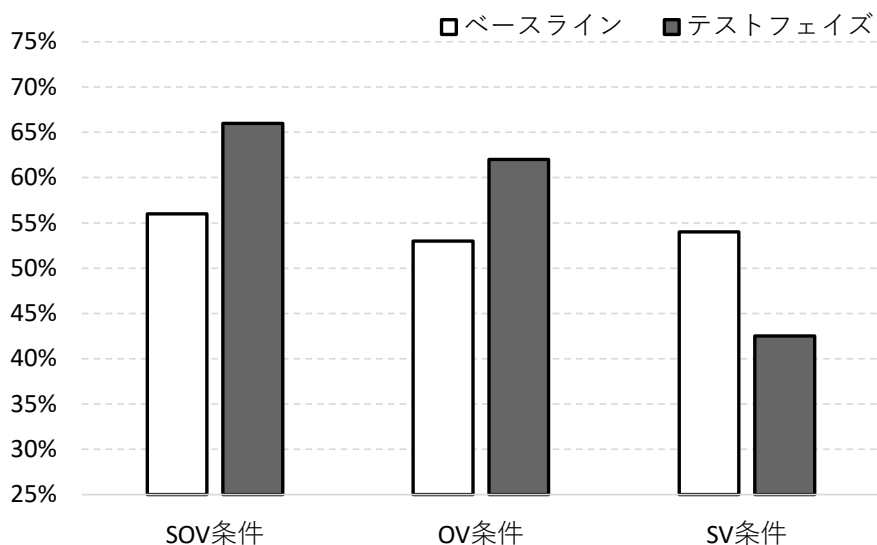


図3 ベースラインとテストフェイズにおける使役事象への平均注視率

#### 4. 統語的ブートストラッピングと格助詞の獲得

統語的ブートストラッピングは、もともと英語を母語として獲得する子どもを対象とした研究によってその有効性が確かめられてきた。しかし、本来の提案は英語に限ったものではなく、どの言語にも当てはまる普遍的なものだと考えられる (e.g., Landau & Gleitman, 1985)。もちろん、言語によって手がかりとなる情報は異なるかもしれないが、どの言語においても子どもは統語的な情報、すなわち文の構造 (構文) をもとにして動詞の意味推測を行うというのである。

ここでは、日本語の場合に手がかりとされる格助詞に関して、その発達研究で明らかにされていることに言及しながら、統語的ブートストラッピングの実験結果 (Suzuki & Kobayashi, 2017) に考察を加えたい。

前述の通り、日本語の統語的ブートストラッピングにおける手がかりは格助詞である。格助詞は形態素であり、階層構造に付与される抽象格と区別して形態格とよばれる (e.g., Kuroda, 1988)。日本語の統語的ブートストラッピングでは、この形態格を手がかりとして以下 (7) のような判断が

行われると考えられる。

(7) 対格の「を」が項に付与されれば他動詞とせよ

動詞の自他を判断するために必要なのは、目的語が使用されるかどうかという情報であり、その判断基準が(7)に示した対格「を」の使用ということになる。もしこれが例外なく適用できれば、他動詞の特定は比較的容易な作業だと考えられる。しかしながら、「を」には目的語以外を示す用法も存在する。たとえば、「家を出る」というような起点を表す場合や、「この道を通る」のように経路を示す用法である。これらは文法関係を示す格助詞の「を」とは区別されるが、表面上見分けることができない。このような「を」の存在は、統語的ブートストラッピングにおける障害とはならないのだろうか。

結論から言うと、問題ではないと考えられる。なぜならば、他動詞のすべてが使役を表すわけではないからである。前述のとおり動詞の自他と使役の対応は絶対的なものではない。これはあくまでも傾向であり、その傾向に従った学習方略が統語的ブートストラッピングである。よって、もし起点や経路を表す「を」が含まれる文の動詞が誤って他動詞だと判断されても、これが反例となって動詞の意味学習に影響を与えるとは考えにくい。統語的ブートストラッピングが可能にすることは、他動詞と判断された動詞に使役の意味を付する可能性である。実際、第3節で紹介した実験の参加者は、インプットにおいて起点や経路を表す「を」を受け取っている子どもたちだと考えられるが、この場合でも、「を」と共起する動詞を使役という意味に結びつける傾向があることが示されている。すなわち、例外的な「を」に影響されることなく、日本語を獲得する子どもは、2歳という比較的低い年齢で(7)を利用して使役性に関する意味推測を行なっているということである。

このような事実が明らかにされた一方で、子どもが使用する格助詞には多くの誤りが伴うこともわかっている。このことは、統語的ブートストラッピングの実験結果と矛盾するものではないのだろうか。

格助詞の使用が始まるのは、生後1歳半以降である(永野, 1959; 大久保, 1967)。しかし、格助詞の初出がそのまま獲得と考えられるわけではない。自然発話を対象とした研究では、格助詞の誤りがほとんど見られなかったという報告がある一方で(Morikawa, 1997)、誤りが多く観察されたとい

う研究もあるからである（横山，1986，1990，1991）。そこで，実験研究に目を向けてみると，多くの研究が格助詞の誤りを報告していることがわかる。

たとえば語順との関係を探った文理解調査では，3歳から6歳の子どもは，(8)のようなOSV語順の文（かき混ぜ文）を誤って基本語順の文（9）と同じように解釈する誤りが多く報告されている（e.g., Hakuta, 1982; Hayashibe, 1975, 岩立, 1980）。

(8) パンダさんを きつねさんが 蹴りました。

(9) パンダさんが きつねさんを 蹴りました。

これは，文に現れる名詞句に対して，「動作主・被動作主」の順番で意味役割を与えるストラテジーによるものだと提案されているが（e.g., Hayashibe, 1975），それと同時に，文理解のために格助詞が正確に利用できないことを示している。そこで鈴木（2007）は，語順の影響を取り除くために，単文に主語または目的語のどちらか1つしか使用されない（10）や（11）のような文の理解を調査して，格助詞のみを手がかりにした文理解の調査を行なった。

(10) パンダさんが たたきました。

(11) パンダさんを たたきました。

その結果は，3歳から5歳の子どもに文脈なしで実験文を与えた場合，（10）の主語文よりも（11）の目的語文に誤りが多く，目的語文の正解率は年少児で38.3%，年中児でも61.7%と決して高くないというものだった。このことは，この年齢の子どもでも格助詞を利用した文理解に問題があり，特に「を」を手がかりとする文理解には困難が伴うことを示している。また，このような格助詞に関連する誤りは文理解にとどまらず，文産出を調査した実験研究でも報告されている（Suzuki, 2000）。

これらの格助詞に関する獲得研究の結果は，2歳児を対象とした統語的ブートストラッピングの結果と矛盾しているように見えるかもしれない。しかし，格助詞が子どもの言語獲得や言語理解においてどのような役割を担っているのか，その異なる側面に注目すると，獲得の発達過程を示す興味深い事実が浮き彫りになってくる。

統語的ブートストラッピングにおける格助詞は動詞の他動性を特定化す



るための手がかりとして利用されるものだった。これに対して文理解における格助詞は、項の意味役割を特定化するための手がかりである。この場合、まず動詞との関係において、格助詞の情報により項の文法関係を特定することになる。たとえば、動詞「たたく」に対して、主格が付与した名詞句を主語、対格が付与した名詞句を目的語とする。次に、これら文法関係が特定化された名詞句に対して、意味役割を付与することになる。たとえば、主語に対して動作主、目的語に対して被動作主のように、動詞「たたく」との関係において意味役割を決定しこれが最終的な文理解につながる。しかし、ここで注意したいのは、格助詞と意味役割の対応はないということである。たとえば受動態の文では、主格の「が」が付与する項は主語ではあるが、その意味役割は動作主ではない。つまり、格助詞は文法関係を特定化するための手がかりであって、意味役割と直接対応するものではないということである。よって、もし単純に、主格の付与した名詞句を動作主だと子どもが解釈するというようなことが起これば、誤りとして表出する可能性がある。

文理解の過程にはこのような複雑で抽象的な文法操作が含まれており、インプットをもとにした学習によりこれが獲得されると仮定した場合、ここに多くの時間が必要とされることは不思議ではないのかもしれない。これに対して統語的ブートストラッピングが利用する格助詞情報は、抽象的な操作ではあるが(7)に示すような比較的単純なものである。この場合も、日本語における手がかりは格助詞であり、インプットからこのことを学ばなければならない。しかしながら、目的語を下位範疇化する動詞が他動詞であるということは言語普遍的な特徴である。そう考えた場合、あらゆる言語に共通する普遍的かつ本質的な特徴を利用するために、言語獲得の初期段階でインプットから必要な情報を取り出しそこに規則を見出すことは、驚くべき能力であることに違いないが、それほど不思議なことではないのかもしれない。

## 参考文献

- Arunachalam, S., & Waxman, S. R. (2010). Meaning from Syntax: Evidence from 2-year-olds. *Cognition*, 114(3), 442-446.
- Gleitman, L. (1990). The structural sources of verb meanings. *Language Acquisition*, 1(1), 3-55.
- Golinkoff, R. M., & Hirsh-Pasek, K. (2008). How toddlers begin to learn verbs. *Trends in*

- Cognitive Sciences*, 12(10), 397–403.
- Hakuta, K. (1982). Interaction between particles and word order in the comprehension and production of simple sentences in Japanese children. *Developmental Psychology* 18(1), 62–76.
- Hayashibe, H. (1975). Word order and particles: A developmental study in Japanese. *Descriptive and Applied Linguistics* 8, 1–18.
- Hirsh-Pasek, K., & Golinkoff, R. M. (Eds.). (2006). Action meets word: How children learn verbs. Oxford University Press.
- 岩立志津夫 (1980). 「日本語児における語順・格ストラテジーについて」『心理学研究』51(5), 233–240.
- 久野暲 (1973). 『日本文法研究』大修館書店.
- Kuroda, S-Y. (1988). Whether we agree or not: A comparative syntax of English and Japanese, In W. J. Poser (Ed.), Papers from the Second International Workshop on Japanese Syntax, Center for the Study of Language and Information, Stanford.
- Landau, B., & Gleitman, L. (1985). Language and experience: Evidence from the blind child. Harvard University Press.
- Morikawa, H. (1997). Acquisition of case marking and argument structure in Japanese. くろしお出版
- 永野賢 (1959). 「幼児の言語発達について－主として助詞の習得過程を中心に－」『ことばの研究』383–396. 国立国語研究所論集 1.
- Naigles, L. (1990). Children use syntax to learn verb meanings. *Journal of Child Language*, 17(2), 357–374.
- 大久保愛 (1967). 『幼児言語の発達』東京堂出版.
- Rispoli, M. (1991). The acquisition of verb subcategorization in a functionalist framework. *First Language*, 11(1), 41–63.
- Rispoli, M. (1995). Missing arguments and the acquisition of predicate meanings. In M. Tomasello, & W. E. Merriman (Eds.), Beyond names for things: Young children's acquisition of verbs (pp. 331–352). Lawrence Erlbaum.
- 柴谷方良 (1978). 『日本語の分析』大修館書店.
- Suzuki, Takaaki (2000). Multiple factors in morphological case-marking errors. In: Yuriko Oshima-Takane, Yasuhiro Shirai and Hidetoshi Sirai. (Eds.), *Studies in language sciences* 1, 123–134. Chukyo University.
- 鈴木孝明 (2007). 単一項文の理解から探る幼児の格助詞発達『言語研究』132号, 55–76.
- Suzuki, T., & Kobayashi, T. (2017). Syntactic cues for inferences about causality in language acquisition: Evidence from an argument-drop language. *Language Learning and Development*, 13(1), 24–37.
- Yuan, S., & Fisher, C. (2009). “Really?” she blicked the baby? Two-year-olds learn combinatorial facts about verbs by listening. *Psychological Science*, 20(5), 619–626.
- 横山正幸 (1986). 「幼児初期の助詞「ガ」の誤用について」『九州心理学会第47回発表論文集』
- 横山正幸 (1990). 「幼児による助詞の誤用の出現時期と類型について－R児の場合－」パン F. C. 他 (編)『言語行動のパリエーション』(pp. 207–229). 文化

評論出版.

横山正幸 (1991). 「幼児はなぜ目的語を格助詞ガで標示するのか」パン F. C. 他 (編)  
『社会における言語機能の諸相』 (pp. 144-163). 文化評論出版.



## 仏教漢文と『日本書紀』区分論

森 博達

【要旨】『日本書紀』は表記の性格によって、 $a$ 群（巻14・21・24・27）、 $\beta$ 群（巻1・13・22・23・28・29）、巻30に三分される。その文章には仏教漢文の影響も見られる。従来の研究で、①『金光明最勝王經』が $a$ 群前半の潤色に用いられたこと、② $\beta$ 群に偏在する「未經幾〇」が仏典表現であること、③主に $\beta$ 群に偏在する誤用「亦+S」が仏典では常見されること、④主に $a$ 群に偏在する冷僻字「導」が朝鮮俗漢文のみならず仏典にも現れていることが分かった。さらに石井公成は、巻19「欽明紀」から巻22「推古紀」の四巻の中で、⑤「到於～」など多くの仏教表現を摘出した。朱慶之や遇笑容等は仏教漢文の語法特徴を体系的に提示している。その中で書紀に現れている特徴は、⑥四字格・⑦排除の介詞「除」・⑧受身「所V」・⑨完成態「V已」・⑩「SN是」式判断句・⑪原因の「～故」である。書紀に見える分布を調べると、②③⑤⑦⑩は $\beta$ 群に、①④⑥⑧⑨⑪は $a$ 群に偏在していた。この他に、 $\beta$ 群に偏在する五種の奇用の仏典での使用状況を調べた結果、この五種の奇用、すなわち「因以（接続詞）」「遣～令～（使役）」「有～之情」「V之日」「爰（語気助詞）」も仏典表現であることが分かった。私見では $\beta$ 群の述作者は山田史御方である。移民系氏族の御方は新羅に留学し、帰国後還俗して大学で教えた。仏教漢文の存在は御方の経歴からも首肯される。一方、 $a$ 群の仏典表現や誤用・奇用は、巻14・19・21・24・25を中心として特定の記事に集中する。私見では本来 $a$ 群は正格漢文で綴られた。しかし編修の最終段階で、正格漢文に暗い三宅臣藤麻呂が $a$ 群を中心に特定の記事に加筆した。藤麻呂も移民系氏族であるが、その文章から仏典に親しんでいたことも分かる。

キーワード：日本書紀区分論、仏教漢文、正格漢文、倭習、変格漢文

### 1. はじめに

『日本書紀』の文章は仏典の影響を大きく受けている。小稿では第一に、従来指摘された書紀における仏典表現を列挙する。第二に、近年の仏教漢文の研究を紹介し、仏典の語法特徴がどのように書紀に現れているか検討する。第三に、書紀の変格表現の幾つかが仏典表現であったことを明らかにする。最後に、書紀における各種の仏典表現の偏在を示し、書紀各群の述作の性格と編修過程を解明する。

## 2. 『日本書紀』 区分論

私見では、『日本書紀』(30巻, 720年撰)は表記や文章の性格によって、 $\alpha$ 群(巻14～21・24～27)、 $\beta$ 群(巻1～13・22～23・28～29)、巻30に三分される。

歌謡や訓注の「万葉仮名」は、 $\alpha$ 群は正音、 $\beta$ 群は倭音によって表記されている。文章については、 $\alpha$ 群は基本的に正格漢文によって綴られ、 $\beta$ 群は誤用や奇用に満ちている。

$\alpha$ 群は本来、持統朝に続守言と薩弘恪が綴り、 $\beta$ 群は文武朝に山田史御方が書いたと推測している。元明朝の和銅7年(714)、紀朝臣清人と三宅臣藤麻呂に国史撰述の詔勅が下った。書紀編修の追加人事だろう。清人は主に巻30を撰述し、藤麻呂は $\alpha$ 群を中心に潤色や加筆が行ったと考えている。巻30の文章は正格漢文に近いが、 $\alpha$ ・ $\beta$ 両群とは文体が異なる。また藤麻呂の潤色・加筆の際に、誤用や奇用が混入した。(森 1991『古代の音韻と日本書紀の成立』・1999『日本書紀の謎を解く―一述作者は誰か―』・2011a『日本書紀 成立の真実―書き換えの主導者は誰か―』等参照。)

## 3. 書紀における仏教漢文の影響：従来の研究

書紀の漢文の誤用や奇用には倭習のほかに、朝鮮俗(変格)漢文や仏教漢文の影響がある。朝鮮変格漢文の影響については、森(2009)「日韓俗漢文の世界―『日本書紀』区分論と終結辞の『之』字―」(森 2011a『日本書紀 成立の真実』再録)などで論じた。

仏教漢文については、『金光明最勝王経』(703年, 義浄撰)が潤色に用いられたことが分かっている。小島憲之(1962)『上代日本文学と中国文学(上)』によれば、巻15・16・17・19・20・21に利用されているという。 $\alpha$ 群に偏在しており、後人による潤色加筆と推測される。

瀬間(1994)『記紀の文字表現と漢訳仏典』は、巻11「仁徳紀」の兄弟皇位相譲譚や巻2「神代紀・上」の火中出生譚の物語について、仏典との影響関係を論じた。前者は『雑宝蔵経』(472年訳)、後者は『法苑珠林』(659年撰)が影響を与えたという。

瀬間(1999)「『未經』『既経』―師説『太安万侶日本書紀撰修参与説』をめぐって―」は太田善磨説を継いで、 $\beta$ 群に偏在する「未經幾〇」という語句が『経律異相』(516年撰)等の仏典に多く見られる常套句であることを明らかにした(森 1999『日本書紀の謎を解く』参照)。

森 (2011a) は、副詞「亦」が主語の前に置かれる誤用が  $\beta$  群に偏在することを指摘したが、石井公成氏のご示教によって、仏教漢文ではこの用例も多いことを知った。例えば、『法鏡経』(後漢・安玄共嚴仏調訳)に、「亦我當得無上正眞道」がある(下線部は森)。

森 (2011a) はさらに冷僻字「遵」が朝鮮俗漢文のみならず、仏典にも用いられていることを指摘した。「汝自遵者。誰爲證知。」(北魏・吉迦夜共曇曜訳『雜寶藏經』巻7)である。このときは『高麗大藏經異體字典』(李圭甲編 2000年、高麗大藏經研究所)に拠った。いま新たな仏典から2例を補充しよう。

- (1) 使到王所。具遵其事。王聞是已。不能違情。(北魏・慧覺等訳『賢愚経』巻9)
- (2) 此非道諦之道。乃是遵説之道也。(隋・吉蔵『法華義疏』巻6)

「遵」字は書紀では  $a$  群に8例、 $\beta$  群に3例が現れる。 $a$  群の内訳は、巻14・15・19(2例)・20・21・24(2例)である。このうち、巻19(2例)・20・21の4例は朝鮮関係記事。巻24の2例は上宮家滅亡記事であり、後人の加筆と推測される。 $\beta$  群の3例はいずれも巻23「舒明即位前紀」で、舒明と山背大兄の後継争いである。この記事は $\beta$  群の中でも漢文の変格用法が特に著しい(森1999参照)。書紀の「遵」字使用部分は大半が後人の加筆ではないかと推測される。

#### 4. 石井公成氏の画期的研究

石井 (2015) 「『日本書紀』における仏教漢文の表現と変格語法(上)」は画期的な論文である。仏教漢文の表現や変格語法の用例を、仏教公伝記事を含む巻19「欽明紀」から巻24「皇極紀」の上宮家滅亡までの記述のうちに探って、数々の仏典表現を摘出した。以下にその幾つかを紹介しよう。

巻19「欽明紀」の「即位前紀」には靈驗記仕立ての記事があり、「忻喜遍身」「歎未曾夢」「汝有何事」「而樂龜行」「俱令全命」は仏典表現(下線部)だと云う。

また、仏教公伝の記事は、「無不尊敬」など『金光明最勝王経』を用いており、「懷隨意宝」「無所乏」「且夫遠自天竺」「歡喜踊躍」も仏典表現だと指摘する。「天皇聞已」の「聞已」は漢訳經典の定型句であることも指

摘している（「V + 已」は後述する）。さらに仏教導入論争の記事についても、「相貌端嚴」「全未曾有」が仏典表現だという。

巻20「敏達紀」の「汝可独行仏法」は仏典にのみ見られ、巻21「用明紀」の「天皇為之悲慟」について、「為之～」という四字句は仏典に多用されると説く。

巻21の「崇峻即位前紀」には仏法受容をめぐる「蘇我・物部戦争」の記事がある。厩戸皇子が「將無見敗，非願難成」と云って四天王像を作り、蘇我馬子が寺塔を立てる誓言を発する。誓ってから進軍する場面は、「誓已嚴種種兵，而進討伐」とある。夙に小島（1962）はこれらの下線部が『金光明最勝王経』による潤色だと指摘している。この記事は正格漢文として見れば、誤用や奇用も混じる。「今亦然之。」の「之」は終結辞であり、朝鮮変格漢文に常見され、書紀β群でも頻用されている。「蘇我馬子大臣又發誓言」の「又」は「亦」の誤り。「助衛於我」は「於」をヲ格に用いた奇用（これが仏教漢文であることは後述する）。

ここに続く文章について、石井（2015）は「忽然自敗。合軍悉被衣」「眷属」「亦依本願」が仏教表現だという。さらに捕鳥部万の奮戦の記事に見える「万衣裳弊垢，形色憔悴」は、『法華経』「信解品」による潤色だと説く。この記事にも漢文の誤用がある。万が包圍される場面に「指揺竹馳言」とあるが、正格漢文では「指」に「指さす」という動詞の用法はあっても、「～に向かって」という介詞の用法はない。書紀にはこの誤用が4例あり、他の3例はβ群に偏在する（森2011a参照）。石井（2015）は、「この戦闘場面を書いたのは、『法華経』を暗誦し、仏教漢文になじんでいる人物、しかも初歩的な誤りを含む漢文しか書けない人物」という。

巻22「推古紀」はβ群に属し、変格用法に満ちている。11年2月の征新羅大將軍来目皇子が薨去する記事の末尾に、「故猪手連之孫曰娑娑連。其是之縁也。」とある。石井（2015）によれば、「其是之縁也（其れ是の縁なり）」という表現は、日本にしか用例が無く、中国仏教文献では、「A，B之縁也」「A是B之縁也」の形が普通だと指摘する。書紀では他にはβ群にのみ5例見えており、そのうち3例が朝鮮関係記事だという。これを受けて、葛西（2020）「日本書紀における語りの方と定型化一文末表現「縁也」による歴史叙述」は、「其是之縁也」の類句を32例挙げ、すべてβ群に偏在することを明らかにした。

石井（2015）はさらに「片岡山飢人説話」の「到於墓所」は『経律異相』



に1例見られるという。「到於仏所」「到於王所」は仏典の定型句だが、中国文献では「到於～」の形はきわめて稀で、「到於～」は四字句にするための仏教表現だと説く。書紀にはβ群に14例、α群に3例が用いられている。β群の内訳は、巻1に6例、巻2に4例、巻5・6・7に各1例、巻22に1例である。α群は巻14・21・25に各1例用いられている。α群の3例はつぎのとおり。

- ① 巻14：身狭村主青等，將吳所獻二鵝，到於筑紫。〈筑紫に到る〉
- ② 巻21：馬子宿禰即便隨去，到於磐余行至於池邊而切諫之。〈磐余に到りて〉
- ③ 巻25：其表稱，緣奉國政到於京民，官留使於雜役，云々。〈京に到れる民〉  
大化の詔勅

①は呉国から鵝鳥を持ち帰る記事。「恐怖憂愁，不能自默」や「請以贖罪。天皇許焉」のように四字句が多い。直前に「埴輪馬」の挿話があり、「解鞍秣馬眠之」という変格の終結辞を用いている。また『文選』により潤色するも、「超摠絶於埃塵」と改変している。後述するように、ヲ格に「於」を当てるのは仏教漢文の用法である。①も後人による加筆の可能性が高い。

②は白話の副詞「即便（すぐに）」を用いているが、これは仏典にも頻出する。また前後に「外聞斯計，詣皇子所，即逢門底。」「不近刑人。不可自往。」のように四字句が多い。

③は大化の詔勅。大化の詔勅はα群のなかでも倭習が集中し、後人の加筆がある。

## 5. 仏教漢文

近年、中国では仏教漢文の語学的研究が盛んになっている。①朱慶之(1992)『佛典與中古漢語詞彙研究』、②朱慶之編(2009)『佛教汉语研究』、③蔣紹愚・胡勅瑞編(2013)『汉译佛典语法研究论集』により一端を紹介する。まず「仏教漢語」の定義と性格から始める(和訳は森)。

朱慶之(2001)「佛教混合汉语初论」(②)は「仏教混合漢語」と称し、次のように定義する(下線部は森)。

仏教混合漢語はその他の中国文献の言語とは明らかな差異があり、非自然的に産み出された独特の変体である。それは主に二種の混合

に表われている。一つは漢語と大量の原典言語要素の混合であり、二つは文言文と大量の口語俗語や非規範的な要素の混合である。(6頁)

遇笑容 (2007)「理论与事实：语言接触视角下的中古译经语法研究」(③再録)はこう云う。

仏典漢訳の早期の訳者は、主に西域の僧侶であった。訳経の言語は彼らが漢語(中国語)を学習した結果であり、インド・西域の言語と漢語を仲介する性質をもっていた。言語接触によって、漢訳仏典に特殊な語彙や語法が生じたが、それらの一部は次第に漢語の中に吸収されていった。(260頁)

朱(1992)は「佛典言語」の特徴を「文体研究」と「語体研究」の二面から説明する。

仏典の文体はリズム感に富み、散文でも韻文でもない印象を与える。リズム感というのは、仏典の文章が主に四字句から成っているからである。訳経が始まった当初、後漢の安世高や支婁迦讖の訳文は基本的に散文的であり「四字格」を求めなかった。しかし曇果共康孟詳訳(207年)『中本起経』あたりから突然に「四字格」を採用し、これが急速に漢文仏典の主要な文体になったという。

「語体研究」については、「語法の特徴」と「語彙の特徴」に二分し、前者では、「1. 疑問句例」「2. 排除式例」「3. 被動句例」「4. 対話例」の四種を挙げる。これを総合して、「佛教混合言語」の語体の性質は、「純粹口語と書面語の中間に存在する」と説く。「4. 対話例」は仏典の対話文では生き生きとした自由な文体を用いると云い、具体例は第二章以下で取り上げる白話語彙に譲っている。

以下では、朱(1992)の指摘した仏教漢文の四字格、および語法の特徴の前三種を取り上げて、書紀の文章を検討しよう。

## 6. 『日本書紀』でヲ格に「於」字を当てる用例

書紀でも四字句の文章は多いが、それだけでは仏教漢文の影響とは断言できない。しかし仏典では四字句を作るために不要な助字を加えることがあり、さらには四字句以外でも用いられることになった。夙に周一良

(1944)「中国的梵文研究」(②に再録)は、助詞「於」字を取り上げている。先秦兩漢時代の漢籍では、「於」字を他動詞と目的格の間に用いることは無かったという(森按：皆無ではない。例えば、『論語・雍也』に「君子博学於文」)。この特別な用法は魏晉六朝の訳経において初めて現れたと説く。西晋・竺法護訳『佛説海龍王經』の「護於法音」「見於要」、後秦・鳩摩羅什訳『法華經』の「擊於大法鼓」「供養於諸佛」、同じく羅什訳『童受喻鬘經』の「得於聖道」など、枚挙に遑ないという。

実は書紀にもこの奇用がある。ヲ格に「於」(および類字「乎」「于」)を用いる例である。結局、これは仏教漢文だったのだ。森(2011)では「岩波書店・日本古典文学大系本」と「小学館・日本古典文学全集本」がともに「ヲ」を送っているものを掲げた(訓読は後者による)。以下の22例である。

- ① 卷5：出雲振根主于神宝。〈神宝を主れり〉
- ② 卷14：小鹿火宿禰深怨乎大磐宿禰，〈深く大磐宿禰を怨み〉朝鮮関係記事
- ③ 卷14：超摠絶於埃塵，〈埃塵を絶ち〉潤色
- ④ 卷15：天皇即遣使，噴讓於上道臣等，而奪其所領山部。〈上道臣等を噴讓めて〉
- ⑤ 卷18：每念於茲，憂慮何已。〈茲を念ふ毎に，憂慮ること何ぞ已まむ〉
- ⑥ 卷18：以示於後，式觀乎昔。〈式ちて昔を觀しむべし〉
- ⑦ 卷18：元元蒼生，樂於稼穡，〈稼穡を樂しみ〉潤色
- ⑧ 卷19：遣××伐于高麗。〈高麗を伐たしむ〉朝鮮関係記事
- ⑨ 卷20：汝若不愛於学，〈学ぶことを愛まざらましかば〉天皇の發話
- ⑩ 卷20：可勤修乎任那之政也。〈任那の政を勤修むべし〉朝鮮関係記事，詔勅
- ⑪ 卷21：助衛於我使獲利益，〈我を助け衛りて〉守屋滅亡
- ⑫ 卷21：恐嫌於己，〈己を嫌ひたまふらむことを恐り，〉崇峻暗殺
- ⑬ 卷21：馬子宿禰詐於群臣〈群臣を詐りて〉崇峻暗殺
- ⑭ 卷21：乃使東漢直駒殺于天皇。〈天皇を殺せまつらしむ〉崇峻暗殺
- ⑮ 卷22：或病或使，有闕於事。〈事を闕ること有り〉憲法十三條
- ⑯ 卷25：每念於斯，〈斯を念ふ毎に〉大化詔勅
- ⑰ 卷25：惟此天地，生乎万物。〈万物を生ず〉大化詔勅

- ⑱ 卷 25：必先於近。〈必ず近きを先とせよ〉大化詔勅  
 ⑲ 卷 25：天皇恨欲捨於国位〈国位を捨りたまはむと欲し〉  
 ⑳ 卷 27：遣××救於百濟〈百濟を救はしむ。〉朝鮮関係記事  
 ㉑ 卷 29：大津皇子謀反於皇太子。〈皇太子を謀反けむとす〉  
 ㉒ 卷 30：諫争天皇欲幸伊勢，妨於農事。〈農事を妨げたまふことを〉

## 7. 後人による加筆

以上を一見すれば、分布の偏りが明らかである。β群は⑱⑲⑳の3例、これと㉒の卷30を除いた18例はすべてα群である。β群3例のうち、⑲は書紀の最古の写本である「岩崎本」（平安中期）では、「事に闕ること有り」と訓んでいる。また、㉑も「小学館本」の現代語訳では、「皇太子に対して謀反を起こした」となっている。かくてβ群の真の例外は⑱のみとなる。

α群の18例は、内容によって幾つかに分類できる。③と⑦はそれぞれ『文選』と『漢書』による後人の潤色。潤色の際に原文が改変され、筆癖が現われたものである。④の記事は前後と調和せず、後人による不注意な加筆と考えられる。

⑤と⑥は安閑天皇が大伴金村の進言を納れて皇后と妃に屯倉を賜る記事。この中間には、「亦臣所憂也。〈亦臣も憂へたてまつる所なり〉」という一句がある。「亦」は普通副詞なので、正格漢文では主語の後に置かれ、「臣亦所憂也」となる。前述したように、この誤用はβ群に偏在し、仏教漢文にも常見される。この挿話も後人の加筆だろう。

⑯⑰⑱⑲は卷25「孝徳紀」。そのうちの⑯⑰⑱は大化の詔勅である。森（1999）や森（2011a）で指摘したように、「孝徳紀」の詔勅は倭習に満ちている。漢籍による潤色時の誤用も含まれている。また、702年の「大宝令」頒下後に使用されることになる「御宇」という表記も、3例現われている。後人が詔勅を中心として加筆したのだ。4例の「於」「乎」の奇用も加筆者の筆癖だろう。

⑧は船史の祖、王辰爾が「烏羽の表」を解説した記事。この一節には倭習もある。

又高麗上表疏，書于烏羽。〈また高麗の上れる表疏，烏羽に書けり〉  
 「又」は誤用。累加を表す接続詞は、「又」ではなく「且」が相応しい。  
 字随羽黒，既無識者。〈字，羽の黒き随に，既に識る者無し〉。

「既」は奇用。倭訓の「すでに」に「まったく」という意味があるので生じたのだろう。

②⑧⑩⑳の4例は朝鮮関係記事である。拙著で指摘したように、書紀の朝鮮関係記事には、原史料を尊重した「準引用文」もあり、後人の加筆も見られる。

⑪⑫⑬⑭の4例は巻21「崇峻紀」で、そのうち⑫⑬⑭は巻末の崇峻暗殺の記事である。

この巻末には「所」字の誤用もある。4年4月条に、「葬訖田天皇於磯長陵。是其妣皇后所葬之陵也」である。妣皇后は葬られる対象なので、正格漢文では「所」字に前置できない。後述の「10 被動句例」に入れるべきであった。「妣皇后の葬られたまひし」と受身に訓む仏教漢文である。また5年11月条の分注に、「於是馬子宿祢聽而驚之。」とあるが、終結辞「之」の奇用だ。「4」で指摘したように、「崇峻紀」への加筆は巻末だけではない。

## 8. 朱説の「疑問句例」

朱（1992）が仏教漢文の「語法の特徴」として挙げた第一項目は「疑問句例」であった。口語化した「正反並列法」と書面語的な「否定詞のみで反項を表す方法」に二分している。

仏典での前者の用例は後漢から東晋の訳経で、5例を提示している。2例のみ紹介する。

- (1) 問：「坐與行為同不同？」（後漢・安世高訳『大安般守意經』上，15）
- (2) 聞者生疑：「為爾不爾？」沈吟而住。（東晋・佛陀跋法顕訳『摩訶僧祇律』9，22）

書紀には類句が一例も見いだせない。

仏典での後者の用例については、朱（1992）は次の1例のみ提示している。

- (3) 「…是男子為黠不？」須菩提言：「為不黠。」（後漢・支識訳『般若道行品經』4，8）

この用法は仏教漢文のみならず、漢籍でも次のように会話文で屢々用いられている。

- 1) 吳楚罷不？（前漢『史記』「袁盎晁錯列伝」）
- 2) 尊君在不？（劉宋『世說新語』「方正篇」）

したがって、この用法は仏教漢文とは断言できない。ちなみに書紀でも類句を含めると、両群に18例が分布する。β群は7例ある。巻2に「當須避不。」「國在耶以不。」「奉天神耶以不。」「奉天神耶以不。」という4例。巻7に「易及人民順不。」，巻9の分注に「天皇怒解不。」，巻10に「未知其成不。」がある。

α群には11例ある。巻19に「徵召新羅，問聽與不，」「願居一處，俱論可不，」「西蕃獻佛，相貌端嚴。全未曾有，可禮以不。」「來不也，又軍數幾何。」という4例。第3例は仏法導入論争の文章で、「4」で見た如く仏典表現が多い。その他の3例は朝鮮関係記事である。巻25に「不言題不，諫朕寢忘。」「國司至任，奉所誨不。」「猶如古代，而置以不。」という3例。巻26分注は「伊吉連博徳書」の文章で、そこに「平安以不。」「好在以不。」「國內平不。」という3例がある。巻27に「福信之罪，既如此焉，可斬以不。」があり、これも朝鮮関係記事である。

α群の用例は四字句が顕著である。またこれらの用例の内訳は、原史料の反映，後人の潤色加筆，大化詔勅関係の3種であり，α群の本来の述作者に責任はない。

## 9. 書紀の「排除式例」

朱（1992）が仏教漢文の「語法の特徴」として挙げた第二項目は「排除式例」である。朱（1992）は、介詞「除」の二種の用法を挙げている。「特殊を排除する」用法と「その他を補充する」用法である。すなわち「～の他はすべて」と「～の他にさらに」の相違である。それぞれ2例ずつ紹介する。

- (1) 除王家宗親，視我国中尚無過卿。（三国・支謙訳『頼吒和羅経』1）
- (2) 唯除我身，其餘無惜。（東晋・佛陀跋陀羅訳『観佛三昧海経』7，15）
- (3) 除我國中人民所願，餘人民壽命無有能計者（西晋・竺法護訳『無量清浄平等覚経』1，12）
- (4) 除彼不肖人，癡冥無智者。（後秦・鳩摩羅什訳『維摩詰所説経』中，14）

朱（1992）によれば、これらの用法は比較的晩く生じた口語表現であるという。漢籍でも唐代まで殆ど現れない。実際、書紀では以下の11例あり、すべてβ群に偏在する。このうち「～の他にさらに」は③のみ。他の10例は「～の他はすべて」という用法である。

- ① 卷6：「吾則是國王也，除吾復無二王，故勿往他處。」〈吾を除きて復二王無し〉分注
- ② 卷7：然除日本武尊・稚足彥天皇・五百城入彥皇子外，七十餘子，皆封國郡，各如其國。〈日本武尊・××を除きての外，七十余子は，皆國郡に封さして、〉
- ③ 卷9：亦問之「除是神復有神乎。」〈是神を除きて復神有すや〉
- ④ 卷9：「非東日更出西，且除阿利那禮河返以之逆流，及河石昇爲星辰，而殊闕春秋之朝，怠廢梳鞭之貢，天神地祇共討焉。」〈阿利那禮河の返りて逆に流れ，河の石の昇りて星辰に爲るに及るを除きて〉新羅王の朝貢の誓い
- ⑤ 卷22：「天上有神，地有天皇。除是二神，何亦有畏乎。」〈是の二神を除きて、〉新羅・任那の國使の奏表
- ⑥ 卷22：「…夫佛法自…仰願，其除惡逆者以外僧尼，悉赦而勿罪。…」〈惡逆者を除きて以外の僧尼は〉百濟觀勒僧表上
- ⑦ 卷29：「…唯除賀使以外不召，則汝等親所見。…」〈賀使を除きて以外は〉耽羅使人への詔
- ⑧ 卷29：「凡任國司者，除畿內及陸奧・長門國，以外皆任大山位下人。」〈畿內と陸奧・長門國を除きて，以外は〉詔
- ⑨ 卷29：「凡當正月之節，諸王諸臣及百寮者，除兄姉以上親及己氏長以外，莫拜焉。」〈兄姉より以上の親と己が氏長を除きて，以外は〉詔
- ⑩ 卷29：「凡諸寺者自今以後，除爲國大寺二三以外，官司莫治。」〈國の大寺たるもの二三を除きて，以外は〉勅
- ⑪ 卷29：庚寅，除死刑以下罪人皆咸赦焉。〈死刑を除きて以下の罪人を，皆咸に赦す〉

この排除式例が11例すべてβ群に偏在するのは興味深い。前述したように「未經幾○」などの仏典表現もβ群に偏在していた。森（1999）ではβ群の述作者を山田史御方と推定した。

御方は若くして新羅に留学して仏教を学び、帰国後還俗して大学で教え

た。α群とβ群では仏教漢文の使用についても個性の違いがあるのだ。

## 10. 書紀の「被動句例」

朱(1992)が仏教漢文の「語法の特徴」として挙げた第三項目は「被動句例」である。朱は佛教漢文に特徴的な被動句(受身文)として、「為～所見～」「為～之所～」「為～而見～」「所見～」の四種を挙げている。さらに朱(2001)には、「動作主+所V」の句式として、西晋・竺法護訳『生経』(巻2)の「飛鳥所食。〈飛鳥に食らはる〉」など2例を挙げている。しかし書紀には以上の被動句は見られない。

ただし仏典には動作主が提示されない被動句もある。「所V」の「V」が原典の被動記号の漢訳として用いられたものである。王継紅(2006)「玄奘译经的语言学考察」(③再録)から1例を挙げよう。

餘契經中諸蘊處界。隨應攝在前所說中。如此論中所說蘊等。應審觀彼一一自相。

(唐・玄奘譯『阿毘達磨俱舍論』巻1)

これと同様の被動句は書紀にも6例現れる。次のようにすべてα群に偏在する。

- ① 巻14: 坂合黒彦皇子深恐所疑, 〈深く疑はるることを恐りて〉分注, 安康弑殺
- ② 巻14: 其舍人等【闕名字也】, 收取所燒, 〈焼かれたるを収め取りて〉安康弑殺
- ③ 巻17: 「多多羅等四村之所掠者, …」〈多多羅等の四村の掠められしは〉朝鮮関係
- ④ 巻21: 是其妣皇后所葬之陵也。〈是其の妣皇后の葬られたまひし陵なり〉敏達追葬
- ⑤ 巻24: 葛野秦造河勝, 悪民所惑, 打大生部多。〈民の惑はさるるを悪みて〉秦河勝邪教鎮圧
- ⑥ 巻24: 船史恵尺, 即疾取所燒国記奉中大兄。〈焼かるる国記を取りて〉恵尺国記救出

この6例のうち①と②は眉輪王による安康暗殺関係の記事で、四字句が頻出する。③は朝鮮関係記事。④はα群ではあるが、拙著で指摘したよう



に、巻 21 の記事には後人による加筆が少なくない。

⑤は常世の虫を祭る邪教を秦河勝が鎮圧する記事である。この記事は蘇我氏専横の抑止を暗示しているらしい。短い挿話の中に四字句が頻出する。後半部を示すと以下の通り。このうち「都無（まったく～無い）」は白話で、仏典に屢々見られる。

都鄙之人，取常世蟲，置於清座，歌儻求福，棄捨珍財。都無所益，損費極甚。於是，葛野秦造河勝，惡民所惑，打大生部多。其巫覡等，恐休勸祭。

⑥は蝦夷が焼こうとした「国記」を船史恵尺が救い、中大兄に奉る。恵尺を讃える記事である。

これら 6 例は大半が仏典に馴染んだ者による加筆と疑われる。

## 11. 遇笑容等の仏典語法

以上、朱（1992）等が指摘した文体の特徴（四字格）、および語法の特徴 3 項を紹介し、書紀における偏在を検討した。次には、遇笑容・曹広順（2013）「再談中古译经与汉语语法史研究」（③所収）が取り上げた上記以外の仏典語法を紹介しよう。

遇・曹（2013）は訳経に見られる特殊語法現象を数多く摘出し、それらを「多少」に属する問題と「有無」に属する問題に二分した。共時的に漢籍にも見られるか否かによって分類したのである。「有無」に属する問題としては、(a) 完成態を表す“已”，(b) “S, N 是” 式判断句，(c) “云何” の特殊用法（疑問を表さない），(d) 分句末に用いられて原因を表す“故”，(e) 属格表記に用いられる“所/許”，(f) “若 A 若 B”，(g) 処置式“取 OV” の 7 項目である。このうち (c) (e) (f) (g) は書紀に現れないので、ここでは (a) (b) (d) の 3 項目を取り上げる。それぞれ仏典から 2 例ずつ掲出しよう。

- (1) 時諸大臣聞已歡喜，往至彼林迎二王子，将還入宮。（隋・闍那崛多訳『佛本行集経』 5）
- (2) 於彼樹上取得果已，於先來至優婁頻螺迦葉。（同上，巻 41）
- (3) 佛告比丘：「爾時天帝者，大迦葉是也。」（後漢・曇果共康孟詳訳『中本起経』 下）

- (4) 「理家者, 吾身是也; 彼蕩子者, 調達は。」(三国・康僧會編訳『六度集経』3)
- (5) 孛哀人民故, 随使者還。(三国・支謙訳『佛説孛経鈔』)
- (6) 此次第前説, 由遠急明事故。(陳・真諦『阿毗達磨俱舍釈論』)

以上のうち (1)(2) は、蔣紹愚 (2007) 「语言接触的一个案例」(③所収) から例出した。“V已” “VO 已” の“V” は一般に瞬間動詞だという。(3) (4) は蔣紹愚 (2009) 「也谈汉译佛典中的“NP<sub>1</sub>, NP<sub>2</sub> + 是也/是”」(③所収) から例出した。(5)(6) は王継紅・朱慶之 (2013) 「汉译佛经句末“故”用法考察」(③所収) から例出した。

## 12. 書紀における用例

前述の特殊語法 (a)(b)(d) の書紀における用例を検討しよう。

(a) 「完成態を表す“已”」は以下の4例。

- ① 卷16: 是時, 影媛, 逐行戮處, 見是戮已, 驚惶失所, 悲淚盈目。〈この戮し已へつるを見て〉
- ② 卷19: 聖明王聞宣勅已, 歷問三佐平内頭及諸臣, 〈宣勅を聞くこと已りて〉朝鮮関係記事
- ③ 卷19: 天皇聞已, 歡喜踊躍, 詔使者云, 〈聞しめし已りて〉朝鮮関係記事, 仏典による潤色
- ④ 卷21: 誓已嚴種種兵, 而進討伐 〈誓ひ已りて〉蘇我戦争, 仏典による潤色

すべて *a* 群である。①の「驚惶失所, 悲淚盈目」は『金光明最勝王経』による潤色。編修の最終段階での加筆であることが分かる。②と③は朝鮮関係記事。③は『金光明最勝王経』卷6の「爾時四天王聞是頌已, 歡喜踊躍」による潤色。④は蘇我物部戦争の記事で, 倭習が集中する。『金光明最勝王経』卷6の「時王見已。即嚴四兵, 發向彼國, 欲爲討伐。」による潤色。③④も最終段階での加筆である。

(b) 「“S, N 是 (也)” 式判断句」は, *β* 群が16例, *a* 群が3例である。*a* 群の3例を含み6例のみ挙げる。

- ⑤ 卷1：便授之素菱鳴尊，此則筑紫胸肩君等所祭神是也。
- ⑥ 卷14：吉備上道蚊嶋田邑家人部是也。
- ⑦ 卷21：天皇爲之悲慟。今南淵坂田寺木丈六佛像・挾侍菩薩，是也。
- ⑧ 卷25：尊佛法，輕神道【斷生國魂社樹之類，是也】。爲人柔仁好儒。(分注)
- ⑨ 卷28：時人曰，即神所教之辭是也。
- ⑩ 卷29：拜造高市大寺司。【今大官大寺，是。】(分注)

*a* 群の3例のうち、⑥は天皇が紀小弓宿祢を讃える記事である。その勅に、「龍驤虎視旁眺八維，掩討逆節折衝四海。」とあるが、これは『魏志』「武帝紀」による潤色である。

⑦は用明天皇臨終の記事。「天皇爲之悲慟。」とあるが、前述の如く、石井(2015)は「為之～」という四字句は仏典に多用されると説いている。

⑧は「孝徳紀」冒頭の品性記事。直後の「柔仁好儒」は『漢書』を載録した『藝文類聚』「儲宮部」による潤色。

*a* 群の3例はいずれも編修の最終段階での潤色・加筆だろう。

(d)「分句末に用いられて原因を表す“故”」は書紀に6例ある。「故」が4例、「由～故」が2例。以下に6例すべて挙げる。

- ⑪ 卷15：則哭女與匳寸，異父兄弟之故，哭女之女飽田女，呼匳寸曰『於母亦兄』也。〈異父兄弟の故に〉
- ⑫ 卷15：則飽田女與匳寸，異母兄弟之故，飽田女呼夫匳寸曰『於吾亦兄』也。〈異母兄弟の故に〉
- ⑬ 卷19：「別汝所遵，恐致卓淳等禍，非新羅自強故所能爲也。」〈新羅の自ら強き故に〉(朝鮮関係記事)
- ⑭ 卷22：「是軍事者，境部臣・阿曇連，先多得新羅幣物之故，又勸大臣。」〈幣物を得しが故に〉
- ⑮ 卷1：「由吾在故，汝得建其大造之績矣。」〈吾が在るに由りての故に〉
- ⑯ 卷25：「四方諸國郡等，由天委付之故，朕總臨而御寓。」〈天の委ね付くるに寄りての故に〉

### 13. 書紀における仏典表現の分布

以上10種の仏典表現の書紀における分布は、【表Ⅰ】と【表Ⅱ】のとおりである。それぞれ*β*群に偏在する表現と*a*群に偏在する表現である。

【表Ⅰ】β群に偏在する仏教漢文

特殊語法	群 卷	β群												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
①「未經幾○」								2				1		1
②「亦」+主語			2			1		9		6	1			1
③「到於～」		6	4			1		1		1				
④「除」*排除の介詞								1	1	2				
⑤「～是(也)。」		6	3	1				1				2		

α群								β群		α群				β群		β群	α群	計	
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29				30
														1			5	0	5
				1				5	3						11		39	1	40
1							1	1			1						14	3	17
								2							6		12	0	12
1							1				1			2			16	3	19

【表Ⅱ】α群に偏在する仏教漢文

特殊語法	群 卷	β群												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
⑥「導」														
⑦「於・乎・于」*ヲ格							1							
⑧「所～」*被動句														
⑨「～已」*完成態														
⑩「～故」*理由		1												

α群								β群		α群				β群		β群	α群	計	
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29				30
1	1				2	1	1		3	2							3	8	11
2	1			3	1	2	4				4		1			1	1	18	20
2			1				1			2							0	6	6
		1			2		1										0	4	4
	2				1			1			1						2	4	6

14. 漢籍に稀で、仏典に屢々見られる奇用

以上、仏教漢文の特殊な語法を検討して、書紀における用例を分析した。書紀の仏教漢文はこれに止まらない。森(1999)や森(2011a)などでは、書紀の文章の誤用や奇用を摘出してきた。いま奇用について顧みると、漢籍に稀だが仏典に屢々見られる語句がある。そのうちの5種を調べてみ

た。接続詞「因以」、使役「遣～令～」、「有～之情」、「動詞 + 之日」、語気助詞「爰」である。仏典での用例を2例ずつ掲げよう。

- (1) 如是七處血入虎口，因以飲之，自投虎前，以身食虎。(梁・宝唱『經律異相』卷10)
- (2) 貧人見之，因以發願。願我後身長大一切深水無過膝者。(唐・道世『法苑珠林』卷5)
- (3) 佛遣使令行 孚致消息來 (西晋・竺法護『佛說普曜經』卷8)
- (4) 遣尊者舍梨子令見佐助。(東晋・瞿曇僧伽提婆譯『中阿含經』卷6)
- (5) 得無吾母以身肉食吾等乎。三子愴然有悲傷之情。(吳・康僧會譯『六度集經』卷3)
- (6) 身居無慚之地。心有無愧之情。(唐・道世『法苑珠林』卷21)
- (7) 君等亦當別封王土。居位之日勿相忘也。(後秦・佛陀耶舍共竺佛念譯『長阿含經』卷5)
- (8) 疾病之日開看骸骨。洗浴求福使病得愈。(梁・宝唱撰『經律異相』卷4)
- (9) 歷諸勝地。爰及林苑。(隋・闍那崛多等譯『起世經』卷2)
- (10) 爰自西域至于南土。凡所遊履靡不興造檀會敷陳教法。(梁・慧皎撰『高僧傳』卷3)

書紀での用例は3例ずつ掲げよう (ただし「V + 之日」は4例)。

- ① 卷1: 然後洗左眼。因以生神，號曰天照大神。〈因りて神を生みたまひ、〉
- ② 卷22: 便受佛像，因以造蜂岡寺。〈因りて蜂岡寺を造る〉
- ③ 卷29: 天皇始體不安，因以於川原寺說藥師經，〈因りて川原寺に藥師經を説かしめ〉
- ④ 卷5: 任那國，遣蘇那曷叱知，令朝貢也。〈蘇那曷叱知を遣して朝貢らしむ〉
- ⑤ 卷22: 辛未，皇太子遣使令視飢者。〈使を遣して飢者を視しめたまふ〉
- ⑥ 卷28: 遣田中臣足麻呂令守倉歷道。〈田中臣足麻呂を遣はして，倉歷道を守らしむ〉
- ⑦ 卷2: 猶有憶鄉之情。〈猶し郷を憶す情あり〉

- ⑧ 卷 8：天皇聞神言，猶有疑之情。〈疑の情有します〉
- ⑨ 卷 20：有歸於不破宮之情，〈不破宮に帰る情有りて〉
- ⑩ 卷 10：是以，天皇宴于後宮之日，始喚髮長媛，〈天皇，後宮に宴したまふ日に〉
- ⑪ 卷 24：三韓進調之日必將使卿讀唱其表。〈三韓の進調らむ日に〉乙巳の変
- ⑫ 卷 25：事了還鄉之日，忽然得疾臥死路頭，〈事了りて郷に帰る日に〉大化の詔
- ⑬ 卷 30：告喪之日，翳飡金春秋奉勅。〈喪を告げし日に〉新羅の弔使への詔
- ⑭ 卷 5：爰倭迹々姬命，心裏密異之，〈爰に倭迹々姬命，心の裏に密に異しび〉
- ⑮ 卷 21：誓已嚴種種兵，而進討伐。爰有迹見首赤禱，射墮大連…。〈爰に迹見首赤禱有りて〉
- ⑯ 卷 28：爰大友皇子謂群臣曰，將何計。〈爰に大友皇子，群臣に謂りて曰はく、〉

### 15. 5種の仏典表現の分布

書紀におけるこの5種の仏典表現の分布は【表Ⅲ】のとおりで，β群に偏在する。

【表Ⅲ】漢籍に稀で，仏典には屢々見られる奇用

奇用	群 卷	β群												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
①接続詞「因以」		7	5	2		2	6	10	4	15	7	3	2	4
②使役「遣～令～」						1	1	7		4	3	7		
⑬「有～之情」			1				1	2	1	2	3			
⑭「V + 之日」			2	1				2			3	2		
⑮語気助詞「爰」						3	2	11	1	7	7	18	3	13

α 群									β 群		α 群				β 群			β 群	α 群	計
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30				
								10	2					7	21		107	0	107	
								5						2			30	0	30	
														1			11	0	11	
								5	4	1	1			2	4	1	25	2	28	
4	2		4		4	1	3	9	6		5			9			89	23	112	

接続詞「因以」は106例あり、β群のみに偏在する。使役「遣～令～」は30例あり、すべてβ群に偏在する。「有～之情」も全11例がβ群のみに現れる。

「V+之日」は28例あり、β群に25例、α群に2例、巻30に1例が分布する。α群の2例中、⑪は乙巳の変の記事に見え、⑫は大化の詔勅である。森(2011a)で指摘したように、α群では3箇所にて倭習が集中する。巻24の上宮家滅亡記事と乙巳の変、そして巻25の大化の詔勅である。これらは書紀編修の最終段階で加筆されたものと推測される。⑬は巻30に見える新羅の弔使への詔勅である。巻30は一般に倭習の少ない漢文で綴られているが、この詔勅には、「以清白心仕奉」「不可絶之」などの倭習が頻出する。原資料を転載した可能性が高い。

語気助詞の「爰」は、上古漢語に常見され、中古以降は次第に用いられなくなる。しかし書紀には112例もある。正格漢文としては時代錯誤の奇用と言える。森(2011a)では書紀の用例を倭習の一種と考えた。しかし新たに仏典を調べると、中古の仏教漢文に頻出していた。書紀の「爰」もその多くが仏典表現だったのだ。

書紀ではβ群に89例、α群に23例が分布する。α群の23例については、森(2011a)で全用例を掲げ、その理由を説明した(189-193頁)。これら23例は大半が、原資料の引用や最終段階での潤色や加筆であった。逆にここから、α群の記事の筆録の経緯まで推測できる。

## 16. 結語

小稿では初めて本格的に、書紀における仏教漢文特有の語法や仏典表現を調査・分析して、仏教漢文の影響の大きさを知った。

私がβ群の述作者に擬した山田史御方は移民系氏族で、若くして新羅に渡り仏教を学んだ。それゆえβ群に仏教漢文の影響が濃厚なのは不思議で

はない。

一方、*a* 群の本来の執筆者には唐人の音博士、続守言と薩弘恪を擬した。編修の最終段階で三宅臣藤麻呂が *a* 群を中心にして特定の記事に潤色・加筆した。*a* 群に見られる変格表現は、原史料の反映や藤麻呂の加筆によって現れたと推測している。

三宅臣も新羅からの移民系氏族と推測され、加筆部分には朝鮮俗漢文の影響が見られた(森 2011b「日本書紀に見える古代韓国漢字文化の影響(続篇)」参照)。小稿では *a* 群の特定の記事に仏教漢文や仏典表現を数多く摘出した。藤麻呂も御方と同じく仏教を学んだのだろう。ただし当然のことながら、御方と藤麻呂では使用する仏典表現にも相違があるのだ。

### 参考文献

- 石井公成(2015)「『日本書紀』における仏教漢文の表現と変格語法(上)」『駒澤大学佛教學部研究紀要』73.
- 葛西太一(2020)「日本書紀における語りの方法と定型化一文末表現「縁也」による歴史叙述」『和漢比較文学』65.
- 小島憲之(1962)『上代日本文学与中国文学(上)』塙書房.
- 朱慶之(1992)『佛典與中古漢語詞彙研究』文津出版社(台北).
- 朱慶之編(2009)『佛教漢語研究』商務印書館(北京).
- 蔣紹愚・胡勅瑞編(2013)『漢訳佛典語法研究論集』商務印書館(北京).
- 瀬間正之(1994)『記紀の文字表現と漢訳仏典』おうふう.
- 瀬間正之(1999)「『未經』『既経』-師説『太安万侶日本書紀撰修参与説』をめぐって-」(瀬間 2015 に再録).
- 瀬間正之(2015)『記紀の表記と文字表現』おうふう.
- 森博達(1991)『古代の音韻と日本書紀の成立』大修館書店.
- 森博達(1999)『日本書紀の謎を解く一述作者は誰か-』中公新書.
- 森博達(2009)「日韓俗漢文の世界-『日本書紀』区分論と終結辞の『之』字-」(森 2011 再録).
- 森博達(2011a)『日本書紀 成立の真実-書き換えの主導者は誰か-』中央公論新社.
- 森博達(2011b)「日本書紀に見える古代韓国漢字文化の影響(続篇)」『木簡と文字』8, 韓国木簡学会.

【付記】この論文集のうち4編は、2022年12月4日に開催された「ことばの科学研究センター開設記念講演会・ことばの不思議」における講演を纏めたものである。私は「復元音で読む日中の古典-卑弥呼から徒然草まで」と題して講演した。しかしすでに『月刊・日本語学』(2015年8月号, 明治書院)で拙稿「復元音で読む古典-卑弥呼から徒然草まで」を公表していた。私の講演は拙稿の内容に唐詩の復元音を加えたものに過ぎない。それゆえ、今回は「仏教漢文と日本書紀区分論」を掲載することにした。同名の口頭発表は、第123回訓点語学会研究発表



会(2020年10月)で行い、また本学のことばの科学研究センターの研究発表会(2020年11月)では、自己紹介を兼ねて「日本書紀区分論と仏教漢文」を口頭発表した。今回の拙稿はこの二つの口頭発表を増補修訂したものである。



## 英語の中の日本語 — 借用と変化のプロセス

加野 まきみ

**【要旨】** 英語は、日本の開国以前から現在に至るまで数多くの語彙を日本語から借用してきた。本稿では、日本語からいつどのような借用語が英語に導入され、借用されてからどのような変化を経て英語の語彙として定着していくのかを調査した結果を述べる。歴史的な変遷を観察するには、大規模英語辞書 *The Oxford English Dictionary* (OED) を用い、現在の意味・用法を分析するには、COCA, NOW コーパスを初めとする、大規模英語コーパスを用いた。初出年代毎にどのような分野の語が借用されてきたか、2000年以降に追加された語彙にはどのような特徴があるか、また、借用された後の、発音・綴りの変化、語形成、意味変化などの様子を、辞書・コーパスからの用例と共に明らかにする。

**キーワード：**借用語、定着過程、OED、COCA、NOWコーパス

### 1. はじめに

英語は古くから様々な外的な影響を受け、多くの語彙を借用してきた。日本語からも日本の開国以前から現在に至るまで数多くの語彙が英語に借用されてきたが、その数は現在もますます増加する傾向にある。借用された語彙は発音・綴り・語形成・品詞・意味等の各面で様々な変化を遂げ、次第に英語の語彙として広く浸透していく。筆者はこれまでも断続的に英語辞書や英米のメディアにおける日本語からの借用語の使用実態のデータを収集・分析してきたが (Kano 2005, 2019; 加野 2006, 2008, 2013 など)、本稿では、現在、大規模なアップデートを行っている *The Oxford English Dictionary* (OED) や English-Corpora.org で提供されている大規模コーパスを用いて、英語における日本語からの借用語の現状を明らかにする。

世界最大の英語辞書である OED は、現在、随時アップデートを続けながら、オンラインで公開されている。第2版までの語義の見直し、現在掲載されている初例よりも古い用例の追加、第2版以降の新しい用例の追加、新見出し語の登録などを行っており、日本語からの借用語についても、多くの語が新たに登録され、その中には初例が数百年も遡って登録される古い語もあれば、

*Sudoku* や *amigurumi* のように 2000 年以降に初例が見られるような新しい語もある。また、English-Corpora.org では、Corpus of Contemporary American English (COCA) や News on the Web (NOW) などの 10 億語かそれ以上の規模の英語コーパスの構築が急速に進み、語彙研究者がコンピュータ上で使用することができる言語資料はますます増加している。それにより、従来では知り得なかった低頻度な借用語についても、実際にどのように使用されているのか調査することが可能となり、語法の解明が進んでいる。

本稿では、日本語からの借用語がいつ借用され、どのような変化の過程を経て英語の語彙として定着するのかを、辞書の用例やコーパスから抽出した最新の用例を交えて明らかにする。まず、借用の一般的なプロセスについて説明し、調査に使用した辞書・コーパスについて紹介した後、日本語の借用の時期と種類、借用された後の変化について論じる。

## 2. 言語借用について

言語は内的・外的な圧力を受け、常に変化し続けているが、その外的な要素の主なものは外国との接触による言語借用である。古英語から現代英語に至るまで、英語は膨大な数の語彙を外国語から借用してきたが、その多くはヨーロッパ系の言語であった。現在でも英語の語彙に占めるヨーロッパ系言語からの借用語の割合は非常に高い。しかし、マルコ・ポーロがヨーロッパに『東方見聞録』を 14 世紀にもたらして以来、ヨーロッパと世界の他の国や地域との接触が増加し、その結果、英語話者はヨーロッパ系以外の様々な言語に直接的・間接的に接触し、語彙借用の範囲を広げてきた。

一般的に、語彙はある言語 A から借用された語彙は「外国語」として、ある言語 B の中で紹介される。それが次第に、言語 B の中で馴染みのある語として扱われるようになると、「借用語」として、依然として外国語らしさを漂わせながらも、言語 B 中の語彙としての変化をはじめ。繰り返し使用されるうちに、言語 B の音韻、形態、統語規則に則り、綴りや発音の変化、語形成、意味の拡大・転換などを経て、言語 B の語彙らしさを獲得していく。このように別の言語の語彙として定着していくプロセスを「定着過程 (natulalization, assimilation process)」と呼び (図 1)、借用語が英語の語彙として定着する場合なら「英語化過程」とも呼ぶ。

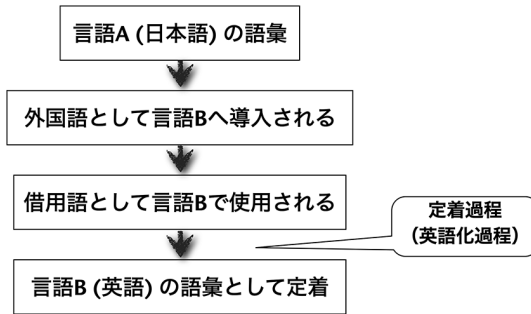


図1 言語借用のプロセス

日本語からは、日本の開国以前から、様々な経路を経て数多くの単語が英語に借用されてきたが、その数は現在も増加している。英語の辞書に登録されている日本語からの借用語は、何を「借用語」という範囲に入れて数えるかにも因るが、約1,000語程度あると考えられる。例えば、日本の歴史や伝統的な文化を表す、*sushi, sake, karaoke, karate, judo, kimono, geisha, samurai, kamikaze, harakiri, tycoon, zen* や、比較的最近借用された、*bento, edamame, matcha, yuzu, Wagyu, hikikomori, otaku, kawaii, manga, tamagotchi, emoji* などがある。辞書に登録されているはいえ、英語話者が認知できる語ばかりではなく、認知度、頻度、語形・語法・意味の変化の有無などはさまざまである。日本語話者からすると、日本語の語源が分からないほど形態が変わったものや、その語から連想し得ないものを指すように変化を遂げた語もある。例えば、*rickshaw* は、「人力車」が語源であるが、現在ではインドや東南アジアなどでよく見かける自転車やバイクで牽引して人を運搬する乗り物を指す。英語では *jinrikisha* の *rik* の部分が強く発音されるため、*jin* は脱落し、綴りも英語話者が発音を類推しやすいものに変化している。意味的にも「人力」である部分は消失している。*tycoon* は将軍を意味する「大君」に由来するが、ビジネス界の巨頭・大富豪のことを指して使用される。*taikun* という綴りからは大きく変化し、意味的にも形態的にも語源の日本語とは大きく異なる上に、日本人のことを指すことがほとんどないため、これを日本語からの借用語だと認識している英語話者は少ないであろう。*futon* は、「布団」に由来するが、木のフレームに納まった、折りたたんだり伸ばしたりできるマットレスで、ソファとしてもベッドとしても使用できる家具のことを指す。日本語話者にとっては、決して「布団」ではな

く「ソファー」や「ソファーベッド」と呼びたくなるものである。このように、一度英語に借用された日本語は、日本語話者が使用する意味・用法から離れ、独自の変化を遂げていくこともあるのだ。

### 3. 使用した辞書・コーパス

今回の分析の資料として使用したのは、*The Oxford English Dictionary Online* (OED) と English-Corpora.org で利用可能なコーパス (BNC, COCA, COHA, NOW) である。

OED は約 600,000 語という圧倒的に多くの項目数を有し、各見出し語の語源、発音、語義、用例を収録した世界最大の英語辞書で、現在はオンラインで公開されている。1,000 年以上に渡る英語の語彙を収録し、歴史主義に則り編纂されており、語義も用例も古いものから並べて記述される。約 350 万の引用文を収録し、全ての見出し語において英語の記録として最も古い用例である初出例まで遡ることができる。2028 年で初版完成から 100 年、編纂開始からは 150 年となる。現在は全面改訂作業中で、年に 4 回更新内容が発表される。OED の編纂に際しては出版社独自のコーパスが編纂・使用される。そのコーパスによる分析に基づき、毎年、その年の語 (The Word of the Year) が選出されるのだが、2015 年には日本語からの借用語である *emoji* がその年の語として選出された (実際には *emoji* という単語が選出されたのではなく、泣き笑いをした絵文字「😂」が 2015 年の語として選ばれた)。OED における *emoji* の初出は 1997 年であるが、図 2 から分かるように、2014 年から 2015 年の間に使用頻度の飛躍的な伸びが認められる。これは世界的に発売される iPhone に *emoji* キーボードが搭載されたことによる。

一方、コーパスとは、新聞、雑誌、本などの書き言葉のテキストや、話し言葉を文字化したテキストを大量に集め、コンピュータで様々な検索・分析を行うことを可能にした言語データベースのことである。コーパスの種類は様々で、均衡コーパス、ウェブコーパス、タグ付きコーパス、歴史的コーパス、学習者コーパスなどがある。コーパスを用いると、様々な文字列を検索し、図 3 のように、用例を KWIC (Key Word in Context) 表示できるだけでなく、検索語の前後に共起する語を調べることによって連語を見出すことや、どのような分野・年代で多く使用されるかなど分布を調べることができる。

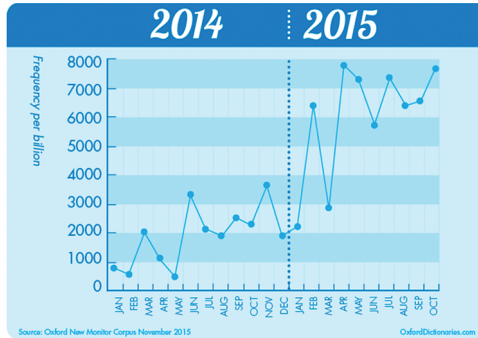


図2 emojiの頻度の推移 (OxfordDictionary.com より)

R About ACET's Home Care Many people with AIDS have to	spend	long periods of time in hospital unless there is someone at hor
provide help in many different ways to ensure that people don't	spend	time in hospital unnecessarily. What do ACET volunteers do?
n alone. Without ACET's practical support at home they could	spend	long periods of time in hospital unnecessarily. The reality of A
sick with AIDS who want to stay at home, rather than	spend	time unnecessarily in hospital. Please help! SIR JOHN FORD
pport in the home means that family members may not have to	spend	so long in hospital. Families can stay together through an extr
ild probably want to die myself. Those awaiting execution will	spend	their last days almost entirely alone. They will be moved to
Anglo-Scottish father, who would retreat behind the Times and	spend	the evening in lonely state, smoking his pipe in his kilt
get more money an' ITV an' the papers tell them what to	spend	it on so the disease is always covered up. I'm
I wanted to. So the first thing I did was to	spend	ten years with the Royal Shakespeare Company! A.R. In whic
than 50 per cent of the British beer market yet the brewers	spend	two-thirds of their advertising money on it. Ruddles, once a
ses, about 1,157 licensed restaurants and 255 hospitals, which	spend	about IRE237m (£216m) a year on food alone. The
of full-time courses at the hotel school. All craft students will	spend	about 30 hours a year in the Chinese cookery centre, which
commands will do the job but, if you are willing to	spend	some money, there are programs available which will make th
Tyler waved a hand airily. 'My dear fellow, we	spend	our time here working on things that shouldn't have been said
fan, each year I try and keep a fortnight clear to	spend	time at the Birmingham International Film and Television Fes

図3 KWICの例 (BNCより)

本稿では、English-Corpora.orgで使用できるコーパスのうち、主に1990-2009年までのアメリカ英語を収録した均衡コーパスである Corpus of Contemporary American English (COCA)からの用例を用いる。また、毎日ウェブニュース記事データが追加され更新される News on the Web Corpus (NOW), 1810年から2019年までの年代ごとのアメリカ英語における使用の推移が観察できる Corpus of Historical American English (COHA), 主に1980年代から90年代初期までのイギリス英語を収録した均衡コーパス British National Corpus (BNC)からの用例も適宜使用する。English-Corpora.orgに収録されている各コーパスの規模と種類、収録される用例の年代や地域については図4に示す。

Corpus	Download	# words	Dialect	Time period	Genre(s)
News on the Web (NOW)	📄	18.3 billion+	20 countries	2010-yesterday	Web: News
iWeb: The Intelligent Web-based Corpus	📄	14 billion	6 countries	2017	Web
Global Web-Based English (GloWbE)	📄	1.9 billion	20 countries	2012-13	Web (incl blogs)
Wikipedia Corpus	📄	1.9 billion	(Various)	2014	Wikipedia
Coronavirus Corpus	📄	1.5 billion	20 countries	Jan 2020-Dec 2022	Web: News
Corpus of Contemporary American English (COCA)	📄	1.0 billion	American	1990-2019	Balanced
Corpus of Historical American English (COHA)	📄	475 million	American	1820-2019	Balanced
The TV Corpus	📄	325 million	6 countries	1950-2018	TV shows
The Movie Corpus	📄	200 million	6 countries	1930-2018	Movies
Corpus of American Soap Operas	📄	100 million	American	2001-2012	TV shows
Hansard Corpus		1.6 billion	British	1803-2005	Parliament
Early English Books Online		755 million	British	1470s-1690s	(Various)
Corpus of US Supreme Court Opinions		130 million	American	1790s-present	Legal opinions
TIME Magazine Corpus		100 million	American	1923-2006	Magazine
British National Corpus (BNC) *		100 million	British	1980s-1993	Balanced
Strathy Corpus (Canada)		50 million	Canadian	1920s-2000s	Balanced
CORE Corpus		50 million	6 countries	2014	Web
From Google Books n-grams (compare)					
American English		155 billion	American	1500s-2000s	(Various)
British English		34 billion	British	1500s-2000	(Various)

図4 English-Corpora.org で使用可能なコーパス一覧  
(<https://www.english-corpora.org> より)

#### 4. 日本語の借用の時期と種類

本節では、*OED* に収録されている日本語からの借用語の借用の時期と、借用語の種類の変化について述べる。図5は50年ごとの日本語からの借用語の数の推移を表している。

##### 4.1 初期の日本語からの借用語

1600年以前が初出である語は *bonze*, *kuge* の2語で、どちらも Richard Wills が編纂した Pietro Martire d' Anghiera の *The History of Travel in the West and East Indies* 『東西インド旅行誌』(1577年) が初出である。*OED* にはこの旅行記から100語以上が収録されているが、その中の2語が日本語からの借用語である。スペイン語やイタリア語などを経由して、英語へと翻訳された。1700–1749年の間が初例の46語は全てドイツ人医師ケンペルの *History of Japan* 『日本誌』の英訳(1727年)から収録されている (*adzuki*, *Hatamoto*, *kami*, *mikoshi*, *tokonomoa* など)。また、1800–1849年の25語中11



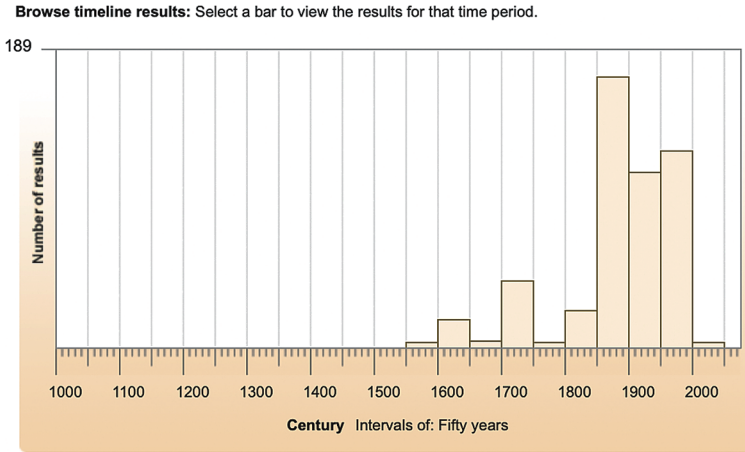


図5 日本語からの借用語の数の推移

語が、オランダ初の日本学者ティツイングの *Illustrations of Japan, consisting of private memoirs of the djogouns* 『日本風俗図誌』の英訳（1822年）から収録されている (*gobo*, *hakama*, *umeboshi*, *zori* など)。このように、日本開国以前の日本語からの借用語は、日本に滞在した宣教師や学者や商人が、滞在中に観察した日本の風習・生活や食べ物など、当時のヨーロッパの人々の目に物珍しく映った事物を記した記録の英訳本から収録されていることが分かる。

#### 4.2 1850年以降の借用語

1850年以降、開国・ジャポニズムなどの影響により、日本語からの借用語が増加していく。文化・風習・社会に関する語 (*fundoshi*, *fusuma*, *geta*, *hanami*, *hibachi*, *janken*, *kimono*, *kotatsu*, *natto*, *nori* など)、芸術に関する語 (*baren*, *bekko*, *bonsai*, *haiku*, *yoruri*, *Kabuki*, *kakemono*, *kakimono*, *nashiji*, *netsuke*, *Noh*, *renga*, *shippo* など) など、英語の語彙では端的に言い表すことが出来ない、「異文化」の事象を表すため、多くの語が借用された。

#### 4.3 1900年以降の借用語

1900年以降の語で最も大きな分野は柔道、空手、相撲などの武道に関する語である。*judo* とその派生語 (*judogi*, *judoist*, *judoka*, *ju-jitsu*) だけではなく、技の名前、武道における所作やルール、ランク付けの方法など多岐

にわたる。それらの中には *black belt* (←「黒帯」), *body drop* (←「体落とし」) のように、その語が表す概念を英語の語彙を使って表した、翻訳借用も見られる。以下に武道に関する語を挙げる。

- 技の名前：*haraigoshi, kesa-gatame, makikomi, nagewaza, ogoshi, osaekomi-waza, osaewaza, osotogari, seoi nage, shime-waza, sumi-gaeshi, sutemi-waza, tai-otoshi, tomoe-nage, tsurikomi, uchimata, ude-garami (-gatame), uki-gatame (-goshi, -otoshi, -waza), ura-nage, yoko-shiho-gatame*
- 所作・ルール・ランク：*dan, dojo, jigotai, ippon, kata, kuzushi, kyu, nage-no-kata, randori, seiza, sensei, Shihan, shodan, tori, tsugi ashi, tsukuri, uke, ukemi, waza-ari, yondan*

世界大戦を経て軍事・戦争に関する語や、軍隊で使用されていた俗語なども収録されている (*Baka, honcho, Kempeitai, moose, tenko, hoochie* など)。

また、この時期の借用語の中には、以下のような、近代化・経済発展を遂げる日本社会を表す語も現れる。

- 経済：*zaikai, zaibatsu, Nikkei, narikin, kanban, keiretsu, shosha, shunto, sogo shosha, sokaiya, zaitech*
- 社会：*enjo kosai, hikikomori, juku, kawaii, karoshi, nisei, tonari gumi, otaku, omiai, yakuza, yusho*

### 4.3 2000年以降 OED に登録された日本語からの借用語

前節までは、OED に登録されている初例の年代ごとにその数や語の種類の変化を述べたが、本節では、語が OED に登録された年代という観点からの分類を行う。オンライン版の OED では、2000 年以降のアップデートについては、いつ語や用例が追加されたかが記録され、辞書使用者が閲覧できるので、その情報を参照した。OED にその語が登録されるということは、その時期にその語が辞書の収録に値するであろうと判断される、つまり、その語やその語が含まれる分野への関心が高まっていることを表すと思われる。2000 年代以降に辞書に登録された日本語からの借用語には以下のような種類がある。

- 食材・調味料：*anago, edamame, gobo, hamachi, hijiki, kabocha, maguro, maitake, matcha, matsutake, mirin, mitsuba, mizuna, Nagami, napa, nashi, natto, omochi,*

*panko, ponzu, reishi, seitan, sencha, shishito, shiso, toro, umami, ume, umeboshi, Wagyu, yokan, yuzu*

- 料理・飲食店：*bento, bukkake, chankonabe, gyoza, izakaya, kaiseki, maki zushi, makunouchi, misoshiru, mizutaki, obento, omakase, robata-yaki, ryotei, suimono, sunomono, surimi, tataki, yakisoba*
- 飲料：*amazake, kombucha, Midori*
- 人・社会：*ah so, amae, amakudari, enjo kosai, hentai, hikikomori, ikigai, juku, karoshi, keitai, keiretsu, Maru, meishi, minshuku, mura, nikkei, nikkeijin, omiai, otaku, oyabun*
- 文化・娯楽：*emoji, fundoshi, furo, kaiju, kaiju eiga, kawaii, manga, mecha, ofuro, shojo, shonen, Sudoku, Tamagotchi*
- 芸術：*amigurumi, bokeh, bugaku, butoh, chanoyu, chindogu, hake, moribana, maki-e, mabe, menuki, mokume, mokume gane, monogatari, mono no aware, Nabeshimayaki, nageire, sashiko, wabi-sabi*
- 武道・スポーツ：*aikuchi, aikijutsu, budo, ki, keirin, kyudo, maegashira, mae-geri, makikomi, makiwara, marwashi, nage-no-kata, nagewaza, osae-waza, oshi, oshi-dashi, oshi-taoshi, oyakata, ozeki, rikishi, ryu, ryugi, Shorin ryu, wakizashi*
- 歴史：*Baka, bakufu, chichi, marumage, Minseito, o-muraji, o-omi, pan-pan, papasan*
- 宗教：*butsudan, magatama, miko, mikoshi, miya, mu, mushin, nembutsu, reiki*
- 自然：*aka-matsu, akoya, andosol, baku, medaka, nanten, o-matsu, Oranda*

武道・スポーツに関心が高いことは2000年以前から続いている傾向であると言えるが、2000年以降に最も関心を集めている分野は、2013年にユネスコ無形文化遺産にも登録された「和食」で、その食材や料理、それを供する飲食店などを指す語が多いことが分かる。さらに、文化・娯楽・芸術の分野でも伝統的なものだけでなく、新しい技術やトレンド、ポップカルチャーやサブカルチャーと呼ばれる分野の語など採録される語は多岐に渡っている。

本節の最後に、最近 OED に追加された日本語源の語について述べる。ここでは OED が四半期ごとに発表する追加語彙のアップデートの中でも、直近のものを選んで述べる。2022年9月のアップデートでは、*andon* が追加された。この語は「行灯」に由来し、初例は1880年であるが、現在では、

工場で使用される「生産設備稼働モニタリングシステム」の意味で使用されている。2022年6月のアップデートでは、*ankimo*「あん肝」(1984年初例)、*anma*「按摩」(1877年初例)が追加された。また、初例が2000年以降であるという真新しい借用語には、*amigurumi*「あみぐるみ」(2006年初例、2021年登録)、*Sudoku*「数独」(2000年初例、2006年登録)がある。*Sudoku*は以前から日本ではナンバープレイスパズル(通称ナンプレ)と呼ばれて人気のあるパズルゲームであったが、*Sudoku*として2005年にイギリスで大衆層を巻き込んだブームが起こり、世界的な大ヒットとなった。それ以来、雑誌の巻末にクロスワードパズルの代わりに掲載されたり、スマートフォンで使えるアプリが登場したりして、世界的に楽しめるパズルとなった。一方で、*amigurumi*は「編む」と「ぬいぐるみ」からの合成語「あみぐるみ」が由来で、縫うのではなく編むことにより中に綿などを詰めて動物などの形に作った玩具である。新しい手芸の種類として紹介されており、英語以外の言語でもウェブサイトがあり、作品や作り方が公開されている。ただ、趣味の世界では知られた語かもしれないが、日本での一般的な認知度はあまり高いとは言えない語であろう。しかし、この語はすでに英語として定着過程を歩み出し、様々な変化の過程を経ているようである。次節では、借用された日本語の定着過程を *amigurumi* を含む様々な例と共に論じる。

## 5. 日本語借用語の定着過程

### 5.1 定着の進んでいない借用語

新しい語が借用され、英語の中で使用されるときには、まず、その語を説明する文とともに使われることや、挿入句的に語釈を伴う場合がある。定着していない外国語であることを表すためにイタリック体で表記されることや、引用符が付けられる場合がある。*amigurumi*の項に収録されている3つの用例のうち初めの2例は、そのような使われ方をしている。以下に例を示す(下線は筆者)。

- 文で説明する
  - 2006 *Stella* Apr. 16 5/1 *Amigurumi* are the latest craze to hit Japan. The oh-so-cute crocheted dolls with oversized heads already have dedicated blogs and websites set up by obsessive fans.

- 1998 *Japan Christian Rev.* 64 108/1 Hikikomori is not just a problem of a child who refuses to go to school but also a problem for young adults who refuse to join society...
- 語釈が挿入される
  - 2007 *Sun Herald* (Sydney) (Nexis) 23 July (Sunday Life section) 8 Amigurumi, the art of crocheting animals in the round..has inspired crafty types around the world and is the newest and hottest blog fodder.
  - 1988 *Chicago Tribune* (Nexis) 13 Nov. c1 Called karoshi, or 'death from overwork', the disturbing phenomenon has been linked directly to too much toil and too little play.

## 5.2 発音・綴りの変化

英語に借用された語は、強勢付与、母音の強化・弱化など発音・綴りが英語の規則に従った形に変化する。OEDに登録される見出し語には、発音記号が付与され、そのほとんどは強勢の表示もされている (*hanami*, *hanashika* には発音記号が付与されているが、強勢位置の表示はない)。綴り字から推測される音に、英語話者が発音しやすい強勢が付与され、強勢位置の音節の母音は強められ、強勢のない音節は弱められる (例: *seppuku* 「切腹」/səpúkù/, *zaibatsu* 「財閥」/zAibátsu:/)。強勢の位置としては、最後から2つ目の音節に強勢が置かれることが多い。その結果、英語の語としてその発音を表現できるように綴りが変化することもある (例: *jinrikisha* → *rickshaw* 「人力車」, *sake* → *saké* 「酒」, *sukoshi* → *skosh* 「少し」, *taikun* → *tycoon* 「将軍」)。つまり、辞書に登録される時点では、発音・綴り字の英語化がある程度なされていることになる。先述の *amigurumi* には、/àmigərúmi/ と /àmigúrəmi/ の二通りの発音・強勢位置が示されており、この新しい借用語はまだ発音が1つに定着していないことが分かる。

## 5.3 名詞の限定用法獲得

日本語の借用語の中には、名詞が限定詞的に用いられるものが多い。つまり、その語を説明する語を後ろに伴って、繰り返し用いられる (例: *bonsai tree* 「盆栽」, *adzuki bean* 「小豆」, *sumo wrestling* 「相撲」)。 *amigurumi* も、OEDの2015年の例では、*amigurumi toys* として使われ、Webサイトでも、*amigurumi crochet* として *amigurumi* が *crochet* (かぎ針編み) の一種である

ことを説明する語と共に使用されている例が多い。説明的な語を後ろに伴って使用されているということは、借用語単独で用いられると意味が分からない場合があると予測される程度の認知度しかない語であるといえる。しかし、説明的な語を伴って繰り返し使われることで、*soy sauce* のように複合語として定着して使われ続けるものもある。

#### 5.4 生産性の獲得（語形成）

借用語の英語化が進んだと判断される指標の1つに、語形成をする生産性を持つようになることが挙げられる。英語の語形成の規則に則り、接辞付加（例：*Shinto*「神道」：*Shintoism/Shintoist/Shintonize*）、品詞転換（例：*honcho* (v.)「～を指揮する」）、複合語形成（例：*kimono*「着物」*kimono blouse, kimono coat, kimono gown, kimono sleeve* など）により、新たな語が生まれる。*amigurumi* に関しては *OED* には派生語は登録されていないが、Web 上には *super* という強調語と *amigurumi* を合成した、*Supergurumi* というサイト (<https://www.supergurumi.com>) が存在する。

#### 5.5 意味変化

英語化が進んだと判断できるもう一つの指標に、意味変化が挙げられる。その語を比喩的に用いる（例：*kamikaze*：「神風特攻隊」→「向こう見ずな」）、意味が拡大する（例：*tycoon*：「大君（将軍）」→「実業界の巨頭」）、転換する（*soy*：「醤油」→「大豆」）ことにより、語が多義を持つようになるのである。比喩やより一般的な意味で用いられるということは、英語の語彙として認知度が高く、広く浸透している語であると言えるであろう。借用されてまもない *amigurumi* にはまだこのような意味の変化は見られない。

#### 5.6 借用語の定着過程の進度

以上、借用語の定着過程における、様々な変化について述べたが、本節では借用語の定着過程の進み方について述べる。定着過程が進む速さは語によってまちまちで、初出から100年以上経ってから、変化が見られるものもあれば、借用直後から様々な変化を経て急速に英語化が進む語もある。表1は、すでに意味変化が見られる借用語4語を例に、どのような変化がいつ起きたかを示している。

表1 借用語の定着過程の進捗

	<i>soy</i>	<i>ricksshaw</i>	<i>kamikaze</i>	<i>tsunami</i>
初出	1679年	1874年	1896年	1897年
限定詞的用法	1795年	1886年	1946年	1967年
生産性獲得	1815年	1890年	1960年	-
意味変化	1880年	1900年	1963年	1972年

その中でも, *soy* (1679 初例) は歴史の古い語の 1 つである。1679 年に「醤油」の意の初例が記録され, 1795 年に *soy sauce* 「醤油」+ 「ソース」として限定詞的に使用され, 同年, *soybean* として醤油の原料の説明の中で「大豆」の意味の複合語を形成する。1815 年には, *soy bottle* 「醤油瓶」, *soy frame* 「醤油立て」などさらなる複合語が記録されており, 1880 年に *soy* が「大豆」という意味で使用され, 意味の転換がみられる。それ以降は, *soy* は「大豆」という意味で 1897 年には *soy flour* 「大豆粉」, *soy biscuits* 「大豆ビスケット」と, さらに語形成を重ねていく。現在では, ベジタリアン食材として広く認知されており, *soy milk*, *soy latte*, *soy cheese*, *soy nut*, *soy jam*, *soy meal*, *soy oil*, *soy protein*, *soy sausage*, *soy burger* などの複合語がある。OED の 2022 年 6 月アップデートでは, *soysage* (*soy* と *sausage* の混合語で, 大豆ミートで作られたソーセージの代用品の商品名), *soy-based* がさらに追加された。今も活発に語形成を繰り返す生産性のある語であると言える。以下は, *soysage* の初例である。

- 1943 *Atlanta (Georgia) Constit.* 12 June 5/7 'The manufacturer calls it 'a treat in place of meat'... But the product itself, labelled 'Soysage', looks more like very dry oatmeal.'

ただし, このように語形成や意味変化を経て英語化が進んでいると思われる語は, 借用される語の中のごく一部で, 全体の 10% に満たない。武術・和食など人気がある分野の語も多く収録されているとはいうものの, 辞書に登録されている日本語からの借用語のほとんどは一般的には知られておらず, 専門的な用語として, あるいは百科事典的な知識として収録されているのが現状である。以下に生産性がある語と意味変化が見られる日本語からの借用語の一部を挙げる。

- 生産性がある語 : *Kabuki, karaoke, karate, kendo, kudzu, Meiji, Nippon, Noh, Okinawan, Ryukyu(an), saké, shiatsu, Shinto, sumo, sushi, Suzuki, tofu, tatami, teriyaki, Tokugawa, yen*
- 意味が変化した語 :
  - 拡大 : *futon, geisha, honcho, richshaw, kimono, origami, samurai, shogun*
  - 転換 : *kamikaze, ricksha(w), sayonara, soy(a), tycoon*
  - 比喩的用法 : *bonsai, hara-kiri, jujitsu, judo, tsunami, Zen*

## 6. コーパスに見る日本語からの借用語

本節では English-Corpus.org のコーパスを使用して、借用語の使用実態を調査した結果を論じる。使用したコーパスは以下の通りである。

- Corpus of Contemporary American English (COCA)
- Corpus of Historical American English (COHA)
- News on the Web (NOW)
- British National Corpus (BNC)

本節では、*honcho, kamikaze, kimono, tsunami, tycoon, origami* を取り上げる。これらは、比較的英語話者に認知度が高く、興味深い意味・用法が見られる語である。借用された年代や経緯など、*OED* からの情報も付け加えつつ、コーパスで見られる各語の特徴を論じる。

### 6.1 *honcho* (COCA : 399 回出現)

*honcho* は「班長」に由来し、太平洋戦争中に捕虜となったアメリカ人兵の間で使用されるようになった語であるが、現在では、意味が拡大して「責任者、ボス」という意味で用いられている。図 6 は COCA で *honcho* の直前の 2 語に出現する共起語のリストである。*head honcho* として最も頻繁に使用され、他にも *big, chief, top* などとも共起している。企業名 (*Komen, Miramax, Disney, CBS*) と共に用いられることも多く、また新旧 (*former, new*) が語られている。これらのことから *honcho* は企業のトップの進退などを語る際に使用されていることが分かる。



1	!	★	HEAD
2	!	★	FORMER
3	!	★	NEW
4	!	★	BIG
5	!	★	KOMEN
6	!	★	CHIEF
7	!	★	MIRAMAX
8	!	★	DISNEY
9	!	★	CBS
10	!	★	CREATIVE
11	!	★	NETWORK
12	!	★	TOP

図6 *honcho* の共起語 (左2語)

以下に COCA の用例を挙げる。

- Facebook head honcho Mark Zuckerberg posted a photo on the social network of him and his daughter… (2016, MAG, Slate Magazine)
- Each wanted to be the head honcho, and so it was just like this. (2000, NEWS, Houston)

また、*honcho* は「責任者になる、指揮する」という意味で動詞としても使用される。

- Their undertones of sibling rivalry date back to 1993, when she was honchoing health care and he was heading reinventing government. (1999, MAG, Newsweek)

*honcho* がどのような分野・年代で使用されているのが多いか分布を調べると、News, Magazine, TV, Web で多用される一方、Spoken, Academic では少ないことが分かる。2005 年以降は頻度が減少傾向である (図7)。

SECTION	ALL	BLOG	WEB	TV/M	SPOK	FICTION	MAG	NEWS	ACAD	1990-94	1995-99	2000-04	2005-09	2010-14	2015-19
FREQ	399	57	61	70	15	40	81	72	3	45	69	61	36	33	37
WORDS (M)	993	128.6	124.3	128.1	126.1	118.3	126.1	121.7	119.8	121.1	125.2	124.6	123.1	123.3	122.8
PER MIL	0.40	0.44	0.49	0.55	0.12	0.34	0.64	0.59	0.03	0.37	0.55	0.49	0.29	0.27	0.30

図7 COCAにおける *honcho* 分野・年代別分布

### 6.2 kamikaze (COCA : 566 回出現)

*kamikaze* は OED では 1896 年が初例の「神風, 神風特攻隊」を表す語であるが, 品詞転換・意味の拡大をして主に形容詞として「向こう見ずな (reckless)」, 「自殺的な (suicidal)」の意味で使用される。*kamikaze* は日本の神風特攻隊を指すだけではなく, 9.11 などの自爆テロ行為や, 無茶な運転をするタクシードライバーを指すこともある (*kamikaze taxi*, *kamikaze dive*, *kamikaze attack*, *kamikaze planes*)。ここでは, COCA の機能の 1 つである Topics (同一テキスト内で使用される語との共起情報により, その語がどのようなトピックで特徴的に使用されているかを推測する) と直前 2 語にくる動詞の共起語と直後 2 語の名詞の共起語を調べた (表 2)。

表2 COCAにおける *kamikaze* のトピック・共起語

TOPICS	kamikaze **	**_v kamikaze
bomber	PILOTS	GOING
Japanese	ATTACKS	GO
naval	MISSION	GOT
sailor	ATTACK	MADE
allied	PILOT	THINK
navy	STYLE	CALLED
aircraft	MISSIONS	EAT
destroyer	PLANE	ORDERED

その結果, Topics には, *bomber*, *Japanese*, *navy*, *naval*, *aircraft* など, 日本の海兵隊を思わせる語が上位に現れ, *kamikaze* の後に来る共起語では *pilot(s)*, *plane* など *attack* の中でも空からの攻撃であることが分かる。意味が拡大して, 様々な「自殺的な」, 「向こう見ずな」行為に使われるようになった

とは言え、共起語からは、まだまだ日本の神風特攻隊の印象は根強く残っているようである。一方、*kamikaze* の前に来る動詞を調べると、*go(ing)*, *got*, *think* などが共起している。日本人が *kamikaze* 精神を秘めているという精神性を覗かせるものや、単に「勇敢だ」ということを表現しているもの、または、*go wild* と同じように「羽目を外す」の意味で用いられているものもある。以下に *kamikaze* と共起する動詞の用例を挙げる。

- I think you're gon na stay within the fence. You can go kamikaze another day. (2017,TV, Fear the Walking Dead)
- You should come with us. Come on, you got the kamikaze in you. (2010, TV, Psych)
- but I'm from Japan, so I think kamikaze, I'm going to have to go with it, (2006, SPOK, NBC\_Today)

また、*kamikaze* は政治・選挙などを戦いに見立てて話されるとき（反トランプになることや Brexit を *kamikaze mission*・*kamikaze plan* と表すなど）に使用されることが確認された。以下は NOW コーパスからの政治・選挙の話題に用いられる *kamikaze* の用例である。

- When you say political kamikaze, are you saying that if the Democrats push this through, they will lose…
- Kinzinger Says Trying To Be Anti-Trump ‘Could Be a Kamikaze Mission’
- CBC News revealed Callaway ran a “kamikaze” campaign in 2017 on behalf of Kenney
- Theresa May and EU negotiators will deliver a “kamikaze” Brexit plan

未だロシアとウクライナの戦闘が続く中、世界のニュースを駆け巡ったのはドローン攻撃であった。以下は 2022 年 10 月 18 日の BBC の記事からの引用である。

- Russia has hit Ukraine with a wave of attacks, dive-bombing the capital, Kyiv, with what appear to be Iranian-made “kamikaze” drones. (<https://www.bbc.com/news/uk-63280523>)

### 6.3 *kimono* (1886 初例)

*kimono* は日本の伝統的な服装である「着物」を指す語であるが、この語は OED では、日本の袖のある長いローブ (A long Japanese robe with sleeves.) と定義された上で、現在では、それに類似した、ゆったりした、太い袖の衣類で、帯を巻き、ガウンやコートのように欧米で着用される (Now frequently applied to a similar loose, wide-sleeved garment, fastened with a sash, and worn as a dressing gown, coat, etc., in Western countries.) と説明され、限定詞的に (Also attributive) *kimono blouse*, *kimono coat*, *kimono gown*, *kimono shirt*, *kimono sleeve* として使用されると述べられている。日本人が「着物」と聞いて想像するものと、欧米人が *kimono* と認識するものの間には大きく異なる部分があるようである。実際、インターネットで *kimono* を検索をしてみると、日本人が伝統的な着物を着ている画像もあるものの、オンラインショッピングサイトなどでは、シルクやサテンのつやのある生地で作られた長めの丈の衣服で、前合わせになっており、細い帯状の生地でウエスト部分で縛るローブの画像が多く見られる。中には、もはや前あわせではなく深い V 字のものや、帯状のものではなくウエスト部分で切り替えがあるだけのもの、丈が短いものも *kimono* として販売されている。

*kimono* を NOW コーパスで検索してみると、様々な形態で使用されているのが分かる。日本やアジアのエキゾチックな、時にはミステリアスは雰囲気醸し出すための演出として、「着物」に近い衣装を身につけた女性 (*kimonoed lady*) が用いられていることもあれば、少しアジアテイストを醸しただけの (袖の太い) ジャケットや T シャツなどの衣類の広告などもあり、英語話者の中では伝統的な着物とそこから派生したファッションアイテムとしての *kimono* の両方が存在するようである。図 8 は *kimono* とその派生語の種類を示し、以下に実際の用例を示す。

- … happy to play the role of the kimono-clad exotic Asian…
- … stepped up to take a photo with his iPhone as the kimonoed women quietly went about their business.
- … a kimono-like jacket, a shirtdress featuring utility pockets…
- … one of the brand's minimal kimono-sleeved t-shirts, made of cotton twill, is \$140.

HELP	?	ALL FORMS (SAMPLE):			FREQ
		100	200	500	
1	■	KIMONO			5485
2	■	KIMONOS			1308
3	■	KIMONO-STYLE			131
4	■	KIMONO-CLAD			93
5	■	KIMONO-INSPIRED			64
6	■	KIMONO-LIKE			39
7	■	KIMONO.			34
8	■	KIMONO-WEARING			18
9	■	KIMONO-ESQUE			10
10	■	KIMONO-MAKING			8
11	■	KIMONO-SLEEVED			7
12	■	KIMONO-SLEEVE			6
13	■	KIMONOED			5
14	■	KIMONO-DRESSING			5
15	■	KIMONO-<EM>			4
16	■	KIMONO-SHAPED			4
17	■	KIMONO-RELATED			4
18	■	KIMONO-WRAP			3
19	■	KIMONO.ELENOR			3
20	■	KIMONO-TYPE			3

図8 NOW コーパスにおける *kimono* の派生語

#### 6.4 *tsunami* (1897 初例)

次に *tsunami* について述べる。もともと津波は潮の満ち引きに関係のある波だと信じられていたため、英語では *tidal wave* と呼ばれていた。近年、津波は潮の満ち引きとは関係ないと科学的に証明されたことから、*tidal wave* を改めて気象用語として *tsunami* と呼ぶようになったという経緯のある語である。1990年代頃までのイギリス英語が収録されている BNC で *tsunami* と *tidal wave* を検索すると、*tsunami* の 80 パーセント近くという圧倒的多数が natural science の分野で使用されている一方で、それ以外の *tidal wave* が用いられている分野では、*tsunami* は用いられていないことが分かる (表3)。

実際の *tsunami* の用例を見ると、natural science の分野での記事は気象関係の記事で、それ以外の world affair の分野に現れるのも世界各地で起きた津波のニュースなどである。*tidal wave* は様々な分野で実際の波以外のこと、例えば様々な「感情のうねり」や、「変化の波」のように、比喩的に用いられることが多い。この比喩的な用法が、leisure や art の分野でも多用されている原因になっている。しかも *tidal wave* が natural science の分野に出現したのは全て *tsunami* の前後に現れて *tsunami* の説明をしている

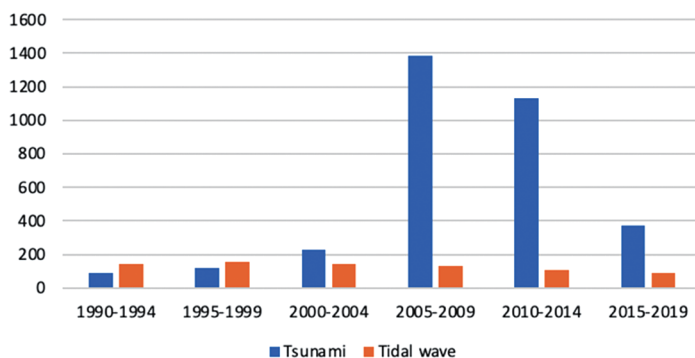
表3 BNCにおける *tidal wave* と *tsunami* の分野別分布

	tidal wave (125/101)	tsunami (118/28)
natural sci.	20.26%	77.50%
world affair	18.26%	10.53%
leisure	13.37%	0%
arts	13.23%	0%
belief	12.75%	0%
imaginative	11.11%	8.26%

文である。このことから *tsunami* は気象学の専門用語として限定的に使用され、しかもまだ当時は *tidal wave* という語で説明を伴わないと認知されないこともある知名度の低い語であることが分かる。同時に、「津波」という本来の意味では *tidal wave* の使用は *tsunami* に置き換えられつつあるということが窺える。

*tsunami* と *tidal wave* を COCA で検索すると、2005、2011年に *tsunami* の使用が急増しているのがわかる（図9）。2005年の爆発的な増加は2004年末のスマトラ島沖地震の際に、世界中に津波の映像が配信されたことや、2005年のハリケーン「カトリーナ」の被害者がうねり来る洪水の様子を「まるで *tsunami* のようだった…」と語ったことなど、*tsunami* という語がニュースで連日使われたことによる。2011年の増加は当然のことながら、東日本大震災の際の津波を指しており、世界中に津波の映像が連日繰り返

Tsunami vs. Tidal wave by Years

図9 COCAにおける *tsunami* と *tidal wave* の年代別分布

し配信されたことは記憶に新しい。これらの災害の報道により、気象用語の *tidal wave* から *tsunami* の置き換えが一気に進んだと言えるであろう。

*tsunami* や *tidal wave* がどのように比喩的に使用されているかを知るために、*tsunami of* と *tidal wave of* の後に来る共起語を検索した。*tsunami of* の後に来る語は、*data* や *information* のような情報化社会を象徴するような語もあるものの、*filth*, *criticism*, *false*, *junk*, *losses*, *negativity* などネガティブな語が多い。一方、*tidal wave* には同様に *criticism* などやや否定的な語もあるが、*love*, *support emotion*, *hope popularity*, *positive* などのポジティブな語の共起が多い。壊滅的ダメージを与えた *tsunami* の映像は世界中の人々の心にも大きな傷を残し、肯定的な事柄が押し寄せてくる場合には使用されにくいのではないかと思われる。以下に *tsunami of* と *tidal wave of* の後に来る共起語を COCA で検索した結果を挙げる。

- *tsunami of* の右共起語：DATA, INFORMATION, FILTH, STARS, WOMEN, CASH, CITIZENS, CRITICISM, FALSE, GROWTH, INK, JUNK, LOSSES, NEGATIVITY, PURE
- *tidal wave of* の右共起語 LOVE, SUPPORT, EMOTION, PEOPLE, CRITICISM, CHANGE, ILLEGAL, IMMIGRATION, MONEY, PUBLIC, HOPE, IGNORANCE, POPULARITY, POSITIVE, PUBLICITY

図 10 は NOW コーパスで *a tsunami of* の共起語を検索した結果である。比喩的に使用されている *tsunami of...* の用例を以下に挙げる。

- Farmers were faced with a “tsunami of change”...
- ... is government who have drowned us in a tsunami of inflation...
- ... the Cremona hospital was hit by a tsunami of COVID-19 patients
- ... we are now enduring a “tsunami of hate and xenophobia”, scapegoating and scaremongering...
- someone like Trump surfs a tsunami of resentment...

NOW コーパスでも COCA と同様に、ネガティブな語と多く共起していることが分かる。また、どちらのコーパスでも *data* という語が右共起語の上位に位置しており、現代社会における溢れかえる情報の多さを象徴していると言えよう。

HELP ?		FREQ	ALL	%	MI
1	2004	325	383672	0.08	8.47
2	2011	145	1227815	0.01	5.63
3	CHANGE	143	4505918	0.00	3.73
4	CASES	133	3074033	0.00	4.18
5	DATA	122	4585315	0.00	3.48
6	COMING	120	2931337	0.00	4.10
7	INFLATION	109	497413	0.02	6.52
8	HATE	99	543242	0.02	6.25
9	MARCH	85	3303635	0.00	3.43
10	EVICTIONS	82	25341	0.32	10.40
11	JOB	75	2650228	0.00	3.57
12	LOSSES	73	590326	0.01	5.69
13	PATIENTS	68	1658400	0.00	4.10
14	BAD	63	1815121	0.00	3.86
15	COVID-19	62	2587166	0.00	3.33
16	DECEMBER	57	2151645	0.00	3.47
17	SHOCK	53	379941	0.01	5.87
18	CRITICISM	53	465823	0.01	5.57
19	NEGATIVE	50	815005	0.01	4.68
20	CHALLENGES	49	1277829	0.00	4.00
21	OUTRAGE	48	127583	0.04	7.30
22	ABUSE	48	998933	0.00	4.33
23	XENOPHOBIA	46	22256	0.21	9.76

図 10 NOW における *tsunami of*… の右共起語

### 6.5 tycoon (1857 年初出)

OED によると *tycoon* は本来日本で江戸時代の将軍のことを外国人に伝えるときに使われた語 (The title by which the shogun of Japan was described to foreigners.) であると記述されている。借用直後に意味が変化して、当時アメリカ合衆国大統領だったリンカーンの愛称として主にアメリカ英語に限定して用いられていた。後に「実業界の巨頭」「大富豪」を指すようになる。「業界名 + tycoon, + 人物名」という形で用いられるのが一般的である (例: media tycoon, Robert Maxwell)。以下に *tycoon* をコーパスで検索した例を挙げる。

- MOVIE boss Barry “Killer” Diller has had a staggering £15 million payoff from media tycoon Rupert Murdoch. (BNC CH6: Leisure)
- … United States presidential election, which was won by property tycoon Donald Trump. (NOW: 18-0-4-08)



*tycoon* の前に来る共起語を探ると、どのような業界の「巨頭」が *tycoon* と呼ばれているのかが分かる。図 11 は、COCA で *tycoon* の直前 2 語の共起語を検索した結果である。*oil, real estate, business, media shipping, newspaper, publishing* などが主な業界であることが分かる。

*tycoon* を COHA と NOW で検索し、年代ごとの頻度を示したのが、図 12・図 13 である。COHA では 1820 年から 2010 年代までの 10 年ごとの頻度を、NOW コーパスでは 2010 年から 1 年ごとの頻度を表示することができる。図 12 から分かるとおり、*tycoon* は 1920 年代・30 年代と 70 年代に多く用いられ、その後は減少傾向にある。NOW コーパスで 2010 年以降を見てみると、2017 年以降減少傾向にある。かつて、*tycoon* と呼ばれた Robert Maxwell, Richard Branson, Rupert Murdoch, Alan Bond などの実業界の巨頭が高齢化・死去により、*tycoon* という語自体の存在も薄れてきているようである。*tycoon* と呼ばれた一人であったイタリアのベルルスコーニ氏が、本稿を執筆中に亡くなったことも *tycoon* の時代の終焉に近いこと

1	<input type="checkbox"/>	OIL	61
2	<input type="checkbox"/>	ESTATE	52
3	<input type="checkbox"/>	REAL	52
4	<input type="checkbox"/>	BUSINESS	40
5	<input type="checkbox"/>	LAST	36
6	<input type="checkbox"/>	MEDIA	24
7	<input type="checkbox"/>	SHIPPING	17
8	<input type="checkbox"/>	REAL-ESTATE	14
9	<input type="checkbox"/>	NEWSPAPER	14
10	<input type="checkbox"/>	PUBLISHING	13

図 11 COCA における *tycoon* の左共起語

HELP	?	ALL	1820	1830	1840	1850	1860	1870	1880	1890	1900	1910	1920	1930	1940	1950	1960	1970	1980	1990	2000	2010
1	TYCOON	590					8	3	2	1	2	91	76	58	49	45	70	51	55	42	37	

0.734 seconds

図 12 COHA における *tycoon* の年代別分布

SECTION	ALL	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021
FREQ	39466	864	1042	1407	1666	1497	1869	6623	5781	4976	6163	5118	2460
WORDS (M)	13000	244.1	304.8	371.3	401.5	429.4	512.5	1,531.3	1,746.5	1,569.1	1,987.5	2,607.8	1,336.3
PER MIL	3.04	3.54	3.42	3.79	4.15	3.49	3.65	4.33	3.31	3.17	3.10	1.96	1.84

SEE ALL SUB-SECTIONS AT ONCE

図 13 NOW における *tycoon* の年代別分布

を示す象徴的な出来事であった。

*tycoon* は日本語を起源とする語ではあるが、日本人に *tycoon* と呼ばれた人は少ない。BNC では、ソニーの盛田昭夫氏がナイトの爵位を与えられたときのニュース記事で使用された (Arise, Sir Sony # THE Japanese tycoon who dreamt up the Sony Walkman has been awarded an honorary knighthood. Akio Morita, 71, ... (1992, The Daily Mirror)). NOW コーパスでは、パチンコ業界の岡田和生氏が最も多く、ZOZOTOWN 創設者の前澤友作氏、ソフトバンクの孫正義氏などに使用されている。以下に、日本人が *tycoon* と呼ばれている数少ない用例の一部を挙げる。

- A Paranaque court ordered the arrest of Japanese gaming tycoon Kazuo Okada for estafa.
- Japanese fashion tycoon Yusaku Maezawa sold art for more than US\$8 million at a Sotheby's auction...
- You have a multibillion-dollar investment and a seal of approval from a Japanese tycoon, Masayoshi Son,...

## 6.6 origami (1948年初出)

最後に *origami* について述べる。*origami* は「折り紙」を起源とし、紙を折ることで様々な形を作る一種のアートとして捉えられている。初出が1948年と比較的新しい語であるが、この語にはすでに意味の拡大も見られる。以下の例では、タンパク質の分子が折りたたまれるように形作られることを *biological origami*, 折りたたむように構造物を作る建築法を *structural origami* と折り紙に例えている。

- Proteins also need to be folded into shape and this biological origami is not always flawless. (1996, Australian)
- We perform structural origami,” he said. “We fold buildings up. (2022, New York Times)

2022年サッカーワールドカップの侍ジャパンのロッカールームが、使用後にきれいに整頓され、ありがとうのメッセージと共に折り鶴が残されていたというニュースは、まだ記憶に新しい (2022年11月24日付 Daily Mail, <https://www.dailymail.co.uk/sport/sportsnews/article-11464741/Japan->

players-leave-dressing-room-spotless-World-Cup-win-Germany.html)。日本人の精神性も広く知られることになったが、このことにより、*origami* という語の認知度もさらに上がったと思われる。

## 7. まとめ

本稿では、日本語からの借用語が、借用されてから様々な変化を経て英語化していく様子を辞書を用いて明らかにし、現在どのような意味・用法で用いられているかをコーパスを用いて調査した結果を論じた。現代英語においては、様々な新造語が日々作られ、借用は新語彙導入の主要な方法ではないかもしれないが、これからも英語話者はさまざまな言語や文化と接触し、その結果、借用語という新しい語彙が英語にもたらされ続けるであろう。特に、増加傾向にあると言われている日本語からの借用語には、今後どのような語が加えられ、英語の語彙として定着していくのか、またそれらが既存の語彙体系にどのように影響を与えていくのか、引き続き注目していきたい。

なお、本研究は京都産業大学学外研究員制度を利用して行った研究成果の一部である。

## 参照した辞書・コーパス

*The Oxford English Dictionary* 3rd Edition. 2008. <https://www.oed.com/> Oxford University Press.  
EnglishCOPORA.com, <https://www.english-corpora.org>

## 参考文献

- Kano, Makimi. 2005. "Coexisting Patterns of Existing Vocabulary with Newer Loanwords in British English: A Study of Synonyms Focusing on Japanese and German Loanwords in BNC" *English Corpus Studies* 12: 1-17.
- Kano, Makimi. 2019. "How Japanese loanwords are assimilated into English" *MindBrained Think Tank + (JALT Mind, Brain, and Education SIG)* 5(11): 29-38.
- 加野 まきみ. 2006. 『Lexical Borrowing and its Impact on English』, ひつじ書房.
- 加野 まきみ. 2008. 「日本語からの借用語再考 (2): The Times Digital Archive を用いた低頻度語の調査」, 『文化女子大学室蘭短期大学研究紀要』, 31: 34-50.
- 加野 まきみ. 2013. 「英語になった日本語 コーパスで探ることばの変化」言語文化レトリック研究会.



## 宮沢賢治の作品から考える 日本語とドイツ語の「擬音語・擬声語」表現<sup>1</sup>

島 憲男

**【要旨】** 本稿では宮沢賢治のドイツ語訳作品を用いて、日本語の特徴の1つである「擬音語・擬声語」がドイツ語ではどのように解釈され、表現されているかを調査し、これらの表現がドイツ語訳の中でどのような役割や効果を担っているかを検討する。言語学的には、ドイツ語訳の中に現れる「擬音語・擬声語」表現はドイツ語の動詞や名詞の中に組み込まれている具体的な「音」の意味要素が文中に取り出されたものであり、文中で再言語化することにより詳細で具象的な出来事の記述を可能にしたものであると見なすことができると主張する。

**キーワード：**ドイツ語、擬音語・擬声語（オノマトペ）、宮沢賢治、音転写、意味転写

### 1. はじめに

本稿ではドイツ語に翻訳された宮沢賢治（1896-1933）の短編作品（詳細は第4節を参照）を用いて、日本語の特徴の1つである「擬音語・擬声語」がドイツ語ではどのように解釈され、表現されているかを調査した結果を報告する。そして、これらの表現がドイツ語訳の中でどのような役割や効果を担っているかを検討する。具体的な報告や検討に入る前に、まず次節で宮沢賢治とドイツ語との関係を簡単に取り上げ、続く第3節では宮沢賢治作品の魅力の一つであり、本稿での分析対象であるオノマトペについて基本的な事項を確認する。ドイツ語訳の宮沢賢治作品に登場するオノ

<sup>1</sup> 本稿は、2022年12月4日 京都産業大学むすびわざ館ホールで開催された、ことばの科学研究センター開設記念講演会「ことばの不思議～日本語と世界の言語～」での講演が基になっている。講演会ではドイツ語専攻の学生たちや一般の参加者の方々からも実に多くの貴重なコメントや質問をいただいた。改めてここで深く感謝したい。また、本稿にまだ反映させることができなかつた点については今後の課題としたいと考えている。本稿執筆の際、執筆者との議論を辛抱強く続けてくれた島令子氏にも改めてここで感謝する。なお、本稿での主張や研究成果の一部は島（2023）でも発表している。

マトベについては、まず第4節でその出現頻度、文中での役割、ドイツ語訳中に生起するオノマトベの由来について調査結果を紹介した後、第5節で実際の用例を提示しながら具体的に分析していく。そして、第6節でドイツ語訳を用いた言語分析についての本稿執筆者の基本的な考え方を提示した後、最終の第7節でまとめと今後の展望を記し、本稿執筆者の考える分析結果の言語学的な意義を記す。

## 2. 宮沢賢治とドイツ語

日本人の多くが知る宮沢賢治が、ドイツあるいはドイツ語とどのように関係するのか、まず始めにここで簡単に紹介しておきたい。

2010年2月20日から9月5日まで国立国会図書館国際子ども図書館において、国立国会図書館国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会『日本発☆子どもの本、海を渡る』( 国立国会図書館国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会 **日本発☆子どもの本、海を渡る** Children's Books Going Overseas from Japan ) が開催された<sup>2</sup>。その展示会の第三部には「国境を越える宮沢賢治」という特別コーナーが設けられ、そこでは宮沢賢治が「タゴールの詩やベートーベンの音楽を愛し、ドイツ語やエスペラント語を学ぶなど世界にまなざしを向けていた作家」としても紹介されている<sup>3</sup>。宮沢賢治が複数の外国語に通じていたことは、九頭見(1996: 65)にも記されており、ドイツ語は東京で開講された夏期講習会に参加して習得したという<sup>4</sup>。

一方で、宮沢賢治の作品が海外でも広く読まれるようになるのは、1980年代以降のことであり、日本にやってきて日本文学の研究に従事した海外の研究者が、宮沢賢治の作品を広く海外で紹介するのに果たした役割は多

<sup>2</sup> この記念展示会の記録は、現在も「電子展示会」として公開されている (<https://www.kodomo.go.jp/anv10th/special/kenjimiyazawa.html>; 2023年10月8日最終アクセス)。この「電子展示会」は、「2010年2月20日から9月5日まで国立国会図書館国際子ども図書館において開催された、国立国会図書館国際子ども図書館開館10周年及び国民読書年記念展示会『日本発☆子どもの本、海を渡る』の展示解説図録(国立国会図書館国際子ども図書館編集・発行)の内容を基に作成」されたものであるという。

<sup>3</sup> 詳細は、「国境を越える宮沢賢治～変化～」の第1段落を参照 <https://www.kodomo.go.jp/anv10th/special/kenjimiyazawa.html> (2023年10月8日最終アクセス)。

<sup>4</sup> 「賢治の外国語能力という点でも、彼が英語を非常によく理解していただけでなく、盛岡高等農林学校時代に東京で開催されたドイツ語夏期講習会にまで出かけて習得したドイツ語、さらには詩を創作するほどの能力を有していたエスペラント語など多くの外国語に通じていたこと...」(九頭見1996: 65)

大なものであったようである<sup>5</sup>。ドイツ語に関して言えば、本稿執筆者が知る限り、Johanna Fischer が編纂・翻訳した *Die Früchte des Ginkgo: Märchenhafte Erzählungen aus Nord-Japan*<sup>6</sup> と、Jürgen Stalph が翻訳した *Eine Nacht in der Milchstraßenbahn*<sup>7</sup> の二冊の書籍が本稿執筆時点では出版されている。

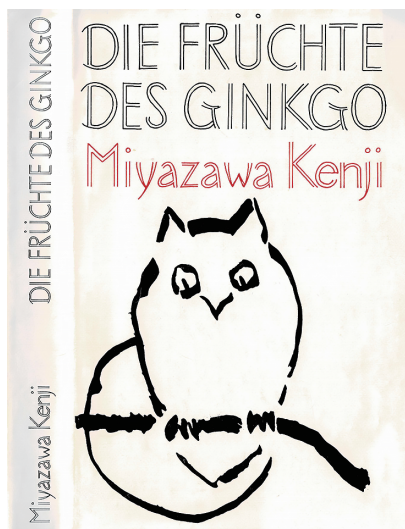


図1 『いちょうの実』



図2 『銀河鉄道の夜』

### 3. 宮沢賢治の日本語：オノマトペ

宮沢賢治が生み出した数々の作品の持つ魅力の一つに日本語の表現、特

<sup>5</sup>「賢治の作品が海外で広く読まれるようになるのは1980年代以降である。日本に留学して文学を学んだ各国の研究者たちが賢治の作品を自国で紹介し始め、多くの地域で人気と評価が高まった」(<https://www.kodomo.go.jp/anv10th/special/kenjimiyaazawa.html>, 2023年10月8日最終アクセス)。

<sup>6</sup>タイトルの私訳は『いちょうの実：北日本のメルヘン話集』。シュトゥットガルト市 (Stuttgart) のネスケ出版 (Verlag Günther Neske) より1980年に初版が、1994年に第2版が出版された。本稿では第2版を使用している。なお、現在当該書籍の著作権は、同市にある有限責任会社コッタ書店継承社 (J.G.Cotta'sche Buchhandlung Nachfolger GmbH) が有している。

<sup>7</sup>『銀河鉄道の夜』。パートベルカ市 (Bad Berka) のカス出版 (cass verlag) より2021年に初版が出版された。なお、本稿執筆者は、ことばの科学研究センター開設記念講演会の直前にこの書籍を入手したため、本稿にはこの書籍からの言語データは含まれていない。今後『銀河鉄道の夜』での調査を行い、本稿での主張を検証していきたいと計画している。

に「オノマトペ」と呼ばれる擬声語（擬音語）、擬態語表現が挙げられる。実際、上述した「国境を越える宮沢賢治」の電子展示会にも「賢治作品の魅力のひとつは響きの愉しいオノマトペであるが、…」と記されているように<sup>8</sup>、宮沢賢治の作品に登場するオノマトペに惹きつけられた読者は決して少なくないと思われる。また、それだけではなく、作品を読み終えた後もなお作品の中で初めて見聞きしたオノマトペが頭にいつまでも残っているという経験をしたことも本稿執筆者だけではなく、多く読者の共通の体験ではないかと感じている。

本稿の目的の1つは宮沢賢治の生み出すことばの魅力である「オノマトペ」に注目し、この日本語表現をどのような方法でドイツ語に翻訳し、ドイツ語では宮沢賢治が目指した表現上の効果をどのように、またどの程度効果的に再現しているのかを調査することである。そのため、この節では「オノマトペ」についての共通理解を一度確認しておきたい。

まず、少々長い引用となってしまうが、窪菌（2017）を紹介したい。窪菌（2017: 1）は、英語と日本語を比較して以下のようにオノマトペを説明している：

- (1) 「イギリス人は動詞で泣く、日本人は副詞で泣く」と言われている（榎垣実『日英比較語学入門』大修館書店、1961年）。人間が泣く様々な様子を、英語は cry, weep, sob, blubber, whimper などの異なる動詞で表すのに対し、日本語は「ワーワー泣く」「メソメソ泣く」「クスンクスン泣く」「オイオイ泣く」「シクシク泣く」のように異なる副詞を使って表している。ここで使われている副詞が擬声語（擬音語）、擬態語などのオノマトペである。オノマトペは人間の動作を記述するときだけに使われるわけではない。日本語に欠かすことのできない存在であることは、私たちの日常生活を考えればすぐに理解できる。

窪菌（2017: 1）の説明方法は、具体例を提示する例示によるものではあるが、オノマトペが「日本語に欠かすことのできない」ほど重要な表現であることがまずわかる。

<sup>8</sup>「国境を越える宮沢賢治～変化～」の第3段落を参照（<https://www.kodomo.go.jp/anv10th/special/kenjimiyazawa.html> 2023年10月8日最終アクセス）。



次に、手元の『広辞苑』（2018<sup>7</sup>）で「オノマトペ」を調べてみたところ、「擬音語に同じ。オノマトペア。」と出てきた。そこで、続いて「擬音語」を引いてみると「実際の音をまねて言葉とした語。『さらさら』『ざあざあ』『わんわん』など。擬声語。広義には擬態語も含む。オノマトペ。オノマトペア。」という説明がなされていた。さらに、この説明の中に登場する「擬態語」を確認してみると、その項目には「視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象を言語音で表現した語。『にやにや』『ふらふら』『ゆったり』の類。」との説明が与えられているため、「オノマトペ」の定義を『広辞苑』に基づいて行くと、「オノマトペ」とは、狭義に解釈した場合は「実際の音をまねて言葉とした語」となり、広義に解釈した場合は「実際の音をまねて言葉とした語や、視覚・触覚など聴覚以外の感覚印象を言語音で表現した語」となる。

念のために、もう1冊、今度は『精選版 日本国語大辞典』（2006）で「オノマトペ」を調べてみた。こちらには「擬声語および擬態語。擬音語。オノマトペア。」という説明に加えて、実際に見出し語の「オノマトペ」が使用されている実例が挙げられている。ただ、『精選版 日本国語大辞典』でも『広辞苑』同様、「擬声語および擬態語」と説明しているため、『精選版 日本国語大辞典』でのそれぞれの説明を確認してみた。まず「擬声語」は、「物の音や声などを表すことば。表示される語音と、それにより表現される種々の自然音の間に、ある種の必然的關係、すなわち音象徴が存在することにより成立する語。『ガラガラ』『ザアザア』『ニャー』の類。広義には擬態語を含めていう。擬音語。写声語。」と説明されており、聴覚を通じて知覚した外界の状況を表現したものであることが確認できる。また、「擬態語」は、「広義の擬声語の一種。音響には直接関係のない事象の状態などを描写するもの。狭義の擬声語が、自然の音声を言語音で忠実に直接的に模倣するのに対し、これは間接的に模倣し象徴的に言語音に写したもの。『そわそわ』『ぐずぐず』『にやり』の類。」と説明され、「音響には直接関係のない事象の状態などを描写する」とある通り、外界から聞こえてくる実際の音声や音の模倣とは異なり、外界の状況や状態を想起・連想させるような感覚的な表現であることが読み取れる。

「オノマトペ」の説明において、『精選版 日本国語大辞典』では「擬声語および擬態語」と規定し、『広辞苑』での「広義のオノマトペ」の説明

に対応しているという点で、両者は少々異なっているものの<sup>9</sup>、「オノマトペ」についての一般的な理解としては「物の音や声など実際の音をまねて言葉とした語や、外界の状況や状態を想起・連想させるような視覚・触覚などの感覚印象を言語音で表現した語」とまとめることができよう<sup>10</sup>。このオノマトペという表現手段は、宮沢賢治作品の中で大きな魅力の一つになっているだけではなく、「日本語に欠かすことのできない存在」（窪菌 2017: 1）でもあるが、その一方で全ての言語でこのような表現手段が豊かに用いられているわけでもない。実際、「国境を越える宮沢賢治」の電子展示会でもその点に触れ、以下のようにまとめている<sup>11</sup>：

- (2) 賢治作品の魅力のひとつは響きの楽しいオノマトペであるが、擬声語の少ない英語や中国語に訳される際には、省略されたり、説明的な文章に置き換えられたりすることがある

それでは、ドイツ語はどのような状況になっているのだろうか。実際にドイツ語に翻訳された宮沢賢治の複数のテキストを使って、宮沢賢治作品の大きな魅力の一つであるオノマトペがどのようにドイツ語に変換されているのかについて調査した結果を次節以降で具体的に検討していく。

#### 4. 宮沢賢治とオノマトペ

まず始めに、今回の調査で使用した宮沢賢治のドイツ語訳の作品一覧を示す。Johanna Fischer が編集と翻訳を行なったもの（Fischer 1980/1994<sup>2</sup>）で、宮沢賢治の 18 作品から成る短編集を今回は調査対象とした（注 7 も参照）：

<sup>9</sup>ただし、『精選版 日本国語大辞典』の「擬態語」の説明には、「広義の擬声語」や「狭義の擬声語」がといった表現が使われており、「擬態語」の説明から「擬声語」には「広義」と「狭義」の定義が存在しうることが読み取れる。

<sup>10</sup>オノマトペは、日本の漫画をドイツ語など外国語に翻訳された作品の中でも多く用いられており、ドイツ語に関して言えば、京都産業大学中央図書館 2 階のドイツ語コーナーにはドイツ語の文法書や会話、表現集などの学習参考書や専門書の他にドイツ語に訳された何種類かの日本の漫画（『進撃の巨人』、『名探偵コナン』など）が数冊用意されている。ことばの科学研究センター開設記念講演会の講演の際には、その中からいくつかのシーンを取り上げ、具体的に使用されているオノマトペを紹介したが、本稿では割愛した。

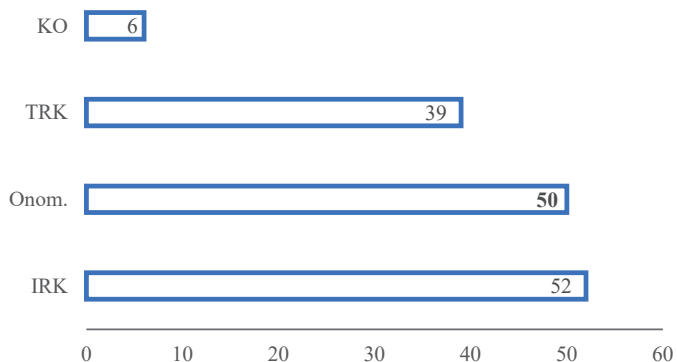
<sup>11</sup>「国境を越える宮沢賢治～変化～」の第 3 段落を参照（<https://www.kodomo.go.jp/anv10th/special/kenjimiyazawa.html> 2023 年 10 月 8 日最終アクセス）。

## (3) ドイツ語訳テキスト一覧

- ① Der Wolfswald, der Korbwald und der Diebswald (「狼森と箕森, 盗森」)
- ② Die Vulkanbombe mit dem guten Herzen (「気のいい火山弾」)
- ③ Das junge Echo (「若い木霊」)
- ④ Die Nacht im Eichenwald (「かしわばやしの夜」)
- ⑤ Die Eicheln und der Luchs vom Berge (「どんぐりと山猫」)
- ⑥ Die Früchte des Ginkgobaumes (「いちじょうの実」)
- ⑦ Der Lederkoffer (「革トランク」)
- ⑧ Das Gasthaus mit den vielen Aufträgen (「注文のおおい料理店」)
- ⑨ Das Büro der Katzen (「猫の事務所」)
- ⑩ Der Brüllfrosch und sein Trupp (「カイロ団長」)
- ⑪ Der Große Bär der Krähen (「からすの北斗七星」)
- ⑫ Der weiße Elefant (「オツベルとぞう」)
- ⑬ Die Zwillingsterne (「双子の星」)
- ⑭ Der Drache und der Dichter (「龍と詩人」)
- ⑮ Das Kind der Wildgans (「雁の童子」)
- ⑯ Der Nachtfalkenstern (「よだかの星」)
- ⑰ Das Netz des Indra (「インドラの網」)
- ⑱ Die Bären vom Nametoko (「なめとこ山の熊」)

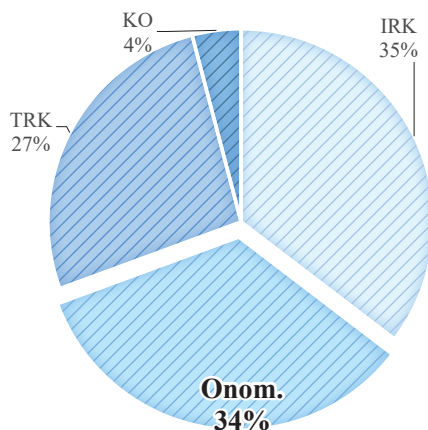
次にオノマトペを含む用例の出現頻度を紹介する。本稿ではオノマトペに焦点を当てて、ドイツ語の構文分析を行なっているが、実は元々の調査では、オノマトペを含む計3種類4構文を対象として調査を行なった。その結果、以下のグラフ1が示す通り、オノマトペ (Onom. と表記) は調査対象とした18の短編作品中に50例が確認できた<sup>12</sup>：

<sup>12</sup> グラフ1にあるKOは「同族目的語構文 (Kognates Objekt)」, IRKは「自動詞型結果構文 (Intransitive Resultative Konstruktionen)」, TRKは「他動詞型結果構文 (Transitive Resultative Konstruktionen)」を表す。



グラフ 1 出現数

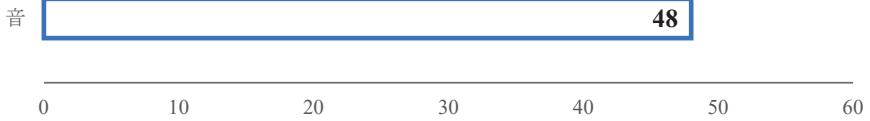
これは、調査した3種類4構文全体から見ると、1/3を占める割合となる（グラフ2参照）：



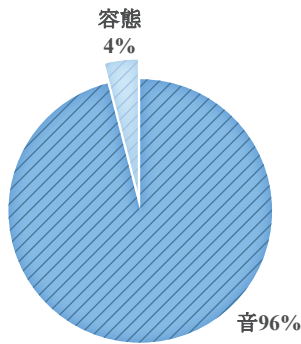
グラフ 2 出現率

さらに、上記の50例をオノマトペが文中で担っている役割・意味で分類すると、グラフ3（出現数2対48）とグラフ4（出現率4%対96%）が示す通り、「様態」に対して圧倒的に「音」を表していた：

様態 **2**



グラフ 3 出現数



グラフ 4 出現率

そこで、ドイツ語のオノマトペに関する研究を調査してみると、(4) や (5) のような記述が見られた<sup>13</sup>：

- (4) Wortprägung durch Nachahmung natürlicher Laute  
(Bußmann 2002: 484)

自然音の模倣により新しく作られた表現

- (5) … ein Wort ist zunächst ein Lautgebilde, und ein großer Teil der Dinge in der Welt sind Töne oder fallen uns durch die Töne auf, die sie hervorbringen. So ist es möglich, die Welt der Töne durch die Laute der Sprache nachzubilden. Und in allen Sprachen der Welt ist diese Möglichkeit in einem gewissen Umfang verwirklicht.

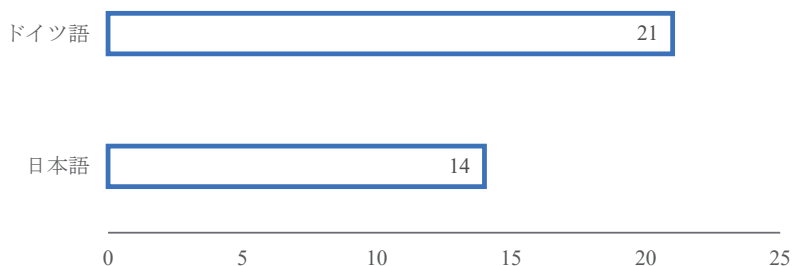
(Porzig 1950/1971<sup>5</sup>: 20f.)

<sup>13</sup> (4) と (5) で私訳中の下線は本稿執筆者による。

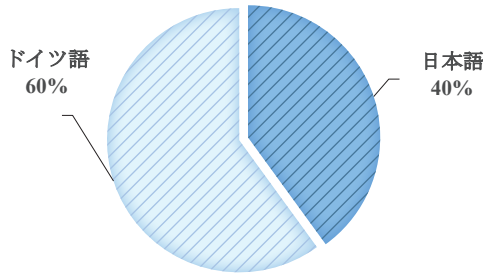
…語とはまず音によって形作られたものであり、世界に存在するモノの大部分は音であるか、あるいはそのモノが生み出す音を通して我々〔人間〕が注意を向けるようになる。このように言語音を通して音の世界を模倣することは可能である。そして世界のあらゆる言語では、ある程度この〔外界の音を模倣する〕可能性が実現されている

上記2つの引用とグラフ3、4の結果を第3節で検討したオノマトペの定義、すなわち「物の音や声など実際の音をまねて言葉とした語や、外界の状況や状態を想起・連想させるような視覚・触覚などの感覚印象を言語音で表現した語」に照らして考えてみると、ドイツ語訳に生起するオノマトペは圧倒的に前者、つまり「物の音や声など実際の音をまねて言葉とした語」（すなわち狭義の擬声語）であり、後者、つまり「外界の状況や状態を想起・連想させるような視覚・触覚などの感覚印象を言語音で表現した語」（すなわち擬態語）はほとんど出現していないことになる。

では、ドイツ語のオノマトペが狭義の擬声語であり、圧倒的に「物の音や声など実際の音をまねて言葉とした語」であるとすれば、日本語から翻訳された「音や声」はどのようにドイツ語では表現されているのであろうか。言い換えれば、ドイツ語訳に登場するオノマトペの由来は日本語なのだろうか、あるいはドイツ語に由来するオノマトペもある程度確認されるのだろうか。由来言語の調査結果がグラフ5、6である：



グラフ5



グラフ 6

本稿執筆者は当初ドイツ語訳に登場するオノマトペは、ドイツ語訳でもオノマトペとして生起させるのであれば、日本語をローマ字表記した日本語由来のものが圧倒的に多いだろうと予想していた。日本語らしい表現の1つであるオノマトペの中でも、宮沢賢治の駆使するオノマトペはまた非常に個性的であり、翻訳が非常に困難だろうと感じたからである。しかし今回の調査ではその予測は見事に裏切られた。実際に用例を数えてみると、日本語をそのままドイツ語の中に取り組んだオノマトペよりも、ドイツ語独自のオノマトペ表現を効果的に使っている場合の方が多かった。そこで、次節では実際の用例をいくつか取り上げ、日本語からドイツ語への翻訳の際にオノマトペがどのように変換されているかを考えていきたい。

### 5. 用例紹介：ドイツ語のオノマトペ

まず始めは、日本語由来のオノマトペがドイツ語の翻訳に使われている用例を挙げる。用例の該当部分には下線をつけ、用例の後には出典情報をカッコ付きで提示する。その際、ドイツ語訳の場合は作品名もわかるよう上記(3)で挙げた出典リスト中の作品番号も合わせて記す：

- (6) 「雨はざあざあ ざっざざざざあ  
風はどうどう どっどどどど  
あらばらばらばらったたあ  
雨はざあざあ ざっざざざざあ」 (宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 114)

“Der Regen rauscht zaazaa zazza-zazazazaa,  
 Der Wind heult doodoo doddo-dodododoo,  
 Der Hagel prasselt parapara paraparattataa,  
 Der Regen rauscht zaazaa zazza-zazazazaa.” (Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 53, ④)

- (7) 馬はプルルルと鼻を1つ鳴らして、… 歩き出しました。(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>:188)

Die Pferde schnauften “prrrr!” durch die Nüstern und setzten sich in Bewegung, … (Fischer 1980/1994<sup>2</sup>:29, ②)

用例(6)ではオノマトペが雨の降る音や風のうなる音、あられの落ちてくる音を効果的に表現しているが、ドイツ語訳ではそれらの具体的な音をローマ字で表記した日本語のオノマトペを登場させることで表現している。日本語由来のオノマトペであると判断した理由である。本稿執筆者はドイツ語訳中に登場するオノマトペの生起形のうち、このように日本語のオノマトペをそのままドイツ語訳に移行させた音の翻訳を「音転写」と呼んでいる。用例(7)でも同様に、馬の鼻を鳴らす音が音転写されている。ただ、用例(7)は用例(6)と少し状況が異なっている。厳密に言えば、日本語のオノマトペ中に生起する母音[u]がドイツ語訳のオノマトペでは脱落しているからである。そのため、日本語が4音節からなるオノマトペであるのに対して、ドイツ語では1音の表現として翻訳されている。このことは、当該文中での日本語のオノマトペの役割を理解した翻訳者が日本語での音を機械的にドイツ語へと変換したのではなく、日本語のオノマトペを最大限意識し、尊重しつつも、ドイツ語で馬が鼻を鳴らす際に発する音として最も効果的に読者に伝わるよう判断した結果であると考えられる。日本語に不慣れのためドイツ語訳で宮沢賢治の作品を楽しみたい読者にとって、日本語のオノマトペを単にドイツ語で忠実に再現することは、仮に日本語の音を楽しむことはできたとしても、宮沢賢治の生み出した場面をできる限り正確に再現し、イメージすることに支障が生じるかもしれないからである。このように翻訳者は音転写による変換の際に、一方ではドイツ語訳を読む読者のために場面や状況の理解しやすさを念頭におきながら、他方では宮沢賢治のオノマトペが持つ音の魅力を読者に伝える最大限の工夫をしていると言えるであろう。

オノマトペの翻訳では、原典に登場する音の再現と翻訳を読む読者の理解という2つの要因が常にせめぎ合うことになるが、時には日本語の音の忠実な再現よりも読者の理解を優先する必要も生じる。以下の用例(8-13)では、音転写による日本語オノマトペの再現ではなく、ドイツ語訳を読む読者により馴染みがあり、より状況が端的に理解できるドイツ語のオノマ



トペが使用されているものである。このことは、日本語のオノマトペが当該の場面や状況で果たす役割や効果に注目し、同じ役割や効果を持つドイツ語のオノマトペに変換していることを意味する。本稿執筆者はこの意味機能を重視したオノマトペの変換を「意味転写」と呼んでいる：

- (8) みんなはあっはあっはと笑って、うちへ帰りました。  
(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 35)  
Alle lachten laut haha! haha! und kehrten nach Hause zurück.  
(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 17, ①)
- (9) 馬車別当が、こんどは鈴をがらんがらんがらんがらんと振りました。  
(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 19)  
Jetzt läutete der Kutscher klingling die Glocke.  
(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 62, ⑤)  
The coachman rang his bell. Clang, clang! it went. (Bester 1996: 33)<sup>14</sup>
- (10) …、まるいものや、まるいようなものは、みんな卵のように、パチンと割ってしまうそうだよ。」  
(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 180)  
“… Alle runden und rundlichen Dinge sollen wie Eier knacks! kaputtgeschlagen werden!”  
(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 24, ②)
- (11) 「… 鳥も獣も一疋も居やがらん。なんでも構わないから、早くタンタアーンと、やって見たいもんだなあ。」  
(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 41)  
“… Kein Vogel, kein Biest! Egal was, ich möchte gleich mal peng! peng! drauflosschießen!”  
(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 89, ⑧)  
“Not a bird or beast in sight. I’m just dying to let fly at something; bang, bang! Anything, so long as it moves.”  
(Bester 1996: 45)
- (12) そのとき、風がどうと吹いてきて、草はいちめん波立ち、…  
(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 16)  
Da kam hui! ein Windstoß, daß das Gras ringsum wie Wellen wogte, …  
(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 61, ⑤)  
A sudden gust of wind rippled over the grass, … (Bester 1996: 31)
- (13) 別当がこんどは、革鞭を二三べん、ひゅうぱちっ、ひゅう、ぱちっと鳴らしました。  
(宮沢賢治 1990/2011<sup>43</sup>: 19)

<sup>14</sup> ここでは参考情報として英語訳も合わせて引用した。まだ包括的・網羅的な調査ではないため、以下では入手できている用例の場合に限って引用する。

Der Kutscher ließ hui-wipp zwei-, dreimal die Peitsche knallen.

(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 62, ⑤)

Swish, crack! swish crack! went the coachman with his whip.

(Bester 1996: 35)

用例 (8) では、日本語の「あっはあっは」という笑い声がドイツ語では *haha! haha!* と変換されている。音転写による *ahha ahha* が完全に不可能であったのかといえば、本稿執筆者には可能であるようにも思える。しかし、この場面では音転写による日本語の音の共有以上に、日本語のオノマトペが描写している楽しげで満足げな状況をドイツ語でも生み出すことのできるドイツ語オノマトペ *haha! haha!* の表現を選択した方が効果的であろうと翻訳者が判断したのだとすれば、本稿執筆者はその判断の方が適切であると感じている。言語音の持つ聴覚印象は読者に直接訴える力があると考えからである。同様のことは、用例 (9-13) にも基本的には当てはまるだろう。用例 (9) に登場するドイツ語のオノマトペ *klingling* は「鈴 (*die Glocke*)」の生み出す音とよく馴染み、”knacks!” (10) は何か固いものが一瞬で割れる音を思い起こさせる。銃で何かを撃ち始める (*drauflosschießen*) 時に聞こえる音は、やはりドイツ語では *peng! peng!* がよく使われるだろうし、英語では *bang, bang!* となるようである<sup>15</sup>。用例 (11) の *hui!* は、突然吹き起こる強い風、すなわち突風 (*ein Windstoß*) の速い動きを想起させるドイツ語オノマトペであり、仮にここで音転写による *doo* を用いても読者にはこの場面のイメージが湧きにくいだろうと容易に想像ができる。同じことは用例 (13) の鞭 (*die Peitsche*) のしなる音にも当てはまり、ドイツ語のオノマトペ *hui-wipp* が呼び起こすであろう、しなやかな鞭が風を切って素早く生み出す打ちつけ音を音転写の *hyuupacchi, hyuu, pacchi* が呼び起こせるようには本稿執筆者には感じられない。

<sup>15</sup> ドイツ語のオノマトペ *peng!* は銃声を表現しているため、ここで翻訳者が *peng! peng!* と2回繰り返して表現したことは、本来的には2発の銃声を表していることになる。日本語の「バン、バン」に近い語感であろう。さらに、このドイツ語オノマトペは、銃声を描写している点では日本語や英語のオノマトペと同じであると言えるが、表現されている音質は有声破裂音 [b] を語頭に持つ日本語の「バン、バン」や英語の *bang, bang!* よりも軽やかな印象を喚起させるため、結果的に宮沢賢治の使ったオノマトペ「タンタアーン」に音質的に近づくだけではなく、繰り返すことによって宮沢賢治のオノマトペに長さの点でも近づけていると考えられる。

それでは、ドイツ語への翻訳の際に音転写と意味転写の境界はどこにあるのだろうか。両者を厳密に分ける形式的な基準はもちろん考えにくく、究極的には翻訳者の判断に委ねる部分が多いものではあると思われるが、これまで検討してきた用例からも1つの判断材料になるのがドイツ語の動詞であることが見て取れる。音転写でオノマトペが再現されている用例(6-7)で使われている動詞は、不定形(原形)で示すと *rauschen*, *heulen*, *prasseln*; *schnaufen* と、どれも状況を描写する細やかな意味情報がすでに動詞の中に入っているものばかりである。例えば、戸川他(1992)の『マイスター独和辞典』によれば、*rauschen* は「(風・海・小川・雨・林・絹の布地などが)ざわざわ〔じゃぶじゃぶ・さらさら〕音を立てる」ことを意味し、主語である「雨」が生み出している「一定の間隔で持続する鈍い(騒・雑)音」<sup>16</sup>の存在が前提となっている。ドイツ語訳を楽しむ読者は、動詞が表すこの音が宮沢賢治の用例(6)の中では *zaazaa zazza-zazazazaa* として具体的に言語化されていると理解し、原典である日本語の音を享受するのであろう。同様に、2行目の動詞 *heulen* はここでは転義的に「うなる、びゅうびゅう吹く(風などが)」ことを意味しているが、ドイツ語を読む読者は風によって生み出される音が *doodoo doddo-dodododoo* と表現されていることを知るのである。3行目の *prasseln* は「当ってぱらぱら〔ぱちぱち〕音を立てる(雨が屋根などに)、落ちてぱらぱら〔ぱちぱち〕音を立てる(豆が床などに)」ことを表すため、屋根などにあられが当たって生み出した音を *parapara paraparattataa* と描写していることが理解できるのである。また、用例(7)の *schnaufen* は「荒い息遣いをする、あえぐ(運動・興奮などで)」とあり、馬の荒々しく長い息遣いが *prrr* と具体的に再現されていることになる。

他方、意味転写によるオノマトペの再現例(8-13)では、*lachen*「笑う」、*läuten*「鳴る、鳴り響く」、*kaputtschlagen*「叩いてダメにする、叩いて壊す」、*losschießen*「撃ち始める」、*kommen*「来る；起こる、生じる」、*knallen*「すごい音を立てる(爆弾・むち・足音などが)」といった動詞が用いられているが、これらの動詞が表す行為や出来事には必ず何らかの「物理的な音」の発生が伴っているか、あるいはドイツ語においてはこれらの動詞とともに

<sup>16</sup> DDU(2003: s.v.)の記述 *ein gleichmäßiges, anhaltendes dumpfes Geräusch hören lassen (wie das Laub von Bäumen, wenn es sich im Wind stark bewegt)* に基づく。

に生起する名詞 (Windstoß, Peitsche) には関係の深い特定の「馴染み深い音」が結びついているため、音転写で日本語のオノマトペをわざわざ表示して個別的な音を具現化させる方法を取ることももちろん可能ではあると思われるが、ドイツ語で慣例的に使用されているオノマトペを活用する方がより効果的なのであろう。描写場面の状況やイメージを的確に伝達することが翻訳の重要な役目であるとするれば、日本語のオノマトペに触れ、それを楽しむこと以上に、読者のよく知っている馴染み深いオノマトペを用いることで場面の理解がそれだけ容易くなるのであれば、結果的に意味的な対応関係に基づいたドイツ語訳がなされることになると考えられる。

このようにオノマトペを翻訳する方法の選択をドイツ語の動詞の持つ意味との関係で考察すると、ドイツ語訳オノマトペの生起形として第3の可能性が見えてくる。すなわち、オノマトペの要素のみしか持たない動詞がドイツ語の中に存在するとなれば、日本語のオノマトペ表現はドイツ語訳では動詞のみで再現されるだろうという可能性である。今回の調査では、宮沢賢治のドイツ語訳の中からそのような「動詞表現」のみによる日本語オノマトペの再現例として最適な用例を見つけることはできなかったが、深く関連すると考えられる用例 (14) と、夏目漱石の作品から見つけた該当例 (15) を以下に挙げる：

- (14) 象は一せいに立ち上がり、真っ黒になって吠えだした。

(宮沢賢治 1989/2011<sup>57</sup>: 120)

Die Elefanten erhoben sich wie ein Mann und begannen, aufgeregt durcheinander zu trompeten.

(Fischer 1980/1994<sup>2</sup>: 153, ⑫)

Rousing themselves, the herd gathered together and began trumpeting till they were purple in the face.

(Bester 1996: 111, 113)

- (15) …ニャーニャーと愛嬌を振り蒔いて膝の上に這い上がってみた。

(夏目漱石 1961/2001<sup>88</sup>: 79)

…; ergo maunze ich liebenswürdig und versuchte, auf seinen Schoß zu klettern.

(Putz 1996: 107)

用例 (14) が最適の例文とは言えないのは、宮沢賢治の原典には象の吠え声に相当するオノマトペが描写されていないからである。用例中の動詞 trompeten (英語では trumpet) は、元来は「トランペットやラッパを吹く」ことを意味する動詞であるが、『マイスター独和辞典』には転義的な意味

として「(象が) ぶおうとほえる」と明示されている。この辞書記述にあるように、「ぶおう」等のオノマトペ表現を用いて象の吠え声を文中で再現する可能性があったはずであるにもかかわらず、原典にもドイツ語訳にもオノマトペ表現は出現していない。用例(15)では「ニャーニャー」と鳴く猫の鳴き声から生まれた動詞 *maunzen* を用いてドイツ語に翻訳している<sup>17</sup>。ドイツ語で猫の鳴き声を表すオノマトペ *miau* を生起させる翻訳も全く不可能ではないと思われる一方で、オノマトペを意味的に組み込んでいる動詞表現による翻訳が選択されている。ドイツ語でも日本語でも猫や犬については、独自の典型的なオノマトペやそのオノマトペを内包した動詞表現がある一方で、用例(14)の象は独自の典型的なオノマトペも見当たらないだけでなく、動詞の転義的表現によって始めて鳴き声を描写している。人間にとってどれだけ身近な動物と言えるかという程度の差が言語にも反映されていると言えるのかもしれない。

## 6. 翻訳における言語の影響

宮沢賢治作品のドイツ語訳を分析することで、ドイツ語のオノマトペは音、すなわち聴覚領域が際立って優位であることや、翻訳の際にドイツ語本来のオノマトペが予想以上に多く使用されていることが確認された。言語の構造分析の対象に翻訳書を使用することについては、賛否両論あると思われるが、これまで恐らくは直感的、あるいは経験的に理解していたことを、限定的であったとはいえ、実証的に提示できたことには十分意義があると本稿執筆者は考えている。また、日本語から翻訳されたドイツ語には、翻訳者の好む文体が頻出することや、原典言語である日本語の文法的構造がある程度影響を与えていることなどを当然想定しなければならないものの、ドイツ語訳テキストを生み出していく翻訳者は、日本語での原典を介して自身が認知・理解した出来事をドイツ語で再現していく中で、自身が理解した出来事を最適な表現方法で再構築しようと試みるため、翻訳者がどのような言語手段や表現手段を用いて同一の出来事として自身の言語で表現するかを検討することは十分可能であると本稿執筆者は考えてい

<sup>17</sup> このドイツ語訳で、より一般的な動詞であると考えられる *miauen* が選択されなかった理由の1つは、当該動詞により「悲哀の籠った鳴き声を長く延して発する ([lang gezogene] klägliche Laute von sich geben; DDU (2003: s.v.))」状況を際立たせたいと翻訳者が判断したと考えることができるだろう。

る。このことは、単にドイツ語と日本語という異なる系統の言語の間での言語類型論的比較対照が可能になることを意味するだけではなく、従来のドイツ語を原典とするテキストに基づく構文分析とは異なる視点からの構文分析を実行することを意味し、新しい発見が期待される。そして究極的には人間が共通に有している認知能力を使って知覚・認知した状況を言語化するストラテジーを解明する上でも非常に重要な視座を提供してくれるとも考えている。

## 7. おわりに

本稿では、宮沢賢治作品のドイツ語訳分析を通じて、仮に原典の構造や翻訳者の好む文体からの影響などを考慮したとしても、日本語のオノマトペをドイツ語に翻訳する場合には一様の表現方法は用いられず、様々な方法での翻訳、より正確には翻訳者によって「(内容的に) 等価である」と判断された表現が用いられていることを明示することを試みた。その結果、ドイツ語のオノマトペは音、すなわち聴覚領域が際立って優位であることや、翻訳の際にドイツ語本来のオノマトペが予想以上に多く使用されていることが確認された。また、オノマトペを翻訳する際の3つのストラテジーとして、本稿執筆者が「音転写」、「意味転写」、「動詞表現」と呼ぶ方法を具体的に例示した。ドイツ語にも同等あるいは類似の表現がある場合には、一般的に翻訳者はドイツ語での内容理解や状況把握のためにドイツ語に存在する表現を積極的に活用するものの、類似・対応表現がない場合には、日本語のオノマトペを敢えて翻訳せず、単にドイツ語表記に切り替えたものを、状況を詳細に描写する動詞とともに使用して日本語オノマトペの意味が読者に正しく伝わるよう配慮している。

本稿での分析は Fischer (1980/1994<sup>2)</sup>) が翻訳し、編集した宮沢賢治の短編小説集に基づいているが、今回の結論がより一般的な意味を持つためには、Stalph (2021) による『銀河鉄道の夜』のドイツ語訳での調査と検証が必要不可欠である。また、今回のように日本語が原典の作品をドイツ語に翻訳したものと逆に、ドイツ語が原典の作品を日本語に翻訳したものも調査し、検証を重ねる必要があるだろう<sup>18</sup>。しかし、これらの点についてはまた稿を改めて、検討したいと考えている。

<sup>18</sup> 現在、本稿執筆者は手始めに Michael ENDE の作品での分析に着手している。

最後に、本稿執筆者が今回の分析・検討結果に対してどのような言語学的意義を見出しているのかを簡単に紹介したい。ドイツ語訳の中に生じたオノマトペは、いずれも動詞との関連で考えることが可能で、動詞の表す行為や出来事の結果発生した何らかの物理的な音を指示している。この音がオノマトペとして具体的に文中に再現されることになるが、その再現方法には翻訳者が動詞の中にすでに存在している細やかな意味情報を必要に応じて個別的にオノマトペとして具現化・言語化させた場合もあれば、ドイツ語では習慣的・慣例的にその音と深く結びついているオノマトペを用いて再現させる場合もある。いずれの場合も、オノマトペは翻訳者が日本語の原典を通じて知覚・理解した特定の場面状況を読者に最も効果的に伝達する役割を担うことになる。このオノマトペは、ドイツ語の文法上、それ自体が必要不可欠な文の要素ではなく、自由に添加されたものではあるが、宮沢賢治が生み出した作品の世界を翻訳者の知覚・理解を通じて読者が共有あるいは追体験するという観点からは非常に重要な要素になっている。Talmy (1985, 2000) による「語彙化のパターン (Lexicalization patterns)」の研究が、ある言語の動詞語義の中にどのような要素が意味的に組み込まれているのかを分析・解明したものであるとすれば、今回のオノマトペは、まさにその逆方向のプロセス<sup>19</sup>を示しており、ドイツ語の動詞や名詞の中にすでに語彙化され組み込まれている特徴的な「音」という意味要素を意図的に文中に取り出し、具体的に再言語化することにより、詳細で具象的な出来事の記述を可能にするプロセスと見なすことができるのではないかと本稿執筆者は考えている。以下の(16)で示すTalmy (2000: 128) の *salience* (際立ち) という術語を用いれば、この「音」の意味要素をオノマトペとして具現化させるプロセスは、「文法上は必要不可欠な要素とは言えないオノマトペではあるものの、場面描写の観点からは極めて際立った要素であり、読者の注目や関心・理解を高めるため、オノマトペとして音の意味要素を翻訳者が言語化するもの」と捉えることができよう<sup>20</sup>。

<sup>19</sup>「語彙化」の反対のプロセスは、どのような名称で表すのが最もその本質を反映させることができるのか、今後も慎重な検討が必要であろうが、現時点では本稿執筆者は、個別化 (Individualisierung), 具現化 (Realisierung), 具体化 (Verkörperung), 具象化 (Verdinglichung), 可視化 (Visualisierung), 言語化 (Verbalisierung), 実体化 (Materialisation) などとイメージしている。

<sup>20</sup>Talmy (2000: 128) の *salience* (際立ち) の考え方は、用例 (6) の日本語とドイ

- (16) salience: the degree to which a component of meaning, due to its type of linguistic representation, emerges into the foreground of attention or, on the contrary, forms part of the semantic background where it attracts little direct attention ... (Talmy 2000: 128)

## 引用出典

- Bester, John (1996) *The Tales of Miyazawa Kenji* 『ベスト・オブ宮沢賢治短編集』. 東京: 講談社インターナショナル.
- Fischer, Johanna (1980/1994<sup>2</sup>) *Die Früchte des Ginkgo: Märchenhafte Erzählungen aus Nord-Japan* Stuttgart: Neske. ©J.G. Cotta'sche Buchhandlung Nachfolger GmbH.
- 夏目漱石 (1961/2001<sup>88</sup>) 『我が輩は猫である』東京: 新潮社 (=新潮文庫).
- 宮沢賢治 (1990/2011<sup>43</sup>) 『注文の多い料理店』東京: 新潮社 (=新潮文庫).
- 宮沢賢治 (1989/2011<sup>57</sup>) 『新編 銀河鉄道の夜』東京: 新潮社 (=新潮文庫).
- 宮沢賢治著, John Bester 訳 (1996) 『ベスト・オブ宮沢賢治短編集』 *The Tales of Miyazawa Kenji* 東京: 講談社インターナショナル株式会社.
- Putz, Otto (1996) *Ich der Kater*. Frankfurt am Main und Leipzig: Insel.
- Stalph, Jürgen (2021) *Eine Nacht in der Milchstraßenbahn*. Bad Berka: cass.

## 参考文献

- Bußmann, Hadumod (2002) *Lexikon der Sprachwissenschaft*. Stuttgart: Körner.
- DDU: *Duden Deutsches Universalwörterbuch* (2003). 5., überarbeitete Aufl. Hrsg. von der Dudenredaktion. Mannheim/Leipzig/Wien/Zürich: Dudenverlag.
- 窪蘭晴夫 (2017) 「日本語にはオノマトペが欠かせない」. 窪蘭晴夫編 (2017) 『オノマトペの謎 ピカチュウからモフモフまで』 1-7. 東京: 岩波書店 (=岩波科学ライブラリー 261).
- 九頭見和夫 (1996) 「宮沢賢治と外国文学一童話『やまなし』の比較文学的考察 (その1)」. 『福島大学教育学部論集』 61: 53-70.
- 『広辞苑』 (2018<sup>7</sup>). 東京: 岩波書店.
- 『精選版 日本国語大辞典』 (2006). 東京: 小学館.

ツ語の差も説明できる。すなわち、原典の日本語にはオノマトペは生起しているものの、動詞は記されていない。オノマトペは際立たされているが、通常の動詞表現である「(雨は) 降る」, 「(風は) 吹く」, 「(あられ) 降る, 落ちてくる」は注目の度合いが低く、際立った要素とは言えず、消去されていても描写されている状況の追体験には大きな支障はないと考えられるからである。むしろ動詞表現を消去することで、残されたオノマトペ表現が一層注目される効果も持っているようにも感じる。ドイツ語訳の動詞は、意味情報の多い動詞であるため読者は始めからある種の音を想定しているが、動詞の持つ音の意味情報を通常のドイツ語のオノマトペを使って具現化するのではなく、敢えて音転写による日本語での具現化をすることで相乗効果が期待できるように感じられる。



- Porzig, Walter (1950/1971<sup>5</sup>) *Das Wunder der Sprache*. 5. durchgesehene Aufl. München: Francke (= UTB 32).
- 島憲男 (2023) 「構文の機能的役割: 宮沢賢治のドイツ語訳テキストを手がかりに」. 『京都産業大学総合学術研究所報』 17: 27-59.
- Talmy, Leonard (1985) Lexicalization patterns: Semantic structure in lexical forms. In: Shopen, Timothy (ed.) *Language Typology and Syntactic Description, Vol. III, Grammatical Categories and the Lexicon*. Cambridge, UK: Cambridge University Press, 57-149.
- Talmy, Leonard (2000) *Toward a Cognitive Semantics. Volume 2: Typology and Process in Concept Structuring*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 戸川敬一, 榎本久彦, 人見宏, 石村喬, 木村直司, Franz-Anton Neyer, 佐々木直之輔編 (1992). 『マイスター独和辞典』. 東京: 大修館書店.



## 19 世紀後半から 20 世紀末までの 日本とロシアの文学作品における会話表現の比較

北上光志

**【要旨】** 文学作品では、会話は直接話法によって表現される。直接話法は作者の言葉 (AW) と登場人物の言葉 (CW) から構成されている。会話形式における AW の述語動詞には、発話を意味する動詞 (TVS) だけでなく、発話を意味しない動詞 (TVN) も含まれる。会話形式は AW と CW の位置的組み合わせにより 4 タイプに分類される：タイプ A：AW が CW の前にある／タイプ B：AW が CW の後にある／タイプ C：AW が CW と CW の間にある／タイプ D：CW が AW と AW の間にある。

本稿は従来の研究では不十分であったロシアと日本の小説における会話形式の特徴を TVN の観点から明らかにする。本稿は 2 つの分析基準を提案した：1) 4 タイプの会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度、2) 語彙の意味分類に応じた 4 タイプの会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度。

そして、分析の結果、以下のことが明らかになった。

- 1) ロシアの小説では TVN はタイプ C の会話形式で集中的に出現するが、日本の小説では TVN は特定のタイプの会話形式に偏って現れることはなく、最も頻繁に使用される会話形式に付随して用いられる。
- 2) 「表情」と「仕草」を意味する TVN は、ロシアと日本の小説のあらゆる会話形式で頻繁に使用される。
- 3) 理論的には、TVN とタイプ C は密接な関係にあるが、ロシアと日本人の作家のタイプ C の会話形式に対する認識の違いにより、タイプ C での TVN の現れ方が異なる。

**キーワード：** 発話を意味する動詞、発話を意味しない動詞、4 タイプの会話形式、タイプ C、発話を意味しない動詞の語彙の意味

### 1. 序論

日本の歴史において、1868 年は新しい時代 (明治) の始まりであり、260 年以上続いた「徳川 (江戸) 幕府」の封建的国家制度の打倒と改革の年であった。回復された天皇の権威の下で、ロシアを含むヨーロッパ諸国をモデルとして国家システムが構築された。当時の日本文学では、改革

への渴望とヨーロッパ文化に追いつきたいという願望が、主に文学と日常生活を紹介する数多くの翻訳作品やオリジナル作品で具現化された。日本の作家によるヨーロッパ風の文学作品の模倣により、日本とロシアの文学作品を同じ基準で比較することが可能になった。

## 2. 会話表現の2種類の動詞

A.N. Baranov と G.E. Krejdlin (1992, p.89) によれば、「あらゆる種類の会話の不変的特徴は音声相互作用のダイナミック性である」。小説では、他人の音声を伝達する表現形式（直接話法、準直接話法、間接話法など）が使用される。直接話法は、他の話法とは異なり、感情を伴う現実の話し言葉に近い形式で表現される。小説では、会話は直接話法構文によって表現される。直接話法構文は、作者の言葉（以下 AW）と登場人物の言葉（以下 CW）から構成されている。

ロシアと日本の小説における会話形式の AW の述語動詞は、発話を意味する動詞と発話意味しない動詞の2つのグループに分類される（ロシア語については M. Kitajo (1994, 2020), 日本語については Y. Fujita (2000)）。本稿では、発話を意味する動詞による直接話法構文を「発話動詞タイプ（以下 TVS）」、発話を意味しない動詞による直接話法構文を「非発話動詞タイプ（以下 TVN）」と呼ぶ。例文を示そう。

ロシア語

TVS

- (1) *Ja ne mogu soglasit'sja! - skazal Ivan.*  
私 否 できる 同意する 言った イワン

「同意できません！」とイワンが言った。

TVN

- (2) *Ja ne mogu soglasit'sja! - vstal Ivan.*  
私 否 できる 同意する 立ち上がった イワン

「同意できません！」とイワンが立ち上がった。

日本語

TVS

- (3) 「私は同意できません！」と太郎が言った。

## TVN

(4) 「私は同意できません！」と太郎が立ち上がった。

多くの研究者 (V.D. Levin (1960), M.G. Byrka (1986), V.L. Rinberg (1987) など) は, TVN は TVS の一種であり, AW で発話動詞が省略されたものであると主張している。Yu. A Bel'chikov (1990, p.592) によれば, 「省略とは, 発話文あるいは文章の構成要素の一部が脱落し, それは文脈から容易に復元され, 意味論的および構文的な並列処理によって意味の明確さが与えられる」。換言すれば, 文の意味を変えることなく, 文の省略された部分または文の構成要素が復元される。しかしながら, 省略されたものを復元すると文の意味が変わる場合がある。例えば, 例文 5 の「vstal」, 例文 6 の「立ち上がった」と例文 7 の「usmekhnulsja」, 例文 8 の「ニヤリと笑った」は, 発話と同時に行為 (vstat', usmekhnut', 立ち上がる, ニヤリと笑う) が起こったことを表している。

(5) - *Ja ne mogu soglasit'sja!* - *vstal Ivan.*  
私 否 できる 同意する 立ち上がった イワン

「同意できません！」とイワンが立ち上がった。

(6) 「私は同意できません！」と太郎が立ち上がった。

(7) - *Ona tebe navorožhit!* - *usmekhnulsja Ivan.*  
彼女 君 ダメにするだろう ニヤリと笑った イワン

「彼女は君をダメにするだろう！」とイワンがニヤリと笑った。

(8) 「彼女は君をダメにするだろう！」と太郎がニヤリと笑った。

例文 9 の「vstal」, 例文 10 の「立ち上がった」および例文 11 の「usmekhnulsja」, 例文 12 の「ニヤリと笑った」は, 発話後の行為を示している。つまり, (9) イワンは言ってから立ち上がった。／ (10) 太郎は言ってから立ち上がった。／ (11) イワンは言ってからニヤリと笑った。／ (12) 太郎は言ってからニヤリと笑った。

(9) - *Ja ne mogu soglasit'sja!* - *skazav, Ivan vstal.*  
私 否 できる 同意する 言って イワン 立ち上がった

「同意できない！」と言って, イワンが立ち上がった。

(10) 「同意できない！」と言って, 太郎が立ち上がった。

- (11) – *Ona tebe navorožbit! – skazav, Ivan usmekhnulsja.*  
 彼女 君 ダメにするだろう 言って イワン ニヤリと笑った  
 「彼女は君をダメにするだろう！」と言って、イワンがニヤリと笑った。
- (12) 「彼女は君をダメにするだろう！」と言って、太郎がニヤリと笑った。

例文 13 の「vstal」, 例文 14 の「立ち上がった」および例文 15 の「usmekhnulsja」, 例文 16 の「ニヤリと笑った」では、発話をしているある瞬間に行う行為を示している。つまり、(13) イワンは話している時に立ち上がった。／(14) 太郎は話している時に立ち上がった。／(15) イワンは話している時にニヤリと笑った。／(16) 太郎は話している時にニヤリと笑った。

- (13) – *Ja ne mogu soglasit'sja! – govorja, Ivan vstal.*  
 私 否 できる 同意する 言いながら イワン 立ち上がった  
 「同意できない！」と言いながら、イワンが立ち上がった。
- (14) 「同意できない！」と言いながら、太郎が立ち上がった。
- (15) – *Ona tebe navorožbit! – govorja, Ivan usmekhnulsja.*  
 彼女 君 ダメにするだろう 言いながら イワン ニヤリと笑った  
 「彼女は君をダメにするだろう！」と言いながら、イワンがニヤリと笑った。
- (16) 「彼女は君をダメにするだろう！」と言いながら、太郎がニヤリと笑った。

以上のように、TVN は省略のある構文であるとは限らない。TVN は TVS の一種ではなく、独立した直接話法構文である。

### 3. 本稿の目的

多くの研究者 (N.F. Shumilov (1959), M.K. Milykh (1962), L.V. Umantseva (1980), A.A. Burov (1983), N.I. Chirkova (1992), / K. Okutsu (1970), H. Teramura (1981), Y. Sunagawa (1989)) は、TVS と TVN の違いには触れず、AW の動詞の文体的および語彙的な意味に注目している。また、M. Kitajo (2020) は TVN の語彙的な意味を分析しているが、ロシアの小説に

における会話形式については言及していない。さらに、従来の研究では、文学作品における AW と会話形式の関係についての言語間での対照研究を行っていない。

本稿は、19 世紀後半から 20 世紀後半までのロシアと日本の小説における TVN と会話形式を分析する。この際、以下の分析基準を提案する。

- 1) 4 タイプの会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度
- 2) 語彙の意味区分に基づく 4 タイプの会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度

#### 4. 分析資料

分析資料として、19 世紀後半から 20 世紀後半のロシアの小説（18 作品、表 1 を参照）と日本の小説（23 作品、表 2 を参照）を用いる。各表の作品の冒頭のアルファベットは作品の略称を表している。

表 1 ロシアの小説

[LED]	<i>Ledi Makbet mtsenskogo uezda</i> (ムツェンスク郡のマクベス夫人) (N.S. Leskov, 1864)
[PRS]	<i>Prestuplenie i nakazanie</i> (罪と罰) (F.M. Dostoevskij, 1866)
[OBR]	<i>Obryv</i> (断崖) (I.A. Goncharov, 1869)
[NOV]	<i>Nov'(part 1)</i> (処女地) (I.S. Trugenev, 1877)
[CHE]	<i>Cherny monakh</i> (黒衣の僧) (A.P. Chekhov, 1894)
[VOS]	<i>Voskresenie</i> (復活) (L.N. Tolstoj, 1899)
[MAT]	<i>Mat'</i> (母) (M. Gor'kij, 1906)
[KHO]	<i>Khobzhenie po mukam (book 1)</i> (苦悩の中を行く) (A.N. Tolstoj, 1920)
[MAS]	<i>Master i Marugarita</i> (巨匠とマルガリータ) (M.A. Bulugakov, 1928)
[POD]	<i>Podnjataya tselina (book 1)</i> (開かれた処女地) (M.A. Sholokhov, 1932)
[KOL]	<i>Kolkhida</i> (コルヒダ) (K.G. Paustobskij, 1934)
[PER]	<i>Pervye radosti</i> (最初の喜び) (K.A. Fedin, 1945)
[DOK]	<i>Doktor Zhivago (book 1)</i> (ドクトル・ジヴァゴ) (B. Pasternak, 1957)
[LJU]	<i>Ljubaviny</i> (リュバヴィン家) (V. Shukshin, 1965)
[RAK]	<i>Rakovyj korpus (book 1)</i> (ガン病棟) (A.I. Solzhenitsyn, 1966)
[POS]	<i>Paslednij srok</i> (最終期限) (V.G. Rasputin, 1970)
[DET]	<i>Deti Arbata(part 1)</i> (アルバートの子供たち) (A.N. Rybakov, 1987)
[SHE]	<i>Shest'sot let posle binvy</i> (戦後 600 年) (A.A. Prokhanov, 1990)

表2 日本の小説

[UKI]	浮雲 (第1編) (二葉亭四迷, 1889)
[GOJ]	五重塔 (幸田露伴, 1892)
[KON]	金色夜叉 (尾崎紅葉, 1897)
[HOT]	不如帰 (徳富蘆花, 1899)
[KOY]	高野聖 (泉鏡花, 1900)
[ARA]	新世帯 (徳田秋声, 1908)
[DAI]	大菩薩峠 (甲源一刀流の巻) (中里介山, 1913)
[ARU]	或る女 (有島武郎, 1919)
[UMI]	海に生くる人々 (葉山嘉樹, 1926)
[YOA]	夜明け前 (島崎藤村, 1929)
[SAS]	細雪 (上巻) (谷崎潤一郎, 1936)
[MIY]	宮本武蔵 (地の巻) (吉川英治, 1939)
[SHA]	斜陽 (太宰治, 1947)
[FUR]	不連続殺人事件 (坂口安吾, 1948)
[HAR]	春の城 (阿川弘之, 1952)
[AKA]	赤ひげ診療譚 (山本周五郎, 1958)
[KOT]	古都 (川端康成, 1962)
[HIK]	光る海 (石坂洋次郎, 1963)
[KOK]	恍惚の人 (有吉佐和子, 1972)
[ORO]	おろしや国酔夢譚 (井上靖, 1974)
[KAT]	火宅の人 (檀一雄, 1975)
[NAM]	波の唇 (水上勉, 1985)
[IJN]	異人たちの夏 (山田太一, 1991)

## 5. 分析

AWとCWの組み合わせ方によって会話形式を分析する。本稿では、会話形式におけるCWとAWの組み合わせは以下の4通りを提案する。

(H. Bonheim (1982) と G. Lacaze (2013) は、英語におけるタイプA, B, Cを示しているが、タイプDには言及していない。)

タイプA: AWがCWの前にある

タイプB: AWがCWの後にある

タイプC: AWがCWとCWの間にある

タイプD: CWがAWとAWの間にある

それでは、ロシア語と日本語のタイプA, B, C, Dの例を挙げよう。(例文において、CWはダッシュ(ロシア語)、引用符(日本語)で表し、例文の最後に記載されている略語は、表1、表2の作品のタイトルを示している)



## タイプ A

(17) *Anna perekrestilas':*

アンナ 十字を切った

– *Slava tebe gospodi! Ogljanulsja milostivets nashu nuzhdu!*  
 栄光 あなた 主よ 顧みた 恩人 私たちの 貧しさ

[POD]

アンナは十字を切った。

「主よ、汝に栄光あれ！貧乏な私たちのことを顧みてください」

(18) 千重子は、母の膝の上で、小さい頭を振り、「来いしまへん。私のことを、お嬢さんて呼んだりして…」 [KOT]

## タイプ B

(19) – *Na koj chert on tebe nuzhen? – smorschbilsja Pastukhov.*

いったい それ あなた 必要 顔をしかめた パストゥホフ

「いったい、なぜそれがあなたに必要なのか？」パストゥホフは顔をしかめた。 [PER]

(20) 「また猥褻」とお勢は眉をひそめる。 [UKI]

## タイプ C

(21) – *No chego vy mozhetе bojat'sja? – ona obernulas' obizhennaja.*

しかし何 あなた できる 恐れる 彼女 振り返った 怒りながら

– *Neuzheli vy ne verite.*

本当に あなた 否 信じる

[RAK]

「しかし、あなたは何を恐れるというのですか？」彼女は腹を立てて振り返った。「本当に信じられないのですか？」

(20) 「八ツ半です」と卯兵衛は寝衣の衿を搔き合わせた、「弥平の女房がお迎えにきていますが、いってくださいますか」 [AKA]

## タイプ D

(23) *Chirva neozhidanno rasserdilsja:*

チルヴァ 突然 怒った

– *Ot etikh nepreryvnykh kutezhej stradaet kto? – No ego*  
 から これらの 絶え間ないこと 大騒ぎ 苦しむ 誰 しかし 彼

*vzjali v avtomobil' vmeste s drugimi.*

掴む へ 車 一緒に と 他の人たち [KHO]

チルヴァは突然怒り出した。「このような絶え間ないお祭り騒ぎで誰が苦しんでいるのでしょうか？」しかし彼らは彼を他の人たちと一緒に車に乗せた。

- (24) ある時妙子は、そっと紐を取り出して、「これ着けなさい」と、雪子に渡した。 [SAS]

## 5.1. ロシアの小説における TVN の使用頻度と 4 タイプの会話形式

### 5.1.1. ロシアの小説における TVN の使用頻度

19 世紀後半から 20 世紀後半のロシアの小説を 50 年ごとに 3 区分し、用いられている TVN の使用頻度を表 3, 表 4, 表 5 にまとめた。これらの表は次のように構成されている。左端の縦のコラムは小説のタイトルを示す。列のアルファベットは以下のことを示している。'A': AW が CW の前にある。「B」: AW が CW の後にある。「C」: AW が CW と CW の間にある。「D」: CW が AW と AW の間にある。TVN の使用頻度が最も高いところを太字で示す。例えば、「Prestuplenie i nakazanie (罪と罰)」[PRS] (表 3 を参照) では、タイプ A の TVN が 1 回 (2.4%) 使用され、タイプ B の TVN が 15 回 (36.6%) 使用されている。タイプ C の TVN が 25 回 (61.0%) 使用され、タイプ D では TVN が使用されていない。この作品では、タイプ C の TVN の使用頻度が最も高い。

表 3 19 世紀後半のロシアの小説における TVN の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[LED]	0 (0%)	2 (40%)	<b>3 (60.0%)</b>	0 (0%)	5
[PRS]	1 (2.4%)	15 (36.6%)	<b>25 (61.0%)</b>	0 (0%)	41
[OBR]	0 (0%)	7 (29.2%)	<b>17 (70.8%)</b>	0 (0%)	24
[NOV]	1 (2.7%)	9 (25.0%)	<b>26 (72.2%)</b>	0 (0%)	36
[CHE]	1 (9.1%)	2 (9.1%)	<b>20 (81.8%)</b>	0 (0%)	23
[VOS]	1 (3.8%)	8 (30.8%)	<b>16 (61.5%)</b>	1 (3.8%)	26

$$\chi^2 = 5.4822, v = 5, p < 0.975$$

表 4 20 世紀前半のロシアの小説における TVN の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[MAT]	5 (26.3%)	5 (26.3%)	<b>7 (36.8%)</b>	2 (10.5%)	19
[KHO]	17 (27.0%)	10 (15.9%)	<b>27 (42.8%)</b>	9 (14.3%)	63
[MAS]	1 (3.3%)	3 (10.0%)	<b>24 (80.0%)</b>	2 (6.7%)	30
[POD]	13 (12.1%)	43 (40.2%)	<b>47 (43.9%)</b>	4 (3.7%)	107
[KOL]	14 (29.8%)	3 (6.4%)	<b>30 (63.8%)</b>	0 (0%)	47
[PER]	5 (9.8%)	<b>23 (45.1%)</b>	<b>23 (45.1%)</b>	0 (0%)	51

$$\chi^2 = 15.8370. v = 5. p < 0.010$$

表 5 20 世紀後半のロシアの小説における TVN の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[DOK]	3 (12.5%)	8 (33.3%)	<b>13 (54.2%)</b>	0 (0%)	24
[LJU]	17 (11.0%)	43 (27.9%)	<b>92 (59.7%)</b>	2 (1.3%)	154
[RAK]	37 (19.4%)	63 (33.0%)	<b>90 (47.1%)</b>	1 (0.5%)	191
[POS]	15 (15.8%)	19 (20.0%)	<b>61 (64.2%)</b>	0 (0%)	95
[DET]	15 (22.1%)	25 (36.8%)	<b>28 (41.2%)</b>	0 (0%)	68
[SHE]	1 (1.5%)	9 (13.6%)	<b>55 (83.3%)</b>	1 (1.5%)	66

$$\chi^2 = 43.4663. v = 10. p < 0.005$$

以上の表から、19 世紀後半から 20 世紀後半までの全 18 作品において、TVN はタイプ C で最も多く使用されていることがわかる。

次に、上記の結果に関連して、18 作品で用いられている 4 タイプの会話形式の使用頻度見てみよう。

### 5.1.2. ロシアの小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

以下の例文に示すように、4 タイプの会話形式には TVN の他に、TVS も使用されている。

#### タイプ A

(25) *Odnazhdy mat' sprosila ego:*

ある時 母 尋ねた 彼

– *Nu chto, veselo tebe bylo vchera?*

ねえ、ちょっと 楽しい 君 be 動詞過去 昨日 [MAT]

ある時、母親が尋ねた。

「ねえちょっと、昨日、おまえは楽しかったかい」

## タイプ B

- (26) - *Ne toskuj, Mikola, - skazal Platonych.*  
 否 悲しむ ミコラ 言った パラトヌイチ [LJU]  
 「悲しまないで、ミコラ」とプラトヌイチは言った。

## タイプ C

- (27) - *Poslušaj, čto ja khotela tebja - skazala odnazhdy*  
 ねえ 何 私 望んだ 君 言った かつて  
*babushka, - Zachem ty opjat' v shukolu postupil?*  
 祖母 なぜ 君 再び へ 学校 入学した [OBR]  
 「ねえ、私はおまえに何を言いたかったかという、なぜおまえは学校に戻ったんだい？」と私の祖母は再び言った。

## タイプ D

- (28) *Pered smert'ju ona skazala: Esli ja vyzdoroveju, vy zhenites'*  
 前 死 彼女 言った もし 私 回復する あなた 結婚  
*na mne?" - "Čestnoe slovo, zbehjus", - otvetil Ivan Il'ich.*  
 と 私 本当に 結婚する 答えた イヴァン イリチ [KHO]

亡くなる前に、彼女は言った。「私がよくなったら、結婚してもらえますか?」「もちろん、私は結婚するつもりです」とイワン・イリイチは答えた。

19世紀後半から20世紀後半にかけてのロシアの小説の4タイプの会話形式の使用頻度をまとめると、表6、表7、表8になる。各表は次のように構成されている。左端の縦のコラムは小説のタイトルを示す。列のアルファベットは以下のことを示している。'A':AWがCWの前にある。「B」:AWがCWの後にある。「C」:AWがCWとCWの間にある。「D」:CWがAWとAWの間にある。使用頻度が最も高いところを太字で示す。例えば、「Prestuplenie i nakazanie (罪と罰)」[PRS]では、タイプAが14回(2.7%)、タイプBが267回(52.5%)、タイプCが227回(44.6%)使用されている。タイプDは1回(0.2%)使用されている。この作品では、タイプBの使用頻度が最も高い。

表 6 19 世紀後半のロシアの小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[LED]	8 (5.4%)	<b>103 (69.1%)</b>	38 (25.5%)	0 (0%)	149
[PRS]	14 (2.7%)	<b>267 (52.5%)</b>	227 (44.6%)	1 (0.2%)	509
[OBR]	2 (0.5%)	182 (45.4%)	<b>217 (54.1%)</b>	0 (0%)	401
[NOV]	14 (4.2%)	119 (36.0%)	<b>196 (59.2%)</b>	2 (0.6%)	331
[CHE]	14 (14.9%)	16 (17.0%)	<b>62 (66.0%)</b>	2 (2.1%)	94
[VOS]	28 (4.2%)	<b>411 (62.1%)</b>	222 (33.5%)	1 (0.2%)	662

$$\chi^2 = 169.4721. v = 10. p < 0.005$$

表 7 20 世紀前半のロシアの小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[MAT]	<b>298 (42.3%)</b>	257 (36.5%)	146 (20.7%)	3 (0.4%)	704
[KHO]	<b>502 (48.7%)</b>	259 (25.1%)	258 (25.1%)	11 (1.1%)	1030
[MAS]	88 (20.6%)	133 (31.1%)	<b>200 (46.8%)</b>	6 (1.4%)	427
[POD]	72 (19.8%)	<b>194 (53.4%)</b>	94 (25.9%)	3 (0.8%)	363
[KOL]	49 (20.5%)	66 (27.6%)	<b>124 (51.9%)</b>	0 (0%)	239
[PER]	132 (21.4%)	<b>276 (44.8%)</b>	206 (33.4%)	2 (0.3%)	616

$$\chi^2 = 350.1222. v = 10. p < 0.005$$

表 8 20 世紀後半のロシアの小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[DOK]	115 (30.2%)	108 (28.4%)	<b>156 (41.1%)</b>	1 (0.3%)	380
[LJU]	255 (28.7%)	<b>372 (41.8%)</b>	259 (29.1%)	3 (0.3%)	889
[RAK]	173 (26.9%)	204 (31.7%)	<b>265 (41.1%)</b>	2 (0.3%)	644
[POS]	114 (22.3%)	121 (23.7%)	<b>274 (53.6%)</b>	2 (4%)	511
[DET]	62 (26.5%)	45 (19.2%)	<b>127 (54.3%)</b>	0 (0%)	234
[SHE]	49 (14.9%)	70 (21.3%)	<b>209 (63.7%)</b>	0 (0%)	328

$$\chi^2 = 134.6670. v = 10. p < 0.005$$

これらの表から分かるように、ロシアの文学作品において最も多く用いられた会話形式のタイプを列挙すると、タイプ A が 2 作品 ([MAT], [KHO]), タイプ B が 6 作品 ([LED], [PRS], [VOS], [POD], [PER], [LJU]), タイプ C が 10 作品 ([OBR], [NOV], [CHE], [MAS], [KOL], [DOK], [RAK], [POS], [DET], [SHE]) である。タイプ D が最も多く使われている作品はない。

以上の結果を踏まえ、18 作品の中で最も使用頻度の高い会話形式と TVN の使用頻度が最も高い会話形式との関係をまとめたものが表 9 である。(表中のアルファベットは会話形式のタイプを示す。)

表9 ロシアの小説で最も頻繁に使用される会話形式と TVN が最も頻繁に使用される会話形式

	最も頻繁に使用される会話形式	TVN を最も頻繁に使用する会話形式
[LED]	B	C
[PRS]	B	C
[OBR]	C	C
[NOV]	C	C
[CHE]	C	C
[VOS]	B	C
[MAT]	A	C
[KHO]	A	C
[MAS]	C	C
[POD]	B	C
[KOL]	C	C
[PER]	B	B, C
[DOK]	C	C
[LJU]	B	C
[RAK]	C	C
[POS]	C	C
[DET]	C	C
[SHE]	C	C

表9から以下のことが明らかになった。

10 作品 ([OBR], [NOV], [CHE], [MAS], [KOL], [DOK], [RAK], [POS], [DET], [SHE]) では、使用頻度の最も高い会話形式 (タイプ C) と TVN の使用頻度が最も高い会話形式 (タイプ C) が一致している。一方、7 作品 ([LED], [PRS], [VOS], [MAT], [KHO], [POD], [LJU]) では、最も使用頻度の高い会話形式 (タイプ A またはタイプ B) と TVN の使用頻度が最も高い会話形式 (タイプ C) が一致していない。[PER] だけが、使用頻度の最も高い会話形式 (タイプ B) と TVN の使用頻度が最も高い会話形式 (タイプ B とタイプ C) が一致している場合と一致していない場合の両方を兼ね備えている。いずれにしても 18 作品において TVN が最も使用頻度の高い会話形式はすべて、タイプ C であると言える。言い換えれば、ロシアの小説では、最もよく使われる会話形式がどのタイプであっても、TVN が最もよく使われる会話形式はタイプ C である可能性が高い。次に、TVN と日本の小説における 4 タイプを見てみよう。

## 5.2. 日本の小説における TVN の使用頻度と 4 タイプの会話形式

### 5.2.1. 日本の小説における TVN の使用頻度

19 世紀後半から 20 世紀後半にかけての日本の小説の 4 タイプの会話形式の使用頻度をまとめると、表 10、表 11、表 12 になる。各表は次のように構成されている。行は小説のタイトルを示す。列のアルファベットは以下のことを示している。'A': AW が CW の前にある。「B」: AW が CW の後にある。「C」: AW が CW と CW の間にある。「D」: AW と AW の間に CW がある。TVN の使用頻度が最も高いところを太字で示す。例えば、『浮雲』[UKI] (表 10 参照) では、タイプ A では TVN が 43 回 (25.0%)、タイプ B では TVN が 49 回 (28.5%)、タイプ C では TVN が 41 回 (23.8%)、タイプ D では TVN が 39 回 (22.7%) 使用されている。この作品では、タイプ B の TVN の使用頻度が最も高い。

表 10 19 世紀後半の日本の小説における TVN の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[UKI]	43 (25.0%)	<b>49 (28.5%)</b>	41 (23.8%)	39 (22.7%)	172
[GOJ]	3 (3.4%)	6 (6.9%)	9 (10.3%)	<b>69 (79.3%)</b>	87
[KON]	<b>170 (98.3%)</b>	1 (0.6%)	0 (0%)	2 (1.1%)	173
[HOT]	<b>58 (72.5%)</b>	8 (10.0%)	9 (11.3%)	5 (6.3%)	80

$$\chi^2 = 405.8897. v = 9. p < 0.005$$

表 11 20 世紀前半の日本の小説における TVN の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[KOY]	14 (31.1%)	<b>18 (40.0%)</b>	4 (8.9%)	9 (20.0%)	45
[ARA]	7 (7.8%)	<b>42 (46.7%)</b>	24 (26.7%)	17 (18.9%)	90
[DAI]	<b>74 (96.1%)</b>	0 (0%)	1 (1.3%)	2 (2.6%)	77
[ARU]	13 (14.6%)	3 (3.4%)	5 (5.6%)	<b>68 (76.4%)</b>	89
[UMI]	1 (4.2%)	<b>17 (70.8%)</b>	4 (16.7%)	2 (8.3%)	24
[YOA]	16 (28.6%)	15 (26.8%)	8 (14.3%)	<b>17 (30.4%)</b>	56
[SAS]	3 (4.1%)	17 (23.0%)	12 (16.2%)	<b>42 (56.8%)</b>	74
[MIY]	<b>98 (53.3%)</b>	13 (7.1%)	12 (6.5%)	61 (33.2%)	184
[SHA]	9 (10.8%)	4 (4.8%)	14 (16.9%)	<b>56 (67.5%)</b>	83
[FUR]	<b>105 (76.6%)</b>	11 (8.0%)	17 (12.4%)	4 (3.0%)	137

$$\chi^2 = 496.2759. v = 27. p < 0.005$$

表 12 20 世紀後半の日本の小説における TVN の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[HAR]	6 (9.7%)	1 (1.6%)	2 (3.2%)	<b>53 (85.5%)</b>	62
[AKA]	23 (24.5%)	7 (7.4%)	<b>56 (59.6%)</b>	8 (8.5%)	94
[KOT]	32 (14.3%)	<b>87 (38.9%)</b>	86 (38.4%)	19 (8.5%)	224
[HIK]	<b>177 (70.8%)</b>	31 (12.4%)	24 (9.6%)	18 (7.2%)	250
[KOK]	23 (37.7%)	0 (0%)	2 (3.3%)	<b>36 (59.0%)</b>	61
[ORO]	15 (31.3%)	1 (2.1%)	1 (2.1%)	<b>31 (64.6%)</b>	48
[KAT]	<b>117 (68.0%)</b>	33 (19.2%)	17 (9.9%)	5 (2.9%)	172
[NAM]	22 (17.3%)	<b>58 (45.7%)</b>	12 (9.4%)	35 (27.6%)	127
[IJN]	2 (2.9%)	<b>37 (52.9%)</b>	9 (12.9%)	22 (31.4%)	70

$$\chi^2 = 790.7658. v = 24. p < 0.005$$

これらの表から次のことが言える。

7 作品 ([KON], [HOT], [DAI], [MIY], [FUR], [HIK], [KAT]) では、タイプ A の TVN の使用頻度が最も高い。7 作品 ([UKI], [KOY], [ARA], [UMI], [KOT], [NAM], [IJN]) では、タイプ B の TVN の使用頻度が最も高い。8 作品 ([GOJ], [ARU], [YOA], [SAS], [SHA], [HAR], [KOK], [ORO]) では、タイプ D の TVN が最も頻繁に使用される。1 作品 ([AKA]) だけが、タイプ C の TVN が最も多く使用されている。以上のように、日本の小説では TVN がどれか一つのタイプの会話形式に偏って用いられるという傾向はない。

次に、上記の結果を考慮しながら、23 作品で用いられている 4 タイプの会話形式の使用頻度を見てみよう。

### 5.2.2. 日本の小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

以下の例文に示すように、4 タイプの会話形式には TVN の他に、TVS も使用されている。

#### タイプ A

(29) 昭子は大声を出して、「ママ、よして！」 [KOK]

#### タイプ B

(30) 「隠岐の島は、いいところですか」と節子は訊いた。 [NAM]

#### タイプ C

(31) 「私は津川玄三という者です」と青年があいそよく云った、「あな



たの来るのを待っていたんですよ」 [AKA]

#### タイプ D

(32) 藤田さんはいつものお優しい顔で、「驚いたでしょう。どうしたのですか」とお尋ねになる。 [SHA]

19 世紀後半から 20 世紀後半にかけての日本の小説の 4 タイプの会話形式の使用頻度をまとめると、表 13、表 14、表 15 になる。各表は次のように構成されている。左端の縦のコラムは小説のタイトルを示す。列のアルファベットは以下のことを示している。'A':AW が CW の前にある。「B」:AW が CW の後にある。「C」:AW が CW と CW の間にある。「D」:CW が AW と AW の間にある。。使用頻度が最も高いところを太字で示す。例えば、「浮雲」【UKI】(表 13 参照)では、タイプ A が 54 回 (17.9%)、タイプ B が 107 回 (35.4%)、タイプ C が 57 回 (18.9%)、タイプ D は 84 回 (27.8%) 使用されている。この作品では、タイプ B の使用頻度が最も高い。

表 13 19 世紀後半の日本の小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[UKI]	54 (17.9%)	<b>107 (35.4%)</b>	57 (18.9%)	84 (27.8%)	302
[GOJ]	4 (2.1%)	14 (7.3%)	25 (13.0%)	<b>149 (77.6%)</b>	192
[KON]	<b>201 (96.6%)</b>	3 (1.4%)	1 (0.5%)	3 (1.4%)	208
[HOT]	<b>65 (58.0%)</b>	24 (21.4%)	9 (8.0%)	14 (12.5%)	112

$$\chi^2 = 612.2662. v = 9. p < 0.005$$

表 14 20 世紀前半の日本の小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[KOY]	15 (15.2%)	<b>61 (61.6%)</b>	5 (5.1%)	18 (18.2%)	99
[ARA]	11 (6.5%)	<b>96 (56.8%)</b>	33 (19.5%)	29 (17.2%)	169
[DAI]	<b>106 (91.4%)</b>	1 (0.9%)	2 (1.7%)	7 (6.0%)	116
[ARU]	25 (9.7%)	42 (16.3%)	11 (4.3%)	<b>179 (69.6%)</b>	257
[UMI]	6 (5.2%)	<b>89 (77.4%)</b>	4 (3.5%)	16 (13.9%)	115
[YOA]	27 (12.7%)	<b>111 (52.1%)</b>	35 (16.4%)	40 (18.8%)	213
[SAS]	4 (1.8%)	79 (34.8%)	27 (11.9%)	<b>117 (51.5%)</b>	227
[MIY]	<b>120 (42.1%)</b>	39 (13.7%)	23 (8.1%)	103 (36.1%)	285
[SHA]	10 (4.1%)	57 (23.6%)	44 (18.2%)	<b>131 (54.1%)</b>	242
[FUR]	<b>169 (68.1%)</b>	46 (18.5%)	26 (10.5%)	7 (2.8%)	248

$$\chi^2 = 1047.9639. v = 27. p < 0.005$$

表 15 20 世紀後半の日本の小説における 4 タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
[HAR]	8 (4.8%)	14 (8.4%)	5 (3.0%)	<b>140 (83.8%)</b>	167
[AKA]	39 (6.4%)	49 (8.0%)	<b>485 (79.6%)</b>	36 (5.9%)	609
[KOT]	39 (7.9%)	<b>257 (52.3%)</b>	160 (32.6%)	35 (7.1%)	491
[HIK]	<b>223 (56.3%)</b>	112 (28.3%)	31 (7.8%)	30 (7.6%)	396
[KOK]	41 (31.8%)	4 (3.1%)	6 (4.7%)	<b>78 (60.5%)</b>	129
[ORO]	56 (35.7%)	6 (3.8%)	9 (5.7%)	<b>86 (54.8%)</b>	157
[KAT]	<b>212 (60.2%)</b>	91 (25.9%)	31 (8.8%)	18 (5.1%)	352
[NAM]	25 (5.2%)	<b>343 (71.2%)</b>	25 (5.2%)	89 (18.5%)	482
[IJN]	2 (1.0%)	<b>101 (49.8%)</b>	47 (23.2%)	53 (26.1%)	203

$$\chi^2 = 2638.0324. \nu = 24. p < 0.005$$

表 13, 表 14, 表 15 からわかるように, 日本の文学作品において最も多く用いられた会話形式のタイプを列挙すると, タイプ A が 7 作品 ([KON], [HOT], [DAI], [MIY], [FUR], [HIK], [KAT]), タイプ B が 8 作品 ([UKI], [KOY], [ARA], [UMI], [YOA], [KOT], [NAM], [IJN]), タイプ D が 7 作品 ([GOJ], [ARU], [SAS], [SHA], [HAR], [KOK], [ORO]), タイプ C が 1 作品 ([AKA]) である。

以上を踏まえ, 23 作品の中で最も使用頻度の高い会話形式と TVN の使用頻度が最も高い会話形式との関係を次のページの表 16 にまとめた。(表中のアルファベットは会話形式のタイプを示す。)

次ページの表 16 が示すように, 22 作品 ([UKI], [GOJ], [KON], [HOT], [KOY], [ARA], [DAI], [ARU], [UMI], [SAS], [MIY], [SHA], [FUR], [HAR], [AKA], [KOT], [HIK], [KOK], [ORO], [KAT], [NAM], [IJN]) において最も頻繁に使用される会話形式と, TVN が最も頻繁に使用される会話形式は一致する。一致しないのは, 1 作品 ([YOA]) だけである。

言い換えれば, 最も多く使用される会話形式で TVN も多く用いられる。つまり, 日本の文学作品での TVN は特定の会話形式に偏って用いられるのではなく, 頻繁に用いられる会話形式に付随して用いられる。

### 5.3. まとめ

会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度を比較すると, ロシアの小説では TVN はタイプ C に集中的に出現するが, 日本の小説では TVN は特定のタイプの会話形式に偏って現れるのではなく, 最も頻繁に使用される会

表 16 日本の小説で最も頻繁に使用される会話形式と TVN が最も頻繁に使用される会話形式

	最も頻繁に使用される会話形式	TVN を最も頻繁に使用する会話形式
[UKI]	B	B
[GOJ]	D	D
[KON]	A	A
[HOT]	A	A
[KOY]	B	B
[ARA]	B	B
[DAI]	A	A
[ARU]	D	D
[UMI]	B	B
[YOA]	B	D
[SAS]	D	D
[MIY]	A	A
[SHA]	D	D
[FUR]	A	A
[HAR]	D	D
[AKA]	C	C
[KOT]	B	B
[HIK]	A	A
[KOK]	D	D
[ORO]	D	D
[KAT]	A	A
[NAM]	B	B
[IJN]	B	B

話形式に応じて、様々なタイプの会話形式と呼応する。

以上、TVN の使用頻度と会話形式の関係を分析した。次に、TVN の動詞の語彙的意味とロシアと日本の小説における会話形式の関係を調べてみよう。

#### 5.4. TVN の語彙的意味と 4 タイプの会話形式

本稿の分析資料で使用されている TVN における述語動詞の語彙分類すると以下の 8 グループに分かれた。分類に当たっては、T. Tsunoda (1985) が典型的な他動詞を定義するときを使用した項目に追加修正を行った。各グループを使用頻度の高かった動詞を例に挙げながら見てみよう。(例は、ロシア語／日本語)

a) 表情 (usmekhnut'sja 「笑う」, smorshchit'sja 「嚙める」, vzdokhnut' 「溜

息をつく」／笑う，眉を擧める，微笑む)

- b) 仕草 (obratit'sja 「振り返る」, kivnut'sja 「頷く」, makhnut' rukami 「手を振る」／振り向く，頷く，首を振る，屈む)
- c) 直接的行為 (stuknut' 「ノックする」, podtolknut' 「押す」, vzjat' 「取る」／握る，掴む，取る)
- d) 感情 (serdit'sja 「怒る」, obidet'sja 「悔しがる」, obradovat'sja 「喜ぶ」／怒る，喜ぶ，悲しむ)
- e) 知覚 (posmotret' 「見る」, gljadet' 「眺める」, uvidet' 「目に入る」／見る，見つめる，じっと見る)
- f) 思考 (podumat' 「思う」, reshiti' 「決める」／思う，決心する，悩む)
- g) 移動 (ujti 「去る」, podojti 「近づく」／立ち去る，近づく，やって来る)
- h) 停止 (ostanovit'sja 「止まる」, pomolchat' 「黙る」／立ち止まる，黙る)

#### 5.4.1. ロシアの小説における TVN の語彙的意味と 4 タイプの会話形式

19 世紀後半から 20 世紀後半のロシアの小説における TVN の語彙的意味と 4 タイプの会話表現の関係を，表 17，表 18，表 19 にまとめた。これらの表は以下のように構成されている。左端の縦のコラムは，語彙的意味 [a) 表情／b) 仕草／c) 直接的行為／d) 感情／e) 知覚／f) 思考／g) 移動／h) 停止] を表す。列のアルファベットは次のことを表している。「A」：AW が CW の前にある。「B」：AW が CW の後にある。「C」：AW が CW と CW の間にある。「D」：CW が AW と AW の間にある。TVN の使用頻度が最も高いところを太字で示す。例えば，表 17 のタイプ B では，「a) 表情」を意味する TVN が 7 回 (16.3%)，「b) 仕草」を意味する TVN が 22 回 (51.2%)，「c) 直接的行為」を意味する TVN が 1 回 (2.3%)，「d) 感情」を意味する TVN が 3 回 (7.0%)，「e) 知覚」を意味する TVN が 5 回 (11.6%)，「f) 思考」を意味する TVN が 2 回 (4.7%)，「h) 停止」を意味する TVN が 3 回 (7.0%) 使用され，「g) 運動」を意味する TVN は使用されていない。この場合，「b) 仕草」を意味する TVN の使用頻度が最も高い。

表 17 19 世紀後半のロシアの小説における語彙の意味に基づく TVN の使用頻度 [a) 表情, b) 仕草, c) 直接的行為, d) 感情, e) 知覚, f) 思考, g) 移動, h) 停止]

	A	B	C	D
a	0 (0%)	7 (16.3%)	25 (23.4%)	0 (0%)
b	1 (25.0%)	<b>22 (51.2%)</b>	<b>46 (43.0%)</b>	0 (0%)
c	0 (0%)	1 (2.3%)	11 (10.3%)	0 (0%)
d	0 (0%)	3 (7.0%)	6 (5.6%)	0 (0%)
e	2 (50.0%)	5 (11.6%)	6 (5.6%)	0 (0%)
f	0 (0%)	2 (4.7%)	8 (7.5%)	0 (0%)
g	1 (25.0%)	0 (0%)	1 (0.9%)	1 (100%)
h	0 (0%)	3 (7.0%)	4 (3.7%)	0 (0%)
総数	4	43	107	1

$$\chi^2 = 1.6715. v = 2. p < 0.975$$

表 18 20 世紀前半のロシアの小説における語彙の意味に基づく TVN の使用頻度 [a) 表情, b) 仕草, c) 直接的行為, d) 感情, e) 知覚, f) 思考, g) 移動, h) 停止]

	A	B	C	D
a	16 (29.1%)	<b>34 (39.1%)</b>	50 (31.7%)	0 (0%)
b	<b>17 (30.9%)</b>	20 (23.0%)	<b>51 (32.3%)</b>	7 (41.2%)
c	7 (12.7%)	12 (13.8%)	21 (13.3%)	4 (23.5%)
d	4 (7.3%)	9 (10.3%)	14 (8.9%)	1 (5.9%)
e	8 (14.5%)	7 (8.1%)	12 (7.6%)	0 (0%)
f	0 (0%)	1 (1.1%)	1 (0.6%)	0 (0%)
g	2 (3.6%)	3 (3.5%)	7 (4.4%)	4 (23.5%)
h	1 (1.8%)	0 (0%)	2 (1.3%)	1 (5.9%)
その他	0 (0%)	1 (1.1%)	0 (0%)	0 (0%)
総数	55	87	158	17

$$\chi^2 = 8.4937. v = 10. p < 0.975$$

表 19 20 世紀後半のロシアの小説における語彙の意味に基づく TVN の使用頻度 [a) 表情, b) 仕草, c) 直接的行為, d) 感情, e) 知覚, f) 思考, g) 移動, h) 停止]

	A	B	C	D
a	22 (25.0%)	41 (24.6%)	73 (21.5%)	0 (0%)
b	<b>38 (39.8%)</b>	<b>43 (25.7%)</b>	<b>111 (32.7%)</b>	2 (50.0%)
c	5 (5.7%)	26 (15.6%)	38 (11.2%)	0 (0%)
d	10 (11.4%)	22 (13.2%)	46 (13.6%)	0 (0%)
e	4 (4.5%)	8 (4.8%)	28 (8.3%)	0 (0%)
f	4 (4.5%)	18 (10.8%)	26 (7.7%)	1 (25.0%)
g	4 (4.5%)	6 (3.6%)	13 (3.8%)	0 (0%)
h	0 (0%)	3 (1.8%)	4 (1.2%)	1 (25.0%)
その他	1 (1.1%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
総数	88	167	339	4

$$\chi^2 = 18.6868. v = 10. p < 0.05$$

表 17, 表 18, 表 19 から, 以下のことが明らかとなった。

**タイプ A:**

19 世紀後半の TVN の総数は非常に少ないため, その使用傾向を明確に指摘することはできない。20 世紀前半から 20 世紀後半までの TVN の使用頻度を見ると, 「仕草」を意味する TVN が最も多く使用されている。そして, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用頻度は全体の約 60% になる。

**タイプ B:**

19 世紀後半には「仕草」を意味する TVN が最も多く使用され, 20 世紀前半には「表情」を意味する TVN が最も多く使用されている。20 世紀後半には, 「表情」を意味する TVN と「仕草」を意味する TVN が同レベルで最もよく使われている。19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用頻度は全体の 50% を超えている。

**タイプ C:**

19 世紀後半と 20 世紀後半には, 「仕草」を意味する TVN が最も多く用いられている。20 世紀前半には, 「表情」を意味する TVN と「仕草」を意味する TVN が同レベルで最もよく使われている。19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用頻度は全体の 50% を超えている。

**タイプ D:**

TVN の用例の総数が非常に少ないため, このタイプの TVN の使用傾向を指摘することはできない。

上述のことを要約すると, 以下の例文が示すように, タイプ A, タイプ B, およびタイプ C は「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用が際立っていると言える。

**タイプ A**

(33) *Lapshin makbnul rukoj:*

ラブシン 振った 手

– *Dajte otdyshat'sjal'*

させて 息をする

[KOL]

ラブシンは手を振った。「息をさせてください！」

(34) *Ignatij podnjaj glaza:*

イグナチウス 上げた 目

- *Kogo?*

誰

[LJU]

イグナチウスは目を上げた。「誰を？」

### タイプ B

(35) - *Ved' vot zadacha! - obratilsja on k Raskolnikov.*

つまりこれ 任務 向いた 彼 に ラスコルニコフ [PRS]

「つまり、これが任務だ！」彼はラスコルニコフの方を向いた。

(36) - *Spasibo na dobrom slove! - ulybnulas' ona emu.*

ありがとうに 優しい 言葉 微笑んだ 彼女 彼 [MAT]

「優しいお言葉をありがとうございます！」彼女は彼に微笑んだ。

### タイプ C

(37) - *Nu chto zhe, - pozhal plechami Kirill, - v svoem dome steny*

何というか すくめた 両肩 キリル で 自分の家 壁

*pomogajut.*

助ける

[PER]

「何というか」キリルは肩をすくめました。「自分の家では壁も助けてくれる」

(38) - *Nikto ne uklonjaetsja, - nakbmurilsja Baulin, - no est'*

誰も 否 遠慮する 眉をひそめた バウリン しかし 有る

*porjadok. Pust' komsomol obusudit.*

秩序 させる コムソモール 審議する

[DET]

「誰も遠慮しない」とバウリンは眉をひそめた。「しかし、秩序は存在する。コムソモールで審議しよう。」

次に、日本の小説における TVN の語彙的意味と 4 タイプの会話表現を見てみよう。

#### 5.4.2. 日本の小説における TVN と 4 タイプの語彙的意味

19世紀後半から20世紀後半の日本の小説における TVN の語彙的意味と 4 タイプの会話表現の関係を、表 20, 表 21, 表 22 にまとめた。これら

の表は以下のように構成されている。左端の縦のコラムは、語彙の意味 [a] 表情 / b) 仕草 / c) 直接的行為 / d) 感情 / e) 知覚 / f) 思考 / g) 移動 / h) 停止] を表す。列のアルファベットは次のことを表している。「A」: AW が CW の前にある。「B」: AW が CW の後にある。「C」: AW が CW と CW の間にある。「D」: AW と AW の間に CW がある。TVN の使用頻度が最も高いところを太字で示す。

例えば、表 20 のタイプ A では、「a) 表情」を意味する TVN が 62 回 (22.6%), 「b) 仕草」を意味する TVN が 83 回 (30.3%), 「c) 直接的行為」を意味する TVN が 47 回 (17.2%), 「d) 感情」を意味する TVN が 17 回 (6.2%), 「e) 知覚」を意味する TVN が 40 回 (14.6%), 「f) 思考」を意味する TVN が 14 回 (5.1%), 「g) 移動」を意味する TVN は 11 回 (4.0%) 使用されている。「h) 停止」を意味する TVN は使用されていない。この場合、「b) 仕草」を意味する TVN の使用頻度が最も高い。

表 20 19 世紀後半の日本の小説における語彙の意味に基づく TVN の使用頻度 [a) 表情, b) 仕草, c) 直接的行為, d) 感情, e) 知覚, f) 思考, g) 移動, h) 停止]

	A	B	C	D
a	62 (22.6%)	<b>19 (29.7%)</b>	15 (25.4%)	28 (24.3%)
b	<b>83 (30.3%)</b>	18 (28.1%)	<b>18 (30.5%)</b>	<b>31 (27.0%)</b>
c	47 (17.2%)	10 (15.6%)	8 (13.6%)	24 (20.9%)
d	17 (6.2%)	1 (1.6%)	5 (8.5%)	11 (9.6%)
e	40 (14.6%)	10 (15.6%)	5 (8.5%)	5 (4.3%)
f	14 (5.1%)	3 (4.7%)	3 (5.1%)	1 (0.9%)
g	11 (4.0%)	3 (4.7%)	5 (8.5%)	15 (13.0%)
h	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
総数	274	64	59	115

$$\chi^2 = 28.21712. v = 18. p < 0.975$$

表 21 20 世紀前半の日本の小説における語彙の意味に基づく TVN の使用頻度 [a) 表情, b) 仕草, c) 直接的行為, d) 感情, e) 知覚, f) 思考, g) 移動, h) 停止]

	A	B	C	D
a	61 (17.9%)	36 (25.7%)	26 (25.7%)	42 (15.1%)
b	<b>124 (36.5%)</b>	<b>38 (27.1%)</b>	<b>33 (32.7%)</b>	<b>93 (33.5%)</b>
c	49 (14.4%)	25 (17.9%)	18 (17.8%)	55 (19.8%)
d	20 (5.9%)	6 (4.3%)	7 (6.9%)	12 (4.3%)
e	34 (10.0%)	7 (5.0%)	6 (5.9%)	32 (11.5%)
f	9 (2.6%)	21 (15.0%)	4 (4.0%)	13 (4.7%)
g	39 (11.5%)	7 (5.0%)	6 (5.9%)	31 (11.2%)
h	4 (1.2%)	0 (0%)	1 (1.0%)	0 (0%)
総数	340	140	101	278

$$\chi^2 = 34.5141. v = 18. p < 0.050$$



表 22 20 世紀後半の日本の小説における語彙的意味に基づく TVN の使用頻度  
 [a) 表情, b) 仕草, c) 直接的行為, d) 感情, e) 知覚, f) 思考, g) 移動, h) 停止]

	A	B	C	D
a	<b>102 (24.5%)</b>	58 (22.7%)	45 (21.5%)	45 (19.8%)
b	99 (23.7%)	<b>76 (29.8%)</b>	<b>86 (41.1%)</b>	<b>67 (29.5%)</b>
c	76 (18.2%)	42 (16.5%)	21 (10.0%)	41 (18.1%)
d	18 (4.3%)	24 (9.4%)	11 (5.3%)	7 (3.1%)
e	53 (12.7%)	21 (8.2%)	21 (10.0%)	21 (9.3%)
f	27 (6.5%)	15 (5.9%)	14 (6.7%)	11 (4.8%)
g	39 (9.4%)	15 (5.9%)	6 (2.9%)	34 (15.0%)
h	3 (0.7%)	4 (1.6%)	5 (2.4%)	1 (0.4%)
総数	417	255	209	227

$$\chi^2 = 65.9215, v = 21, p < 0.005$$

表 20, 表 21, 表 22 から, 以下のことが言える。

#### タイプ A:

19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて, 「仕草」を意味する TVN が最も頻繁に使用されている。20 世紀後半には, 「表情」と「仕草」を意味する TVN の使用頻度が同レベルで最も高い。19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用率は合わせて全体の約 50% を占める。

#### タイプ B:

19 世紀後半から 20 世紀前半にかけて, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用頻度が同程度に高い。20 世紀後半では, 「仕草」を意味する TVN が最もよく使われている。19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用率は合わせて全体の 50% を超えている。

#### タイプ C:

19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて, 「仕草」を意味する TVN の使用頻度が最も高い。19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用率は合わせて全体の 50% を超えている。

#### タイプ D:

19 世紀後半には, 「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用頻度がほぼ同じで最も高い。20 世紀前半から後半にかけて, 「仕草」を意味する

TVN の使用率が最も高い。19 世紀後半から 20 世紀後半にかけて、「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用率は合わせて全体の約 50% を占めている。

以上を要約すると、次の例文が示すように、タイプ A、タイプ B、タイプ C、およびタイプ D は、「仕草」と「表情」を意味する TVN の使用が際立っている。

#### タイプ A

(39) 運転手は私を振り返り、「先生、こっちにいたんですか」 [KAT]

(40) 孝雄は眉をひそめて、「あいつがそんなことを言ったのか」 [HIK]

#### タイプ B

(41) 「違う、違う」と、母は激しく首を振った。 [KAT]

(42) 「姉上になんの罪が」と、武蔵は目を潤ませた。 [MIY]

#### タイプ C

(43) 「いいえ」と、お作は赤い顔をして、「何かが変だと思っていました」

[ARA]

(44) 「違います」と、小野は顔いて「女は案外我慢強いです」 [ARA]

#### タイプ D

(45) 看護婦が蒲団の端に座り、「何？」と私に顔を寄せた。 [SHA]

(46) 女が顔を出し、「いらっしゃい」とにこりと笑った。 [SHA]

### 5.5. まとめ

TVN の語彙的意味とロシアと日本の 4 タイプの会話形式の関係を比較した結果、「表情」と「仕草」を意味する TVN が両言語のすべての会話形式で頻繁に使用されていることが明らかになった。

## 6. 考察

本稿が行った分析結果を要約すると、以下のようになる。

1) ロシアの小説では TVN はタイプ C に集中的に出現するが、日本の小説では TVN は特定のタイプの会話形式に偏って出現せず、TVN の使

用は最も頻繁に使用される会話形式に依存する。

2)「表情」と「仕草」を意味する TVN は、ロシア語と日本語のすべての会話形式で頻繁に使用される。

この事実から浮かび上がってくる疑問は、なぜ TVN とタイプ C の関係がロシア語と日本語で異なるのかということである。その理由を考えてみよう。

### 6.1. ロシア語の TVN とタイプ C の会話形式

これまで見てきたように、ロシアの小説ではタイプ C の会話形式で「仕草」と「表情」を意味する TVN が TVN の典型的な使用法である。タイプ C が他の3タイプ（タイプ A, タイプ B, タイプ D）と決定的に異なる特徴は CW が2つあるという点である。AW が CW の間に挟まっていることから、タイプ C の会話形式は、登場人物が「話し続ける」ことを強調した会話形式である。一般に、人間は会話中に別の行為に集中することは困難である。例えば、「会話しながら数学をする」「会話しながら患者を手術する」「会話しながら敵を狙撃する」などは事実上不可能であり、会話しながら実行できる行為は比較的軽い行為に限られる。このため、タイプ C に「表情」や「しぐさ」を意味する動詞が多く使われるのは当然と考えられる。

B.A. Uspenskij (1995, p.21) の言葉を借りれば、「文学作品における芸術的空間は、作者、登場人物、読者とといった複数の視点の相互作用の結果」である。小説では、作者は物語が進めるうえで読者の注意を引こうとする。その工夫のひとつが会話表現である。これに関連して、TVN が読者に与える影響について考えてみよう。登場人物が「話し続ける」ことを前提とした会話形式において、作者が AW で使用した「発話を意味する動詞」は読者に強い印象を与えない。これは、赤い壁に赤い絵がかかっていると、絵に対する見る人の注目度合いが弱くなってしまふのと同じである。しかし、赤い壁に青い絵がかかると、見る人にその絵の印象が強く残る。「発話を意味しない動詞」を含む TVN を使用した場合の効果は、赤い壁と青い絵の関係と類似している。

ここで、小説における TVS と TVN の例をいくつか示そう。例文 (47) の AW は、ストルペルが「話している」ことを示すだけであり、焦点はストルペルの姿ではなく、話す内容にある。このため、読者の注意はスト

ルベルの発言だけに集中する。

(47) – *Ne takie ljudi stanovilis' vragami partii, – skazal Stolper.*  
 否 そんな 人々 なった 敵 党 言った ストルベル

– *Poslushaem Pankratova.*  
 聞く パンクラトフ [DET]

「そのような人々は党の敵にはならなかった」とストルベル氏は語った。「パンクラトフを聞きましょう」

しかし、例文 (48) と例文 (49) の AW は、発話内容だけでなく、ストルベルの表情 (skrivil guby (唇をすぼめた), usmekhnulsja (ニヤリとした)) にも言及しているため、読者は臨場感を感じる。

(48) – *U nego net dannykh! – Stolper skrivil guby. – Pankratov*  
 に 彼 無い 所与のこと ストルベル すぼめた 唇 パンクラトフ

*vystupaet protiv marksizma v nauke.*  
 行なっている 対して マルクス主義 で 学問 [DET]

「彼にはそれらが無い！」ストルベルは唇をすぼめた。「パンクラトフは学問におけるマルクス主義に反対している。」

(49) – *Nichego sebe organizatsija, – usmekhnulsja Stolper, – ne sluchajno*  
 驚きだ 組織 ニヤリと笑った ストルベル 否 偶然

*vas obvodjat vokrug pal'tsa.*  
 あなた 愚かだ [DET]

「すごい組織だね」ストルベルはにっこり笑った。「あなたがだまされているのは偶然ではありません。」

上述のことに関連して、他の研究者 (N.S. Volgina (1979), V.L. Rinberg (1987), I.A. Mel'chuk (1995)) は、TVN の AW の動詞に顕著な感情的なニュアンスがあることを指摘している。さらに、タイプ C を含む会話形式のテキスト機能については、多くの研究者が言及している：「expressive nuances」(V.V. Vinogradov, 1959), 「theatricality」(A. Wierzbicka, 1974), 「subjectification of the narrative」(I.B. Golub, 1989), 「figure」(M. Kitajo, 2014, 2019)。作家たちはこうした TVN とタイプ C の特徴を小説の中で巧みに利用している。

## 6.2. TVNと日本語のタイプCの会話形式

上述したロシアの小説におけるTVNとタイプCの特徴を考慮すると、日本の小説においてもタイプCのTVNが重点的に使用されるはずであるが、現実はそうではない。日本の小説では、TVNが特定のタイプの会話形式で偏って現れることはない。言い換えれば、日本の小説におけるTVNはタイプCに固執していない。日本の作家のタイプCに対する認識は、ロシアの作家とは根本的に異なっているようだ。

このことを探るために、既出の23作品に分析対象の小説を増やし合計で72作品（表23を参照）における4タイプ会話形式の使用頻度を見てみよう。各表の作品の冒頭のアルファベットは作品の略称を表している。

表23 19世紀後半から20世紀後半までの日本の小説72作品

[UKI] 浮雲（第1編）（二葉亭四迷, 1889）
[MAI] 舞姫（森鷗外, 1890）
[SAN] 山椒大夫（森鷗外, 1915）
[TAK] 高瀬舟（森鷗外, 1916）
[GOJ] 五重塔（幸田露伴, 1892）
[KON] 金色夜叉（尾崎紅葉, 1897）
[HOT] 不如婦（徳富蘆花, 1899）
[KOY] 高野聖（泉鏡花, 1900）
[FUT] 蒲団（田山花袋, 1907）
[ARA] 新所帯（徳田秋声, 1908）
[DAI] 大菩薩峠（甲源一刀流の巻）（中里介山, 1913）
[KOKO] ころも（上）（夏目漱石, 1914）
[ARU] 或る女（有島武郎, 1919）
[ANY] 暗夜行路（志賀直哉, 1921）
[JIG] 地獄変（芥川龍之介, 1918）
[TOS] 杜子春（芥川龍之介, 1920）
[KAP] 河童（芥川龍之介, 1927）
[SHI] 真珠婦人（護りの騎士）（菊池寛, 1920）
[UMI] 海に生きる人々（葉山嘉樹, 1926）
[SHA] 上海（横光利一, 1928）
[KAN] 蟹工船（小林多喜二, 1929）
[YOA] 夜明け前（島崎藤村, 1929）
[KAZ] 風の又三郎（宮沢賢治, 1934）
[SOB] 蒼氓（石川達三, 1935）
[SAS] 細雪（上巻）（谷崎潤一郎, 1936）
[BOK] 溼東綺譚（永井荷風, 1937）
[KAZE] 風立ちぬ（堀辰雄, 1938）
[MIY] 宮本武蔵（地の巻）（吉川英治, 1939）

[MEO]	夫婦善哉 (織田作之助, 1940)
[ROB]	路傍の石 (山本有三, 1940)
[SHA]	斜陽 (太宰治, 1947)
[FUR]	不連続殺人事件 (坂口安吾, 1948)
[UKIG]	浮雲 (林芙美子, 1951)
[OTO]	お父さん (林芙美子, 1977)
[HOR]	放浪記 (林芙美子, 1928)
[HAN]	花と龍 (火野葦平, 1952)
[NIJ]	二十四の瞳 (壺井栄, 1952)
[YON]	四十八人目の男 (大佛次郎, 1952)
[HAR]	春の城 (阿川弘之, 1952)
[BAR]	薔薇販売人 (吉行淳之介, 1950)
[GEN]	原色の街 (吉行淳之介, 1951)
[SHU]	驟雨 (吉行淳之介, 1954)
[TAD]	漂う部屋 (吉行淳之介, 1955)
[NAT]	夏の休暇 (吉行淳之介, 1955)
[KIN]	金閣寺 (三島由紀夫, 1956)
[UMIT]	海と毒薬 (遠藤周作, 1957)
[HANA]	花のれん (山崎豊子, 1958)
[AKA]	赤ひげ診療譚 (山本周五郎, 1958)
[KAI]	海辺の光景 (安岡章太郎, 1959)
[FUK]	梟の城 (司馬遼太郎, 1958)
[ONN]	女坂 (円地文子, 1961)
[SUN]	砂の女 (安部公房, 1962)
[MOE]	燃えつきた地図 (安部公房, 1967)
[KOT]	古都 (川端康成, 1962)
[HIK]	光る海 (石坂洋次郎, 1963)
[KAS]	花芯 (瀬戸内晴美, 1965)
[RIN]	輪環 (瀬戸内晴美, 1974)
[KOK]	恍惚の人 (有吉佐和子, 1972)
[ORO]	おろしや国酔夢譚 (井上靖, 1974)
[KAT]	火宅の人 (上) (檀一雄, 1975)
[TAR]	太郎物語 (大学編) (曾野綾子, 1976)
[GAR]	ガラスの城 (松本清張, 1976)
[JIK]	事件 (大岡昇平, 1977)
[AIS]	哀愁の町に霧が降るのだ (下) (椎名誠, 1982)
[SOR]	空の怪物アゲイー (大江健三郎, 1964)
[ATA]	新しい人よ眼覚めよ (1-3) (大江健三郎, 1983)
[NAM]	波の暦 (水上勉, 1985)
[NOR]	ノルウェーの森 (村上春樹, 1987)
[IJN]	異人たちの夏 (山田太一, 1991)
[KOTE]	湖底の森 (高橋のぶ子, 1993)
[GEK]	月光の東 (宮本輝, 1998)
[KAR]	カラフル (森絵都, 1998)

19世紀後半から20世紀後半までの上述の72作品における4タイプの会話形式に関するTVSとTVNを含むすべてのデータを表24にまとめた。この表は、次のように構成されている。左端の縦の列は小説のタイトルを示す。列のアルファベットは以下のことを示している。「A」：AWがCWの前にある。「B」：AWがCWの後にある。「C」：AWがCWとCWの間にある。「D」：CWがAWとAWの間にある。使用頻度が最も高いところを太字で示す。例えば、「浮雲」【UKI】では、タイプAが54回(17.9%)、タイプBが107回(35.4%)、タイプCが57回(18.9%)、タイプDは84回(27.8%)使用されている。この作品では、タイプBの使用頻度が最も高い。

表24 日本の小説72作品における4タイプの会話形式の使用頻度

	A	B	C	D	総数
【UKI】	54 (17.9%)	<b>107 (35.4%)</b>	57 (18.9%)	84 (27.8%)	302
【MAI】	0 (0%)	1 (6.7%)	6 (40.0%)	<b>8 (53.3%)</b>	15
【SAN】	0 (0%)	<b>15 (53.6%)</b>	1 (3.6%)	12 (42.8%)	28
【TAK】	0 (0%)	4 (40.0%)	0 (0%)	<b>6 (60.0%)</b>	10
【GOJ】	4 (2.1%)	14 (7.3%)	25 (13.0%)	<b>149 (77.6%)</b>	192
【KON】	<b>201 (96.6%)</b>	3 (1.4%)	1 (0.5%)	3 (1.4%)	208
【HOT】	<b>65 (58.0%)</b>	24 (21.4%)	9 (8.0%)	14 (12.5%)	112
【KOY】	15 (15.2%)	<b>61 (61.6%)</b>	5 (5.1%)	18 (18.2%)	99
【FUT】	19 (30.1%)	<b>28 (44.4%)</b>	9 (14.3%)	7 (11.1%)	63
【ARA】	11 (6.5%)	<b>96 (56.8%)</b>	33 (19.5%)	29 (17.2%)	169
【DAI】	<b>106 (91.4%)</b>	1 (0.9%)	2 (1.7%)	7 (6.0%)	116
【KOKO】	0 (0%)	44 (44.0%)	10 (10.0%)	<b>46 (46.0%)</b>	100
【ARU】	25 (9.7%)	42 (16.3%)	11 (4.3%)	<b>179 (69.6%)</b>	257
【ANY】	0 (0%)	<b>252 (56.2%)</b>	42 (9.4%)	154 (34.4%)	448
【JIG】	6 (17.6%)	4 (11.8%)	3 (8.8%)	<b>21 (61.8%)</b>	34
【TOS】	1 (6.7%)	2 (13.3%)	0 (0%)	<b>12 (80.0%)</b>	15
【KAP】	1 (4.8%)	1 (4.8%)	0 (0%)	<b>19 (90.4%)</b>	21
【SHI】	10 (10.7%)	<b>66 (71.0%)</b>	7 (7.5%)	10 (10.8%)	93
【UMI】	6 (5.2%)	<b>89 (77.4%)</b>	4 (3.5%)	16 (13.9%)	115
【SHA】	1 (0.7%)	<b>120 (86.3%)</b>	0 (0%)	18 (12.9%)	139
【KAN】	6 (8.7%)	13 (18.8%)	2 (2.9%)	<b>48 (69.6%)</b>	69
【YOA】	27 (12.7%)	<b>111 (52.1%)</b>	35 (16.4%)	40 (18.8%)	213
【KAZ】	5 (6.3%)	26 (32.9%)	3 (3.8%)	<b>45 (57.0%)</b>	79
【SOB】	1 (0.5%)	<b>129 (71.3%)</b>	9 (5.0%)	42 (23.2%)	181
【SAS】	4 (1.8%)	79 (34.8%)	27 (11.9%)	<b>117 (51.5%)</b>	227
【BOK】	17 (23.6%)	<b>25 (34.7%)</b>	9 (12.5%)	21 (29.2%)	72
【KAZE】	4 (9.5%)	<b>24 (57.1%)</b>	2 (4.8%)	12 (28.6%)	42

[MIY]	<b>120 (42.1%)</b>	39 (13.7%)	23 (8.1%)	103 (36.1%)	285
[MEO]	3 (5.9%)	9 (17.6%)	3 (5.9%)	<b>36 (70.6%)</b>	51
[ROB]	8 (8.6%)	25 (26.9%)	1 (1.1%)	<b>59 (63.4%)</b>	93
[SHA]	10 (4.1%)	57 (23.6%)	44 (18.2%)	<b>131 (54.1%)</b>	242
[FUR]	<b>169 (68.1%)</b>	46 (18.5%)	26 (10.5%)	7 (2.8%)	248
[UKIG]	3 (15%)	<b>9 (45.0%)</b>	2 (10.0%)	6 (30.0%)	20
[OTO]	1 (1.5%)	14 (21.2%)	6 (9.0%)	<b>45 (68.2%)</b>	66
[HOR]	<b>21 (58.3%)</b>	4 (11.1%)	0 (0%)	11 (30.6%)	36
[HAN]	<b>175 (34.3%)</b>	130 (25.5%)	46 (9.0%)	159 (31.2%)	510
[NIJ]	<b>135 (82.3%)</b>	0 (0%)	1 (0.6%)	28 (17.1%)	164
[YON]	29 (5.5%)	<b>321 (60.4%)</b>	121 (22.8%)	60 (11.3%)	531
[HAR]	8 (4.8%)	14 (8.4%)	5 (3.0%)	<b>140 (83.8%)</b>	167
[BAR]	0 (0%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	<b>4 (50.0%)</b>	8
[GEN]	3 (6.2%)	16 (33.3%)	5 (10.4%)	<b>24 (50.0%)</b>	48
[SHU]	2 (8.3%)	2 (8.3%)	3 (12.5%)	<b>17 (70.8%)</b>	24
[TAD]	2 (9.5%)	4 (19.0%)	2 (9.5%)	<b>13 (61.9%)</b>	21
[NAT]	1 (4.3%)	10 (43.5%)	2 (8.7%)	<b>10 (43.5%)</b>	23
[KIN]	0 (0%)	28 (29.2%)	30 (31.2%)	<b>38 (39.6%)</b>	96
[UMIT]	10 (14.7%)	<b>44 (64.7%)</b>	2 (2.9%)	12 (17.6%)	68
[HANA]	<b>102 (48.8%)</b>	19 (9.0%)	15 (7.2%)	73 (34.9%)	209
[AKA]	39 (6.4%)	49 (8.0%)	<b>485 (79.6%)</b>	36 (5.9%)	609
[KAI]	0 (0%)	50 (42.4%)	4 (3.4%)	<b>64 (54.2%)</b>	118
[FUK]	<b>160 (69.0%)</b>	18 (7.7%)	0 (0%)	54 (23.3%)	232
[ONN]	2 (1.3%)	66 (43.7%)	11 (7.3%)	<b>72 (47.7%)</b>	151
[SUN]	<b>20 (76.9%)</b>	0 (0%)	6 (23.1%)	0 (0%)	26
[MOE]	<b>95 (77.9%)</b>	11 (9.0%)	14 (11.5%)	2 (1.6%)	122
[KOT]	39 (7.9%)	<b>257 (52.3%)</b>	160 (32.6%)	35 (7.1%)	491
[HIK]	<b>223 (56.3%)</b>	112 (28.3%)	31 (7.8%)	30 (7.6%)	396
[KAS]	7 (29.2%)	1 (4.2%)	2 (8.3%)	<b>14 (58.3%)</b>	24
[RIN]	6 (10.7%)	1 (1.8%)	2 (3.6%)	<b>47 (83.9%)</b>	56
[KOK]	41 (31.8%)	4 (3.1%)	6 (4.7%)	<b>78 (60.5%)</b>	129
[ORO]	56 (35.7%)	6 (3.8%)	9 (5.7%)	<b>86 (54.8%)</b>	157
[KAT]	<b>212 (60.2%)</b>	91 (25.9%)	31 (8.8%)	18 (5.1%)	352
[TAR]	3 (2.7%)	27 (24.8%)	1 (0.9%)	<b>78 (71.6%)</b>	109
[GAR]	6 (4.2%)	<b>99 (70.2%)</b>	5 (3.5%)	31 (22.0%)	141
[JIK]	0 (0%)	<b>93 (48.9%)</b>	10 (5.3%)	87 (45.8%)	190
[AIS]	1 (0.2%)	<b>310 (60.8%)</b>	7 (1.4%)	192 (37.6%)	510
[SOR]	2 (5.5%)	<b>23 (63.9%)</b>	1 (2.8%)	10 (27.8%)	36
[ATA]	1 (4.0%)	11 (44.0%)	0 (0%)	<b>13 (52.0%)</b>	25
[NAM]	25 (5.2%)	<b>343 (71.2%)</b>	25 (5.2%)	89 (18.5%)	482
[NOR]	20 (4.1%)	<b>276 (56.3%)</b>	160 (32.7%)	34 (6.9%)	490
[IJN]	2 (1.0%)	<b>101 (49.8%)</b>	47 (23.2%)	53 (26.1%)	203
[KOTE]	6 (5.5%)	<b>51 (47.2%)</b>	2 (1.8%)	49 (45.4%)	108
[GEK]	19 (5.9%)	102 (31.6%)	10 (3.1%)	<b>192 (59.4%)</b>	323
[KAR]	20 (29.8%)	20 (29.8%)	1 (1.5%)	<b>26 (38.8%)</b>	67



表 24 から明らかなように、72 作品における最も多く用いられる会話タイプを作品の数で列記すると、以下のようになる。

タイプ A:14 作品 ([KON], [HOT], [DAI], [MIY], [FUR], [HOR], [HAN], [NIJ], [HANA], [FUK], [SUN], [MOE], [HIK], [KAT])

タイプ B:25 作品 ([UKI], [SAN], [KOY], [FUT], [ARA], [ANY], [SHI], [UMI], [SHA], [YOA], [SOB], [BOK], [KAZE], [UKIG], [YON], [UMIT], [KOT], [GAR], [JIK], [AIS], [SOR], [NAM], [NOR], [IJN], [KOTE])

タイプ C:1 作品 ([AKA])

タイプ D:32 作品 ([MAI], [TAK], [GOJ], [KOKO], [ARU], [JIG], [TOS], [KAP], [KAN], [KAZ], [SAS], [MEO], [ROB], [SHA], [OTO], [HAR], [BAR], [GEN], [SHU], [TAD], [NAT], [KIN], [KAI], [ONN], [KAS], [RIN], [KOK], [ORO], [TAR], [ATA], [GEK], [KAR])

これらのことを、まとめると表 25 のようになる。

表 25 日本の小説における最も頻繁に用いられた会話形式とその作品数

会話形式	A	B	C	D	総数
作品数	14 (19.4%)	25 (34.7%)	1 (1.4%)	32 (44.4%)	72

この表が示すように、19 世紀後半から 20 世紀後半までの 72 作品のうち、タイプ C が他のどのタイプよりも多く使用された作品は 1 作品だけである。この数字は他のタイプ（タイプ A は 14 作品、タイプ B は 25 作品、タイプ D は 32 作品）と比べて驚くほど低い。日本の小説ではタイプ C は使用することは使用するが、決して頻繁に用いようとはしない傾向が見て取れる。

理論的には、TVN はタイプ C と密接に関連している。しかし、基本的にタイプ C を積極的に使用しない日本の小説では、タイプ C での TVN の使用が顕著になることは少ない。TVN とタイプ C の関係は蟻と蜂蜜の関係に似ている。蟻がたくさん徘徊している場所に蜂蜜を置くと蟻が蜂蜜に集まってくるが、蜂蜜がなければ、蟻は群れの流れにただ従う。タイプ C を強く認識するロシア語では、タイプ C で TVN が集中的に使用されるが、タイプ C の認識が弱い日本語では、頻繁に使用される会話形式に付随して TVN が使用されると思われる。

## 7. 結び

本稿は、従来の研究では不十分であったロシアと日本の小説における会話形式の特徴を TVN の観点から明らかにした。本稿は2つの分析基準を提案した：1) 4タイプの会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度，2) 語彙的意味分類に応じた4タイプの会話形式の使用頻度と TVN の使用頻度。

そして、分析の結果、以下のことが明らかになった。

1) ロシアの小説では TVN はタイプ C の会話形式で集中的に出現するが、日本の小説では TVN は特定のタイプの会話形式に偏って現れることはなく、最も頻繁に使用される会話形式に付随して用いられる。

2) 「表情」と「仕草」を意味する TVN は、ロシアと日本の小説のあらゆる会話形式で頻繁に使用される。

3) 理論的には、TVN とタイプ C は密接な関係にあるが、ロシアの作家と日本人の作家のタイプ C の会話形式に対する認識の違いにより、タイプ C での TVN の現れ方が異なる。

## 参考文献

- Baranov A.N., Krejdlin G.E. (1992) Struktura dialogicheskogo teksta: leksicheskie pokazateli minimal'nykh dialogov [Structure of the dialogical text: lexical parameters of the minimal dialogues] *Voprosy jazykoznanija* 3, 84-93.
- Bel'chikov Yu.A. (1990) Ellipsis // *Lingvisticheskij entsiklopedicheskij slovar'* [Linguistic encyclopedic dictionary]. Moskva.
- Bonheim H. (1982) *The Narrative Modes: Techniques of the Short Story*. Cambridge: D. S. Brewer.
- Burov A.A. (1983) Glagoly vvoda pryamoj rechi v khudozhestvennom tekste [verbs introducing direct speech in the literary text] // *Russkij yazyk v shkole*. No2. pp.85-87.
- Byrka M.G. (1986) Ellipsis glagolov govoreniya v predlozhenii I realizatsiya okh funktsii glagolami inykh leksicheskikh grupp [Ellipsis of speaking verbs in a sentence and the implementation of their function by verbs of other lexical groups] // *Funktsial'no-semanticheskij aspekt yazykovykh edinit raznykh urovnej (romano-germanskaya filologiya)* [Functional and semantic aspect of linguistic units of different levels (Romano-Germanic philology)]. Kishnev.
- Chirkova N.I. (1992) *Reprezentatsiya dialoga v khudozhestvennom prozaicheskom tekste: (na materiale romanov I.A. Goncharova "Obyknovennaya istoriya", "Oblomov", "Obryv")* [Representation of dialogue in fictional prose text: (based on the novels by I.A. Goncharov "An Ordinary History", "Oblomov", "Break")]. Avtoref. dis... kand. filol. nauk [Abstract of dissertation for the degree of candidate of philology]. SPb.
- Fujita Y. (2000) *Kokugoinyokoubun no kenkyu* [A study of Japanese citation construction] Izumishoin. Osaka.

- Golub I.B. (1989) Grammaticheskaja stilistika sovremennogo russkogo jazyka [Grammatical stylistics of modern Russian language]. Moskva.
- Kitajo M. (1994) Tekstovye kharakteristiki dvukh tipov konstruksij prjamoj rechi. [Text characteristics of two types of direct speech constructions] // Russkij jazyk za rubezhom. № 6. 67-71.
- Kitajo M. (2014) Vidovye sinonimichnye formy russkikh deeprichastij i prichastij v khudozhestvennom tekste [Certain aspectually synonymous forms of Russian converbs and participles in literary texts] V kn. Titarenko O. Ja. (ed): Tipologija vida / aspekta: problemy, poiski, reshenija. Simferopol'. 30-48.
- Kitajo M. (2019) Analiz vidov glagola i deeprichastija v russkikh literaturnykh tekstakh s diakhronicheskoj točki zrenija [Analysis of aspects of verb and converb in the Russian literary works from the diachronic point of view]. Acta Linguistica Petropolitana. Vol. 15.3, 320-342
- Kitajo M. (2020) Analiz konstruksii prjamoj rechi s točki zrenija lingvistiki teksta i kontseptsii semanticheskoy perekhodnosti [Analysis of the structure of direct speech from the point of view of text linguistics and the concept of semantic transitivity]. The American scholarly journal Cross-Cultural Studies: Education and Science (CCS&ES) Vol.5, Issue 3, 133-145.
- Lacaze G. (2013) Word order in utterances of direct speech in English: a subtle balance between conventions and innovation. L'ordre des mots dans l'espace de la phrase. 11.1 (2013) E-re. <https://journals.openedition.org/erea/3406>
- Levin V.D. (1960) Pryamaya, kosvennaya i nesobstvenno-pryamaya rech' [Direct, indirect and improperly direct speech] // Grammatika resskogo jazyka [Russian grammar]. Tom II, Ch.2. Moskva.
- Mel'chuk I.A. (1995) Russian Direct Speech Sentences wuth Verbs of Emotion. In Russkij jazyk v modeli "Smysl-Tekst". pp.215-234. Moskau-Wien.
- Milykh M.K. (1962) Konstruksii s pryamoj rech'yu v sovremennom russkom yazyke [Constructions with direct speech in modern Russian]. Avtoref. dis... dokt. filol. nauk [Abstract of the dissertation for the degree of Doctor of Philology]. Leningrad.
- Okutsu K. (1970) Inyokobun to kansetsukatenkei [Citation structure and indirect transformation]. Gengokenkyu 56,1-26.
- Rinberg V.L. (1987) Konst.ruksii chuzhoj rech' v sisteme svyaznogo teksta v sovremennom russkom yazyke [Structures of someone else's speech in the system of coherent text in modern Russian]. L'vov.
- Shumilov N.F. (1959) Stilisticheskie funktsii avtorskikh slov v konstruksiyakh s pryamoj rech'yu [Stylistic functions of author's words in constructions with direct speech] // Russkij jazyk v shkole. No.2. pp.36-38.
- Sunagawa Y. (1989) Inyo to waho [Quotes and narratives]. (Kitahara Y. (ed.)) Kozanihongo to kyoiku 4 [Course Japanese and Education 4] Meijishoin. Tokyo.
- Teramura H. (1981) Nihongo no bunpo (ge) [Japanese grammar (II)]. Okurasyo insatsukyoku. Tokyo.
- Tsunoda T. (1985) Remarks on transitivity // Journal of Linguistics 21. pp.385-396.
- Umantseva L.V. (1980) Leksiko-grammaticheskie svoystva glagolov i glagol'nykh

slovosochetaniy, vvodyashchikh pryamuyu rech' [Lexico-grammatical properties of verbs and verb phrases that introduce direct speech]. Avtoref. dis... kand. filol. nauk [Abstract of dissertation for the degree of candidate of philology]. Moskva.

Uspenskij B.A. (1995) Poetika kompozitsii. Struktura khudozhestvennogo teksta i tipologija kompozitsionnoj formy [Poetics of composition. The structure of the artistic text and the typology of the compositional form]. Moskva.

Vinogradov V.V. (1959) O jazykje xudozhjestvennoj litjeratury [About the language of literature]. Moskva.

Volgina N.S. (1979) Sintaksis sovremennogo russkogo yazyka [Syntax of the modern Russian language]. Vysshaya shkola. Moskva.

Wierzbicka A. (1974) The semantics of direct and indirect discourse. Papers in linguistics 7, 3-4, 267-307.

## 執筆者一覧

**編者** 吉田 和彦 (よしだ かずひこ) 京都産業大学外国語学部客員教授

**執筆者** 加野 まきみ (かの まきみ) 京都産業大学文化学部教授

北上 光志 (きたじょう みつし) 京都産業大学外国語学部教授

島 憲男 (しま のりお) 京都産業大学外国語学部教授

鈴木 孝明 (すずき たかあき) 京都産業大学外国語学部教授

森 博達 (もり ひろみち) 京都産業大学名誉教授

本書は、京都産業大学出版助成金を受けて出版された。

---

## ことばの不思議：日本語と世界の言語

令和6年3月31日 初版発行

編者 吉田和彦

発行 松香堂書店

京都市上京区西大路町 146

email: shoukadoh@nacos.com

印刷 中西印刷株式会社

定価：本体 2,200 円 + 税

ISBN 978-4-87974-791-4 C3081

(C)Kazuhiko Yoshida 2024 All rights reserved.